

逗子市の地域福祉に関する市民意識調査
報告書

令和4年3月

逗子市

目 次

《第1部 調査結果の概要》	3
《第2部 市民アンケート調査》	
第I章 調査の概要等	19
1 調査の目的	19
2 調査の方法	19
3 回収結果	19
4 本書の見方	19
第II章 調査の結果	23
1 回答者属性	23
2 地域での生活について ①近所との関わりについて	27
3 地域での生活について ②災害に備えて	33
4 地域での生活について ③困りごとについて	37
5 地域での活動について	40
6 逗子市社会福祉協議会について	45
7 地域の福祉制度と取組みについて ①権利擁護	49
8 地域の福祉制度と取組みについて ②生活困窮対策	54
9 地域の福祉制度と取組みについて ③地域包括ケア	56
10 地域の福祉制度と取組みについて ④全体について	59
《第3部 関係団体等ヒアリング調査》	
第I章 調査の概要等	79
1 調査の目的	79
2 調査実施の方法	79
第II章 調査結果のまとめ	83
1 団体が抱えている課題	83
2 他団体との連携の現状と今後の方向性	84
3 団体がコロナ禍により受けた活動への影響	85
4 団体が把握している地域福祉課題	86
《資料編》	

《第 1 部 調査結果の概要》

1 回答者属性

- 性別は、男性が43.0%、女性が53.1%、前回調査と比較すると、男性の割合が増加している。
- 年齢は65歳以上が約4割、前回調査と比較すると80歳以上の割合が増加している。
- 職業は「会社員・公務員」、「自営業」、「パート・アルバイトなど」の仕事をしている方が約5割、「無職」あるいは「家事専業」の就業していない方が約4割となっている。
- 世帯構成は「二世帯世帯（親と子）」が4割台後半、小坪小学校で「ひとり暮らし」の割合がやや高くなっている。
- 同居家族は、65歳以上の高齢者と同居している方が3割台半ばと多くなっている。
- 居住年数は「30年以上」が3割台半ば、池子小学校区で「30年以上」の割合が高くなっている。

- 回答者の構成をみると、前回よりやや男性の割合が増し、80歳以上の高齢者の割合が高くなっています。
- 仕事をしている方が約5割、就業していない方が約4割で、世帯構成は二世帯世帯が4割台後半を占めます。
- 65歳以上の高齢者と同居している方が3割台半ばと多く、居住年数は30年以上の方が多くなっています。

2 地域での生活について ①近所との関わり

- 日ごろの近所づきあいは、年齢が低い層ほど「会えばあいさつをかわす」「つきあいがほとんどない」の割合が高く、近所づきあいが希薄な傾向がみられる。
- 近所づきあいが希薄な理由は、近所づきあいをするきっかけがないことが最も多くあげられている。
- 近所づきあいについての考え方は、前回調査と比較すると、「いざという時のために、顔や名前は知っておきたい」「近所づきあいは大事と思うが、どちらかというとあまりしたくない」の割合が増加する一方、「何か問題が起こったときに助け合えるよう、心がけていたい」は減少している。
- 近所の手助けが必要な人にできることは、50歳代以下で「いざという時に助ける」、30～40歳代や三世帯世帯で「日常の見守りや声掛け」の割合が高くなっている。

- 近所の人に手助けしてほしいことは、40歳代で「留守中の家族の見守り」、70歳代で「買い物やごみ出しなどの代行」、80歳以上で「日常の見守りや声掛け」「外出の手助け」などの割合がやや高くなっている。
- 地域での助け合い推進のためにできることは、40歳代以下で「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」、50歳代以上や久木小学校区で「日ごろから近所とのつながりを持つように心がける」の割合が高くなっている。
- 居住地域で気になっていることは、10・20歳代を除き、「災害などの緊急時の対応に不安がある」の割合が最も高くなっているものの、80歳以上では「近所に買い物ができる場所がない・少ない」、30歳代以下と70歳以上で「気軽に集まれる場が少ない」、60～70歳代で「地域や世代間の交流が十分でない」、60歳以上で「ひとり暮らし高齢者の見守り体制に不安がある」がやや高いなど、年代別の特徴がみられる。
- 地域の困りごとの解決方法に関する考え方は、「市と地域の住民が協力し、困りごとなどを解決していくのがよい」の割合が4割台前半と高くなっている。また、10・20歳代を除き、年齢が高い層ほど「できるだけ市や近所の人に頼らず、困りごとなどは自分で解決していくのがよい」「地域の住民が互いに協力し、困りごとなどを解決していくのがよい」が高くなっている。
- 近所に困りごとを抱えている人がいるかどうかは、「いる」が1割台半ば、「いない」が2割台半ばで、「わからない・判断できない」が5割台後半と多くなっている。
- 困りごとを抱えている人がどのような人かでは、「ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人」の割合が4割台後半、「高齢や障がい・病気により介護が必要な人」が約3割と高くなっている。

- 年齢が低い層ほど近所づきあいが希薄な傾向であり、近所づきあいが希薄な理由としては、つきあいをするきっかけがないことをあげる方が多くなっています。
- 近所づきあいの考え方は、前回調査と比較すると、やや密なつきあいを避ける傾向にあるものの、いざという時の助け合いや日常の見守りや声掛けに関しては、多くの方が関心を持っています。また、近隣とのつながりや地域の出来事に関心を持つこと、住民同士の助け合いの意識の醸成についても前向きな意見が多くなっています。
- 地域で気になっていることは、災害時対応への不安、買い物環境の不満のほか、地域・世代間交流が不十分、集いの場の不足などが多くあげられています。
- 困りごとの解決には、市と地域住民の協力が重要との意識が強いものの、近所に困っている人がいるかどうかは、多くの方がわからない・判断できない状況にあります。

3 地域での生活について ②災害に備えて

- 災害時に備えて避難路や避難方法を確認しているかどうかでは、「確認している」が約6割となっており、40歳代と70歳代、夫婦のみ世帯で6割台後半、逗子、久木小学校区で6割台半ばと高くなっている。
- 災害時に自分や家族だけで避難できるかどうかは、前回調査と比較すると、「自力で避難できると思う」の割合が大きく減少し、「わからない」「自力では避難できないと思う」が増加している。
- 自力で避難できないと思う理由は、「家族の状況（高齢者、障がい者、乳幼児などがある）により自力では難しい」が5割台半ば、「自身の身体状況などにより自力では難しい」が約3割、「避難地・避難所がわからない」が2割となっている。
- 避難行動要支援者避難支援制度の認知度は、「知っていた」が1割台前半、「知らなかった」が8割台半ばとなっている。認知度は、女性や30歳代で高くなっているのに対し、男性や10・20歳代、池子小学校区でやや低くなっている。
- 災害発生時に避難行動要支援者に対してできることは、「安否確認」が約5割、「避難所などへの誘導、移動支援」が3割台半ば、「災害状況や避難、救護などに関する情報提供」が約3割となっている。世帯規模が大きいほど（ひとり暮らし→三世帯世帯）安否確認や移動支援などできることの割合が高く、「できることはない」の割合が低くなる傾向がみられる。
- 災害時に備え、地域住民の情報を自治会等で共有することについては、「災害時など緊急の場合の活用に限定し、情報を共有した方がよい」が5割台前半、「日ごろから地域での見守り活動などのために、情報を共有した方がよい」2割台半ばとなっている。逗子、沼間小学校区で「災害時など緊急の場合の活用に限定し、情報を共有した方がよい」、池子、久木、小坪小学校区で「日ごろから地域での見守り活動などのために、情報を共有した方がよい」が比較的高くなっている。
- 災害に備えて地域で必要な準備は、「高齢者や障がいのある人など、支援を必要とする人たちの把握と支援体制の整備」が約5割、「隣近所での、住民同士の日ごろのつながりと助け合い」が5割となっている。前回調査と比較すると、「隣近所での、住民同士の日ごろのつながりと助け合い」「防災教育・訓練の実施」「隣近所での避難場所や避難方法について、話し合っていて決めておく」などの割合が減少している。

- 災害時の避難路や避難方法は約6割の方が確認しているものの、自力で避難できないと考えている方の割合は、前回調査と比較して増加しています。
- 避難行動要支援者避難支援制度の認知度は1割台前半と低く、中でも男性や10・20歳代、池子小学校区で低くなっています。一方、災害発生時には、

約3割～5割の方が避難行動要支援者に対して安否確認や移動支援、災害状況の情報提供等ができると回答しており、制度の周知とともに、非常時を想定した支援の仕組みづくりを進めていく必要があります。

■災害時を想定した自治会等での住民情報の共有は、災害時など緊急の場合に限定するという考え方が5割台前半と最も支持されているものの、年齢や居住地域、家族構成別でみると、日ごろの地域の見守り活動などのためにも情報共有した方がいいという考え方の割合が高いなど、属性別の特徴がみられます。

■災害に備えて地域で必要な準備としては、支援が必要な人の把握と支援体制整備や、住民同士の日ごろのつながり・助け合いを約5割の方が回答しているものの、前回調査と比較すると、一部の選択肢は回答割合が減少しており、地域における災害への備えの重要性について、改めて啓発を図っていく必要があります。

4 地域での生活について ー③困りごと

○日常生活における悩みや困りごとは、「健康のこと」「老後・将来のこと」が2割台後半、「災害など緊急時の対応」が1割台後半、「収入や家計のこと」が1割台半ばとなっている。年齢別では、30歳代で「子育てのこと」、50～60歳代で「老後・将来のこと」、70歳代以上で「健康のこと」の割合が最も高くなっている。

○悩みや困りごとの相談先は、「身内（家族・親族）」が約7割、「友人・知人」が5割台前半、「行政機関（市・県・保健所など）」が1割台半ばとなっている。おおむね年齢が低い層ほど「身内（家族・親族）」「友人・知人」の割合が高く、年齢が高い層ほど「行政機関（市・県・保健所など）」「医療関係者（医師・看護師など）」「近所の人」「介護事業者（ケアマネジャーなど）」の割合が高い傾向がみられる。

○日常生活へのコロナ禍の影響は、「人と接する機会の減少」が約6割、「趣味の機会の減少」が約3割、「通勤、通学、通院などの移動制限」が1割台半ばとなっている。10・20歳代で「通勤、通学、通院などの移動制限」、70歳代で「趣味の機会の減少」が特に高くなっている。

○その影響がコロナ禍によって深刻になったものか、新たに発生したものかについては、「以前からみられた影響がより深刻になった」が約1割に対し、「ほぼコロナ禍により新しく発生した影響である」が7割台前半と多くなっている。10・20歳代で「ほぼコロナ禍により新しく発生した影響である」の割合が高く、80歳以上やひとり暮らしで「以前からみられた影響がより深刻になった」がやや高くなっている。

- 日常生活の悩みや困りごとは、健康や老後・将来に関することの回答が多く、次いで災害時等の対応、収入や家計、介護等の問題が続きます。
- 困りごとの相談先は、年齢が低い層では身内や友人・知人、年齢が高い層では行政や医療・福祉関係、近所の人等の割合が高い傾向がみられます。
- コロナ禍の影響により、約6割の方が人と接する機会が減少したと回答しており、若い世代では通勤・通学等の制限、高齢者では趣味の機会の減少の割合が高いなど、年齢別の特徴がみられます。

5 地域での活動について

- 地域活動への参加状況は、「参加している」が2割台半ばに対し、「参加していない」が7割台前半となっており、前回調査と比較すると、参加している人の割合が減少している。
- どのような地域活動に参加しているかは、「自治会・町内会」が6割台半ば、「スポーツ活動」が1割台後半となっている。男性で「スポーツ活動」「消防団・自主防災組織」、女性で「PTA」「サロン活動」などの割合が高くなっている。
- 地域活動に参加している理由は、「近所との交流が図れるから」が約4割、「行事や活動の内容に興味や関心があるから」が3割台前半、「いざというときの関係づくりのため」が2割台半ばとなっている。
- コロナ禍における地域活動・行事の再開・自粛については、60歳代以下で「感染症予防対策を十分に行い、対面での活動とオンラインを併用して、再開する」の割合が最も高くなっている。一方、70歳代以上では「感染症予防対策を十分に行い、対面での活動を再開する」が最も高く、「コロナ禍が完全に収束するまで、対面での活動は自粛を継続する」も比較的高くなっている。
- ボランティア活動をしているかどうかは、「一度もしたことがない」が5割台半ば、「以前活動したことがあるが、現在はしていない」が約3割、「現在活動をしている」が約1割となっており、前回調査と比較すると、「現在活動をしている」が微減、「以前活動したことがあるが、現在はしていない」「一度もしたことがない」が微増となっている。
- 参加しているボランティア活動は、「福祉関係（高齢者、障がい者など）の活動」が約2割、「スポーツ・健康づくり関係の活動」が1割台半ば、「自然保護・環境問題関係の活動」と「子ども・子育て関係の活動」がともに1割台前半となっている。
- ボランティア活動の主な活動場所は、「お住まいの地域（自治会・町内会の範囲）」が4割台前半、「市内（自宅、お住まいの地域を除く）」が約4割、「自宅」と「近隣市町（横浜市、鎌倉市、横須賀市、葉山町）」がともに1割台前半となっている。

- ボランティア活動に参加した理由は、「社会貢献のため」が5割台前半、「心身の健康維持のため」が3割台前半、「仲間づくりのため」と「勉強の場・機会として」がともに2割台後半となっている。
- ボランティア活動をしていない理由は、「仕事や家庭の事情」が約4割、「活動を始めるきっかけがない」が約3割、「どのような団体・サークルなどがあるか分からない」が約2割となっている。10・20歳代で「どのような団体・サークルなどがあるか分からない」「一緒に活動する仲間がいない」「関心がない」、30歳代で「活動を始めるきっかけがない」などが高くなっている。

- 4人に1人の方が地域活動に参加していると回答しているものの、前回調査と比較すると、その割合は減少傾向となっています。また、参加している地域活動の内容は、自治会・町内会が最も多くなっています。
- ボランティア活動については、現在活動している方が約1割で、福祉関係やスポーツ・健康づくり等が上位にあげられているものの、地域活動と同様、ボランティア活動している方の割合は減少傾向となっています。
- ボランティア活動に参加したきっかけは、社会貢献、健康維持、仲間づくり、勉強の機会等が上位にあげられています。一方、ボランティア活動をしていない理由は仕事や家庭の事情との回答が約4割で最も多いものの、活動を始めるきっかけがない、どんな団体があるかわからない等の回答も上位にあげられており、活動機会の提供や既存情報の効果的な発信方法を検討していく必要があります。

6 逗子市社会福祉協議会について

- 逗子市社会福祉協議会の認知度は、「知っていた」が4割台後半に対し、「知らなかった」が4割台半ばとなっており、前回調査と比較すると、認知度が低下しています。また、10・20歳代で特に認知度が低くなっています。
- 社会福祉協議会の活動の認知度は、「赤い羽根共同募金」が約5割、「広報紙「さくら貝」発行」が4割台半ば、「高齢者のサロン（集いの場）活動」が約3割となっています。「赤い羽根共同募金」「広報紙「さくら貝」発行」「高齢者のサロン（集いの場）活動」「お互いさまサポーター」などは、80歳以上を除きおおむね年齢が高いほど認知度が高く、「子育て応援紙「陽だまり」」「陽だまりサークル」は30～50歳代で高くなっています。
- 各活動への参加・協力状況（経験）は、「赤い羽根共同募金」が1割台半ば、「高齢者のサロン（集いの場）活動」が2.4%、「お互いさまサポーター」が1.7%となっています。

- 今後参加・協力してみたい活動等は、「フードドライブ（食糧支援）活動」、「お互いさまサポーター」、「高齢者のサロン（集いの場）活動」の順に高くなっています。

- 半数近くの方が逗子市社会福祉協議会を知っていると回答しているものの、知っている方の割合は、前回調査と比較して減少しており、特に若い世代の認知度が低くなっています。
- 社会福祉協議会の活動の認知度は、赤い羽根共同募金、広報紙「さくら貝」、高齢者のサロン活動の順に高く、各活動への参加・協力状況は、赤い羽根共同募金、高齢者のサロン活動、お互いさまサポーターの順となっています。
- 今後参加・協力してみたい活動として、フードドライブ、お互いさまサポーター、高齢者のサロン活動等が上位にあげられているものの、いずれの選択肢も5%以下と低い割合となっており、活動の周知や参加・協力しやすい仕組みを検討していく必要があります。

7 地域の福祉制度と取組みについて ー①権利擁護

- 日常生活自立支援事業（逗子あんしんセンター）の認知度は、「全く知らなかった」が7割台半ば、「名前は聞いたことがある」が1割台前半となっている。「名前は聞いたことがある」以上の回答を合わせた認知度は約2割で、年齢が高い層ほど認知度が高くなっている。
- 必要に応じて日常生活自立支援事業（逗子あんしんセンター）を利用したいと思うかは、「利用したい」が約3割に対し、「利用したくない」が4.8%、「わからない」は5割台後半となっている。70歳以下では、年齢が低い層ほど「利用したい」の割合が高く、小学校区別では池子小学校区で「利用したい」が高くなっている。
- 成年後見制度の認知度は、「知っていたが、利用したことはない」が4割台半ば、「名前は聞いたことがある」が2割台後半、「全く知らなかった」が約2割となっている。「名前は聞いたことがある」以上の回答を合わせた認知度は7割台半ばで、60歳代や夫婦のみ世帯、久木小学校区で認知度が高くなっている。
- 成年後見人に財産管理等を任せることについては、「任せてもよい」が2割台後半、「一部なら任せてもよい」が1割台半ばに対し、「任せたくない」は1割台後半、「わからない」は3割台半ばとなっている。男性や80歳以上、ひとり暮らしで「任せたくない」、女性や50歳、池子小学校区などで「任せてもよい」の割合が高くなっている。

- 成年後見人を任せても良いと思う人は、「家族」が8割台前半、「弁護士などの専門職」が4割台後半、「社会福祉協議会やNPO法人」が1割台後半となっている。「弁護士などの専門職」「社会福祉協議会やNPO法人」は40歳代以下、「家族」は80歳以上で高くなっている。
- 成年後見人に財産管理等を任せたくない理由は、「家庭の中に他人に入ってほしくない」が5割台半ば、「任せても良いと思う人がいない」が約2割、「成年後見人に支払う費用負担が心配」が約1割となっている。
- 虐待に関する通報義務の認知度は、「虐待を受けていると思われる児童」が6割台前半、「高齢者」と「障がいのある人」がともに4割台後半、「配偶者から身体的暴力を受けている人」が5割台半ばとなっている。

- 日常生活自立支援事業（逗子あんしんセンター）は、年齢が高い層ほど認知度が高いものの、全体の認知度は約2割にとどまります。また、将来的に逗子あんしんセンターを利用する意向のある方が約3割に対し、わからないと回答した方が5割台後半と多くなっているため、引き続き情報発信と事業内容の周知が課題となっています。
- 成年後見制度の認知度は7割台半ばとなっており、60歳代や夫婦のみ世帯、久木小学校区で認知度が高くなっています。成年後見人に財産管理等を任せることに関しては、男性や80歳以上、ひとり暮らし等で否定的な回答がやや多く、制度の利用促進とともに関連する各種事業・取組みを含めた支援の環境づくりが重要となっています。
- 虐待に関する通報義務の認知度は、高齢者、障がい者に関してやや低くなっており、引き続き制度の周知を進めていく必要があります。

8 地域の福祉制度と取組みについて ー②生活困窮者支援

- 生活困窮者の問題や支援については、「あなた自身や身近な人に問題を抱える人はいないが、必要な制度であると思う」が約7割、「わからない・判断できない」が1割台半ば、「あなた自身や身近な人に問題を抱える人がいるため、必要な制度であると思う」が7.7%となっている。30～40歳代、小坪小学校区、三世帯世帯で「あなた自身や身近な人に問題を抱える人がいるため、必要な制度であると思う」の割合が高くなっている。
- 生活困窮者の自立支援に向けて市が行うべき支援は、「相談支援窓口の充実」が6割台半ば、「ハローワークなどと連携し仕事をあっせんする」が6割台前半、「職業訓練などの就業支援」が5割台半ばとなっている。10・20歳代と40～60歳代では「ハローワークなどと連携し仕事をあっせんする」、30歳代では「職業訓練などの就業支援」、70歳代以上では「相談支援窓口の充実」の割合が高くなっている。

○**地域で生活困窮者を支援する場合にできることは**、「本人または家族などに相談窓口に行くように促す」が4割台半ば、「市などの専門機関に相談する」が約4割、「フードドライブ（食糧支援）など地域の生活困窮者支援の取り組みに参加する」が約2割となっている。年齢が低い層ほど「フードドライブ（食糧支援）など地域の生活困窮者支援の取り組みに参加する」、年齢が高い層ほど「自治会・町内会や民生委員・児童委員などに相談する」の割合が高くなっている。

- 生活困窮者支援については、7割台後半の方が必要な制度であると認識しており、自身や身近な人に問題を抱える人がいるため必要であると回答した方の割合は、30～40歳代、小坪小学校区、三世帯世帯でやや高くなっています。
- 生活困窮者の自立に向けて市が行うべき支援は、相談支援窓口の充実、ハローワーク等と連携した仕事のあっせん、職業訓練等が上位にあげられています。
- 地域でできる生活困窮者支援として、本人や家族に相談窓口へ行くよう促すことや専門機関に相談すること等が上位にあげられ、フードドライブ等の取り組みは若い世代で、自治会や民生委員等への相談は高齢者層で回答が多い傾向がみられます。

9 地域の福祉制度と取り組みについて —③地域包括ケア

- 地域包括支援センターの認知度**は、「全く知らなかった」が約4割、「知っていたが、利用したことはない」が2割台前半、「名前は聞いたことがある」が約1割となっている。「名前は聞いたことがある」以上の回答を合わせた認知度は5割台後半で、女性や年齢が高い層ほど認知度が高くなっている。
- 地域包括支援センターの相談や問合せ等への対応の満足度**（「とても満足」と「満足」を合わせた『満足』の割合）は、“対応の早さ・速さ”が約6割、“経過や結果等の状況報告”が5割台前半、“専門的な見地からの助言・支援”と“悩みや相談などがしやすい体制”が4割台後半となっている。
- 地域包括支援センターの取り組みが十分だと思うか**（「十分」と「まあ十分」を合わせた『十分』の割合）は、“センターの役割に関する周知活動”と“地域の資源、市の制度や施策などに関する情報の提供”が約4割、“関係者との連携体制の構築の働きかけ”が約3割となっている。

- 地域包括支援センターの認知度は5割台後半となっており、女性や年齢が高い層ほど認知度が高くなっています。地域包括支援センターの対応等についての満足度は、“対応の早さ・速さ”が最も高く、次いで“経過や結果等の状況報告”、“悩みや相談などがしやすい体制”、“専門的な見地からの助言・支援”の順となっています。**

■地域包括支援センターの取り組みが十分かどうかでは、“センターの役割に関する周知活動”で『十分』の割合が最も高く、次いで“地域の資源、市の制度や施策などに関する情報の提供”、“関係者との連携体制の構築の働きかけ”の順となっています。

10 地域の福祉制度と取組みについて ー④全体について

- 市内の福祉に関する情報をどの程度入手できているかは、「入手できている」と「ある程度入手できている」を合わせた『入手できている』が約3割に対し、「あまり入手できていない」と「全く入手できていない」を合わせた『入手できていない』は5割台半ばとなっている。年齢が低い層や池子小学校区、二世帯世帯で『入手できていない』の割合が高くなっている。
- 市内の福祉に関する情報をどこから入手しているかは、「市広報誌『広報ずし』」が約9割、「市社会福祉協議会広報紙『さくら貝』」が3割台半ば、「自治会・町内会の回覧板」が2割台半ばとなっている。全体的に年齢が高い層ほど紙媒体や市の窓口で市内の福祉に関する情報を入手している割合が高くなっている。
- 普段の生活でどのような方法で情報を入手しているかは、「テレビ・ラジオ」が7割台半ば、「新聞・雑誌」が5割台半ば、「ホームページ」が4割台前半となっている。女性で「フリーペーパー・タウン紙」、10・20歳代で「ツイッター（Twitter）」、30～40歳代で「ホームページ」、50歳代以上で「テレビ・ラジオ」が最も高くなっている。
- 関心がある福祉施策は、「健康や医療について」が約7割、「高齢者の福祉について」が6割台半ば、「地域福祉について」と「子育て支援について」がともに5割台前半、「障がい者の福祉について」が約4割となっている。女性で「子育て支援」や「障がい者の福祉」、30歳代以下で「子育て支援」、40～70歳代で「健康や医療」、80歳以上で「高齢者の福祉」が最も高くなっている。
- 関心がある福祉施策の満足度（「満足」の割合）は、「健康や医療」「高齢者福祉」「障がい者の福祉」「子育て支援」「地域福祉」の順となっている。

■福祉に関する情報を『入手できている』方の割合が約3割に対し、『入手できていない』は5割台半ばとなっており、年齢が低い層や池子小学校区、二世帯世帯で『入手できていない』の割合が高くなっています。

■福祉の情報の入手先は、「広報ずし」が約9割と特に高く、社会福祉協議会の広報紙「さくら貝」が3割台半ば、「自治会・町内会の回覧板」が2割台半ばとなっており、全体的に年齢が高い層ほど紙媒体や市の窓口で市内の福祉に関する情報を入手している割合が高くなっています。

■市の推進している5つの福祉施策について、最も関心が高いのは「健康や医療」、次いで「高齢者の福祉」、「地域福祉」、「子育て支援」、「障がい者の福祉」の順となっています。また、各福祉施策の満足度は高いものから「健康や医療」、「高齢者福祉」、「障がい者の福祉」、「子育て支援」、「地域福祉」の順となっています。

11 関係団体等ヒアリング調査の結果からの課題等の概括

「対象団体が抱えている課題」・「団体が把握している地域福祉課題」を中心に、ヒアリング調査の結果からの課題等を、以下に取りまとめます。

課題は、団体としての課題と、それ以外の、団体所属メンバー個々が抱える課題等とに分かれます。まず、前者の“団体としての課題”では、多くの団体でメンバーの高齢化、後継者不足やそれに伴う会員数の減少と、役員のなり手がいないこと等が挙げられました。また、改善のために新規加入を図ろうにも、自治会等の“地縁型団体”・ボランティア団体などの“テーマ型（ソサエティ型）団体”のいずれにおいても「個人情報への壁」に阻まれている現状が示されました。福祉等の法人では、人材が不足しており、その確保が課題となっていることも示されています。

自治会等の活動について知り、参加してもらうのに、地域での清掃・環境美化の行事をきっかけにしたり、「あいさつ運動」を推進したりして地域の中で「顔の見える関係づくり」をもっと進めていくことが提案されています。

所属メンバーの抱える課題を含めた「地域福祉」に関する課題については、生活課題等の複雑化・複合化の進行が指摘されました。また、困っている人は、貧困等で悩む子どもなど多くの場合「困っている」とは言わないことが課題となることも指摘されています。逗子市は、地形が起伏に富み、生活環境等も結構多様であり、課題も複雑・多様であるとの声も示されました。

さらに、防災体制の一層の整備が不可欠であることも言及されましたが、そのための重要なツールになると考えられる「逗子市避難行動要支援者避難支援制度」について、支援対象者1人に対して「サブサポーター」など複数のサポーターが付くといった仕組みの強化等を検討しながら一層の周知、登録の推進を図っていくことが提案されています。

専門的に支援を行う「地域包括支援センター」に関して、制度設計時に本来求められていた、高齢者だけでなく各課題の「総合相談」の機能等が改めて要求される情勢になってきているため、どう対応していくか、市が大きな方向性を考えることが大切になるといった課題も挙げられています。

いずれの課題等の解決・対応に際しても連携・ネットワークの構築・強化が重要になることが言及され、中でもボランティア団体と自治会、保育園等と民生委員児童委員、「住民自治協議会」と民生委員児童委員、「青少年指導員連絡協議会」と「自主防災組織」、「ボランティア連絡協議会」での各ボランティア団体間の連携や多職種連携、「在宅医療・介護」の一層の連携等の重要性が挙げられました。

いわゆる“コロナ禍”については、「子ども食堂」が担ってきた子ども等の「居場所」としての機能や学習指導等ができなくなって途切れてしまったり、保育園の地域での子育て支援の活動の幅・機会が狭まったり、特養ホームの支援ボランティアが来なくなってしまい、その休止期間の間にボランティアの団体が解散するなど、各分野で多大な影響を与えたことが示されました。医療関係の法人では、非常に業務繁忙になりました。反面、保育園で外からの目を気にして慌ただしく子どもたちの行事等での体裁を整えていく必要が無くなり、それにとらわれなくなったといった良い影響も挙げられました。

《第2部 市民アンケート調査》

第 I 章

調査の概要等

1 調査の目的

「地域共生社会」の実現に向けて、市民の近所との関わりや地域での助け合いに関する考え方、市の福祉に関する取り組みへの意見等について調査し、結果を令和5（2023）年度を初年度とする次期「逗子市福祉プラン」「（仮称）逗子市地域福祉推進計画・逗子市地域福祉活動計画」に反映させることを目的とします。

2 調査の方法

- ・調査区域：市内全域
- ・調査対象：18歳以上の市民
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・対象者数：2,000
- ・実施方法：郵送配付一郵送回収法（※下記期間終期近くに、全対象者に「お礼状兼回答勧奨」はがきを送付。）
- ・実施時期：令和3年10月28日～11月24日

3 回収結果

配付数	回収数	無効票(白票)	有効回収数	有効回収率
2,000	1,140	28	1,112	55.6%

4 本書の見方

- 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがあります。
- 表・グラフ中、整数は回答者数（単位：人）を、小数第1位までの数値は百分率（単位：%）を、それぞれ表しています。
- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数（n）として、小数第2位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。
また、nが100に満たない場合は百分率（%）を用いて分析を行うことが統計的に正しくないため、分析は実数を用いて行うことを基本としています。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超えます。
- 年齢等“クロス集計”の表中においては通常、当該項目（年齢など）に関する無回答者がいる関係で、各クロス項目（年齢など）ごとの回答数を足し上げた結果と全体回答者数は、一致しません。

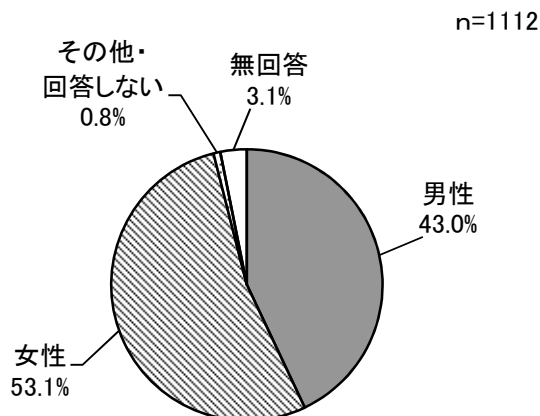
第 Ⅱ 章

調査の結果

1 回答者属性

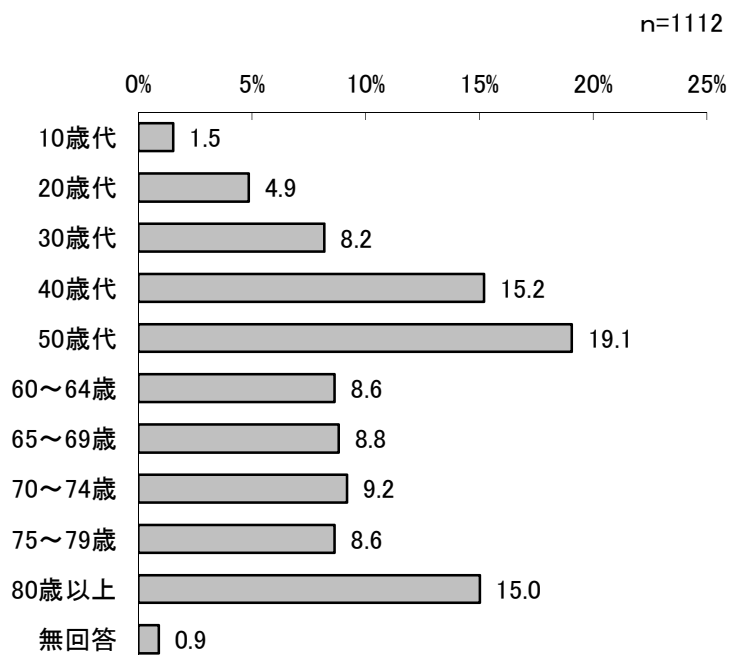
問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

「男性」が43.0%に対し、「女性」が53.1%、「その他・回答しない」が0.8%となっています。



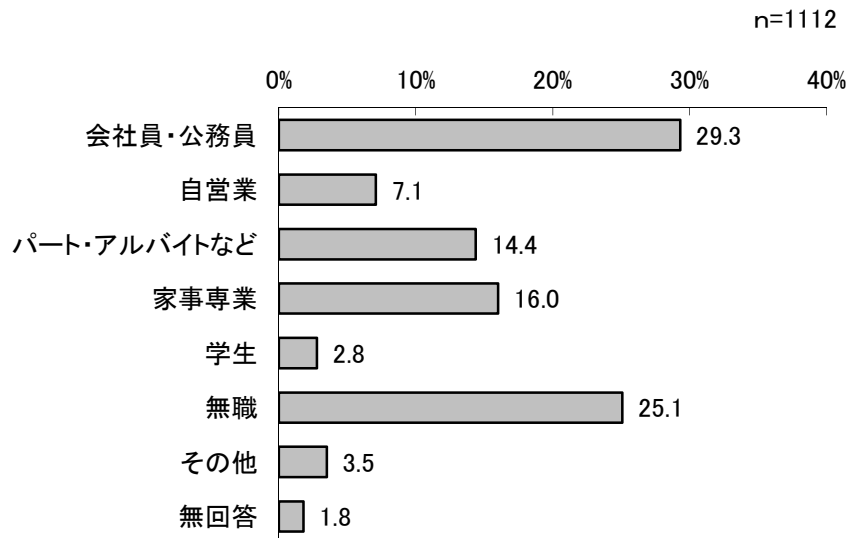
問2 あなたの年齢をお答えください。(2021(令和3)年9月1日現在の満年齢)
(1つに○)

「50歳代」の割合が19.1%と最も高く、次いで「40歳代」が15.2%、「80歳以上」が15.0%となっています。



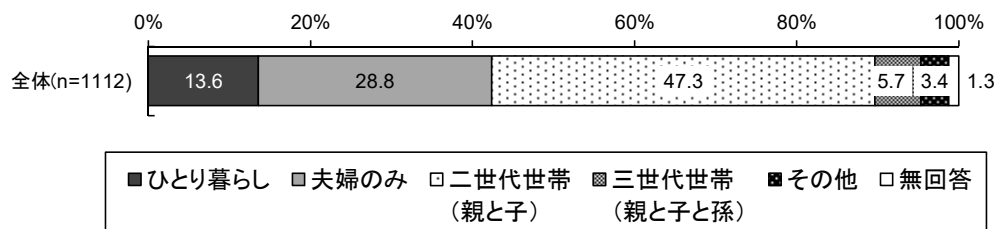
問3 あなたの職業をお答えください。(主なもの1つに○)

「会社員・公務員」の割合が29.3%と最も高く、次いで「無職」が25.1%、「家事専業」が16.0%となっています。



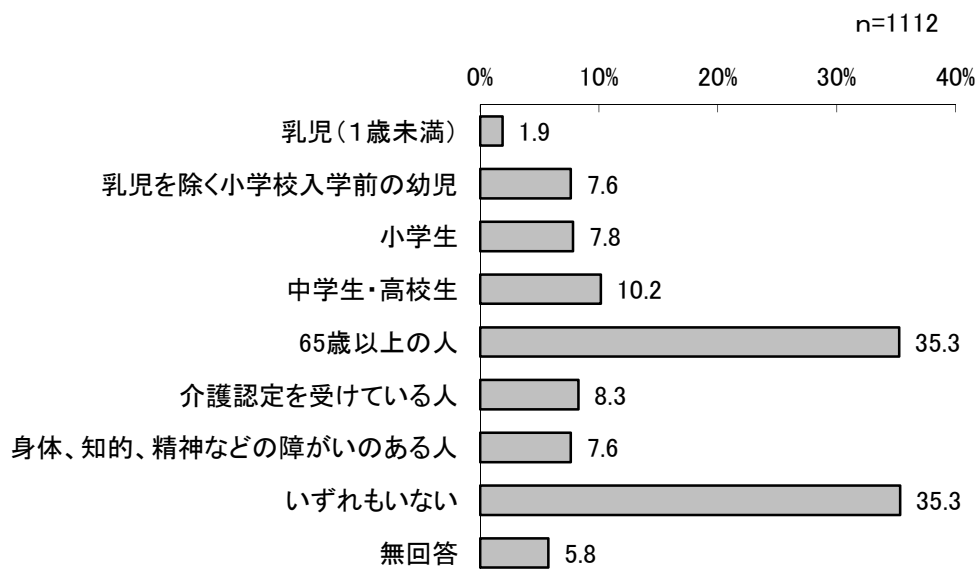
問4 あなたの世帯構成をお答えください。(1つに○)

「二世世代世帯(親と子)」の割合が47.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が28.8%、「ひとり暮らし」が13.6%となっています。



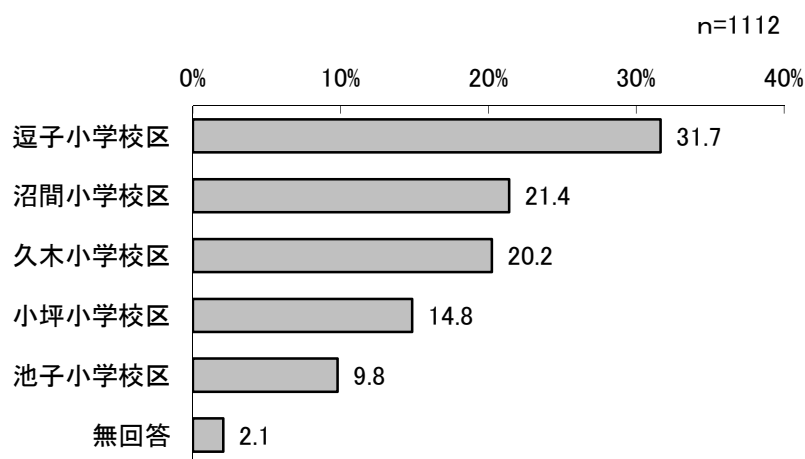
問5 現在、あなた自身、もしくはあなたと同居しているご家族の中に、次のような人はいらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○、いない場合は8に○)

「65歳以上の人」の割合が35.3%と最も高く、次いで「中学生・高校生」が10.2%、「介護認定を受けている人」が8.3%となっています。一方、「いずれもない」は35.3%となっています。



問6 あなたのお住まいの地域をお答えください。丁目もお答えください。(1つに○をし、丁目を記入)

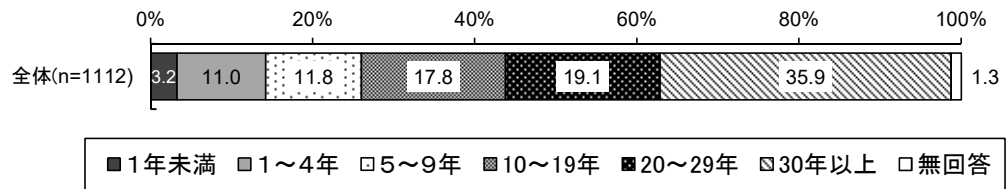
「逗子小学校区」の割合が31.7%と最も高く、次いで「沼間小学校区」が21.4%、「久木小学校区」が20.2%となっています。



※回答、記入内容を基に小学校区別に再集計した結果

問7 あなたのお住まいの地域での居住年数をお答えください。(1つに○)

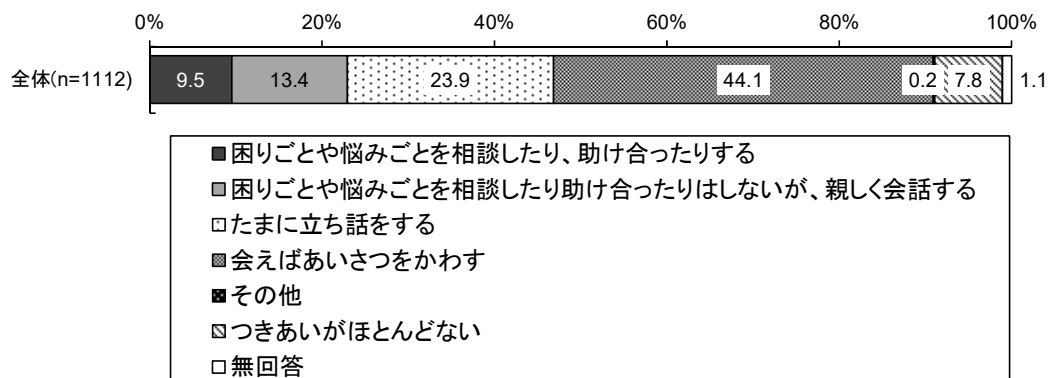
「30年以上」の割合が35.9%と最も高く、次いで「20～29年」が19.1%、「10～19年」が17.8%となっています。



2 地域での生活について ①近所との関わりについて

問8 あなたは、日ごろ、近所の人とどのような付き合いをしていますか。(1つに○)

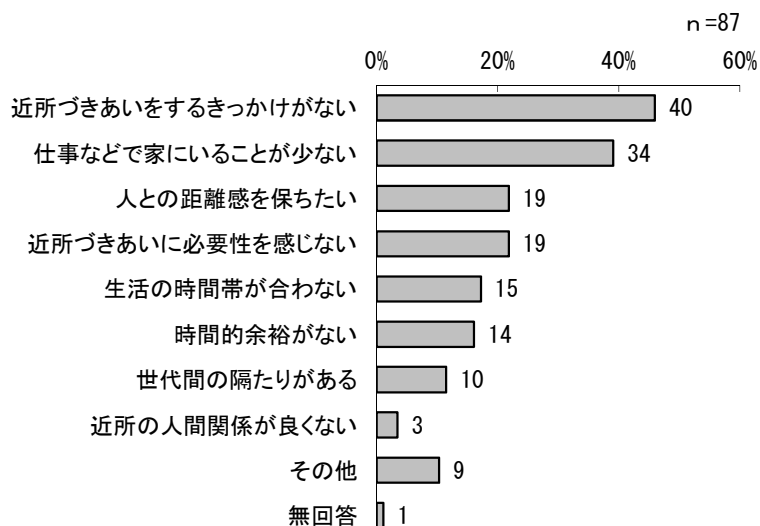
「会えばあいさつをかわす」の割合が44.1%と最も高く、次いで「たまに立ち話をする」が23.9%、「困りごとや悩みごとを相談したり助け合ったりはしないが、親しく会話する」が13.4%となっています。



問8で「6 つきあいがほとんどない」と答えられた方におうかがいします。

問8-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「近所づきあいをするきっかけがない」との回答が87人中40人と最も多く、次いで「仕事などで家にいることが少ない」が34人、「人との距離感を保ちたい」「近所づきあいに必要性を感じない」がともに19人となっています。



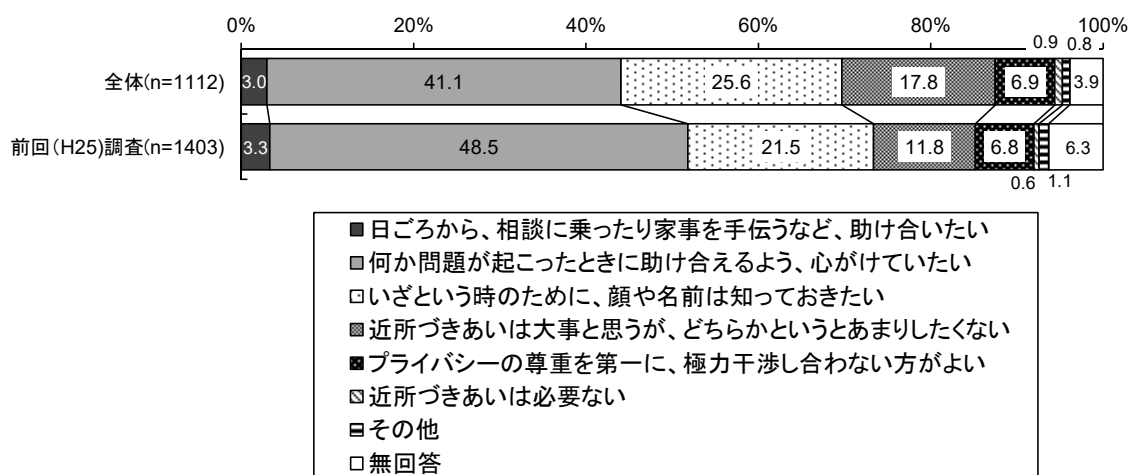
※母数が100未満であり%による分析は統計上不正確であるため、各項目回答実数を表示。

問9 近所づきあいについて、あなたのお考えに最も近い内容はどれですか。
(1つに〇)

「何か問題が起こったときに助け合えるよう、心がけていたい」の割合が41.1%と最も高く、次いで「いざという時のために、顔や名前は知っておきたい」が25.6%、「近所づきあいは大事と思うが、どちらかというともあまりしたくない」が17.8%となっています。

【経年比較】

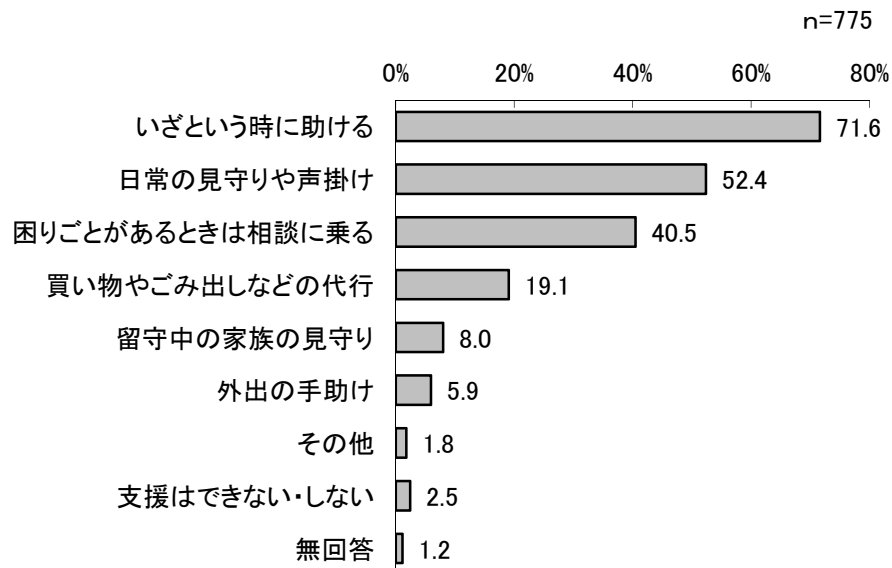
前回調査と比較すると、「いざという時のために、顔や名前は知っておきたい」「近所づきあいは大事と思うが、どちらかというともあまりしたくない」の割合が増加する一方、「何か問題が起こったときに助け合えるよう、心がけていたい」は減少しています。



問9で「1 日ごろから、相談に乗ったり家事を手伝うなど、助け合いたい」「2 何か問題が起こったときに助け合えるよう、心がけていたい」「3 いざという時のために、顔や名前は知っておきたい」と答えられた方におうかがいします。

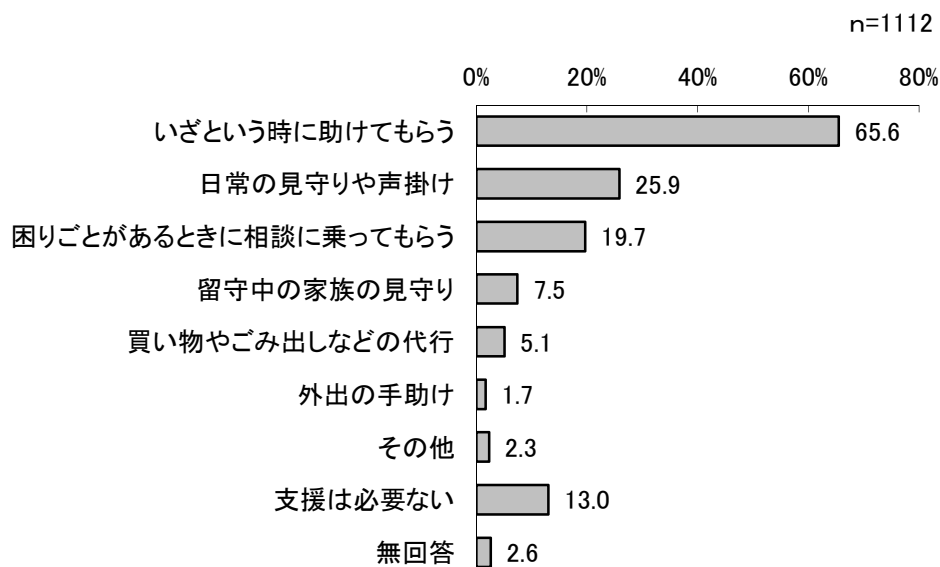
問9-1 あなたは、近所の手助けが必要な人に対し、どのようなことができると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「いざという時に助ける」の割合が71.6%と最も高く、次いで「日常の見守りや声掛け」が52.4%、「困りごとがあるときは相談に乗る」が40.5%となっています。一方、「支援はできない・しない」は2.5%とわずかです。



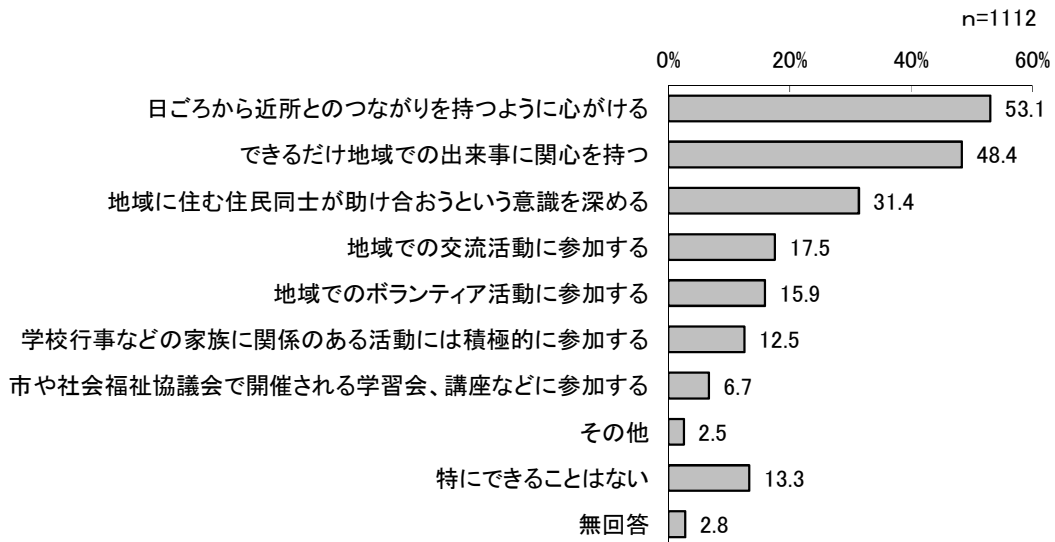
問10 もしあなたが、近所の人に手助けしてもらおうとしたら、どのようなことをしてほしいですか。(あてはまるものすべてに○)

「いざという時に助けてもらう」の割合が65.6%と最も高く、次いで「日常の見守りや声掛け」が25.9%、「困りごとがあるときに相談に乗ってもらう」が19.7%となっています。一方、「支援は必要ない」は13.0%となっています。



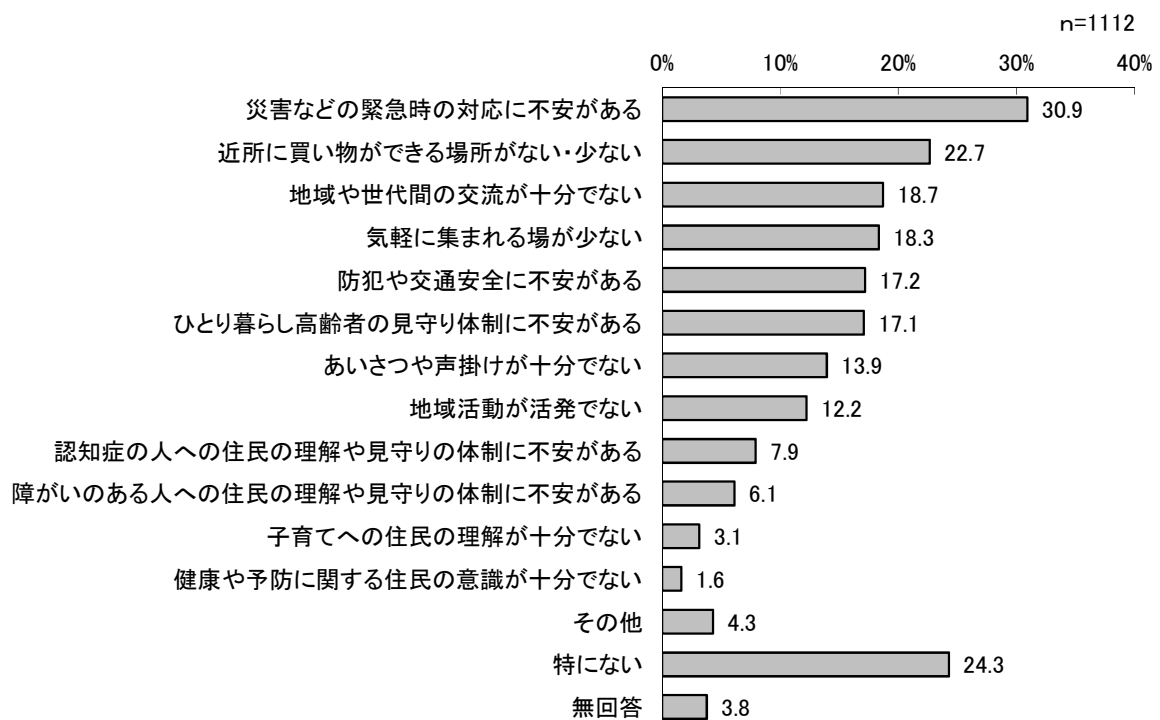
問11 今後、地域での助け合いを推進していくために、住民の一人としてあなたができることは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

「日ごろから近所とのつながりを持つように心がける」の割合が53.1%と最も高く、次いで「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」が48.4%、「地域に住む住民同士が助け合おうという意識を深める」が31.4%となっています。一方、「特にできることはない」は13.3%となっています。



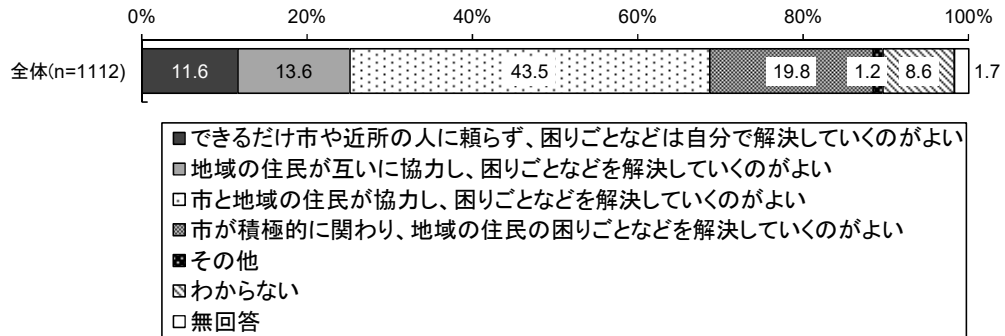
問12 お住まいの地域で、あなたが気になっていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「災害などの緊急時の対応に不安がある」の割合が30.9%と最も高く、次いで「近所に買い物ができる場所がない・少ない」が22.7%、「地域や世代間の交流が十分でない」が18.7%となっています。一方、「特にない」は24.3%となっています。



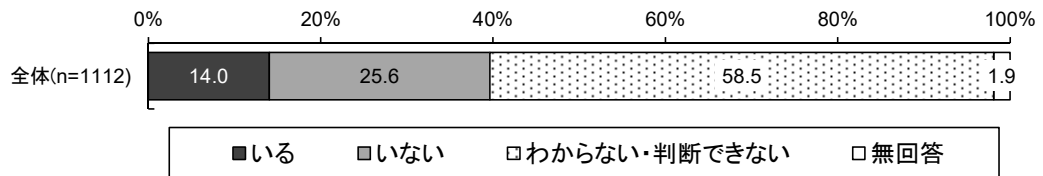
問13 地域における困りごと（防犯、買い物、見守り、災害、交流など）の解決方法について、あなたのお考えに最も近い内容はどれですか。（1つに○）

「市と地域の住民が協力し、困りごとなどを解決していくのがよい」の割合が43.5%と最も高く、次いで「市が積極的に関わり、地域の住民の困りごとなどを解決していくのがよい」が19.8%、「地域の住民が互いに協力し、困りごとなどを解決していくのがよい」が13.6%となっています。



問14 あなたの近所に、困りごとを抱えていて行政（市・県など）や地域の支援が必要だと感じる人はいますか。（1つに○）

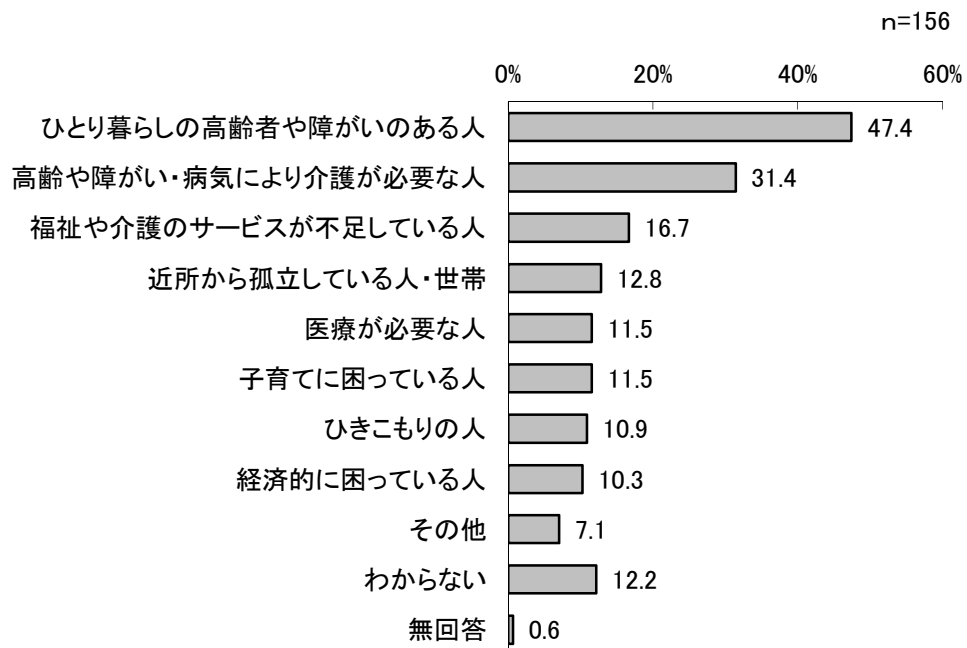
「いる」が14.0%に対し、「いない」が25.6%、「わからない・判断できない」が58.5%となっています。



問14で「1 いる」と答えられた方におうかがいします。

問14-1 それはどのような人ですか。(あてはまるものすべてに○)

「ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人」の割合が47.4%と最も高く、次いで「高齢や障がい・病気により介護が必要な人」が31.4%、「福祉や介護のサービスが不足している人」が16.7%となっています。



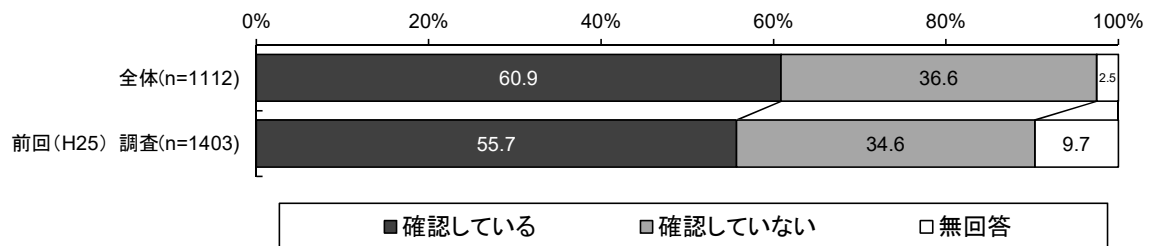
3 地域での生活について ②災害に備えて

問15 あなたは、災害時に備え、日ごろから避難路や避難方法を確認していますか。
(1つに○)

「確認している」が60.9%に対し、「確認していない」が36.6%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「確認している」の割合が5.2ポイント増加しています。

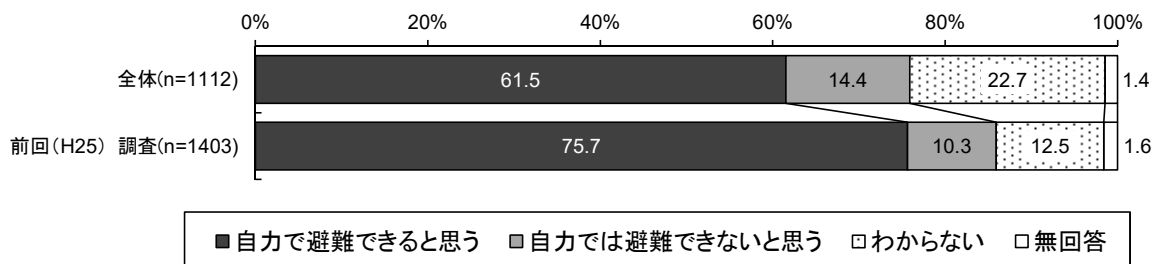


問16 あなたは、災害時に自分や家族だけで避難することができますか。
(1つに○)

「自力で避難できると思う」が61.5%に対し、「自力では避難できないと思う」が14.4%、「わからない」は22.7%となっています。

【経年比較】

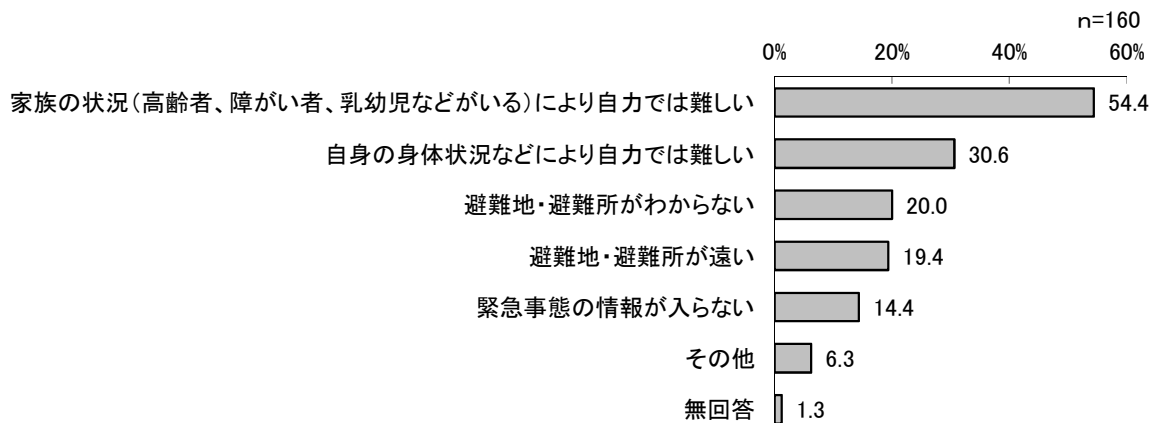
前回調査と比較すると、「自力で避難できると思う」の割合が大きく減少し、「わからない」「自力では避難できないと思う」が増加しています。



※前回調査の質問文は「災害時に自力で避難することができますか。」

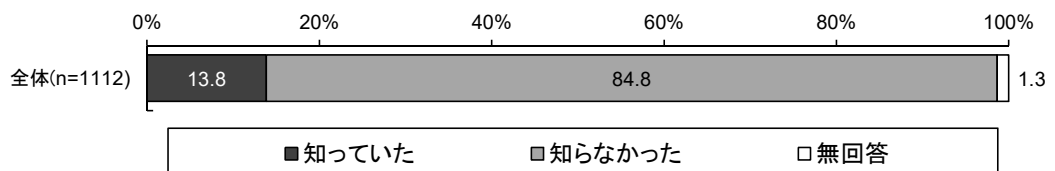
問16で「2 自力では避難できないと思う」と答えられた方におうかがいします。
 問16-1 自力で避難できないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「家族の状況（高齢者、障がい者、乳幼児などがいる）により自力では難しい」の割合が54.4%と最も高く、次いで「自身の身体状況などにより自力では難しい」が30.6%、「避難地・避難所がわからない」が20.0%となっています。



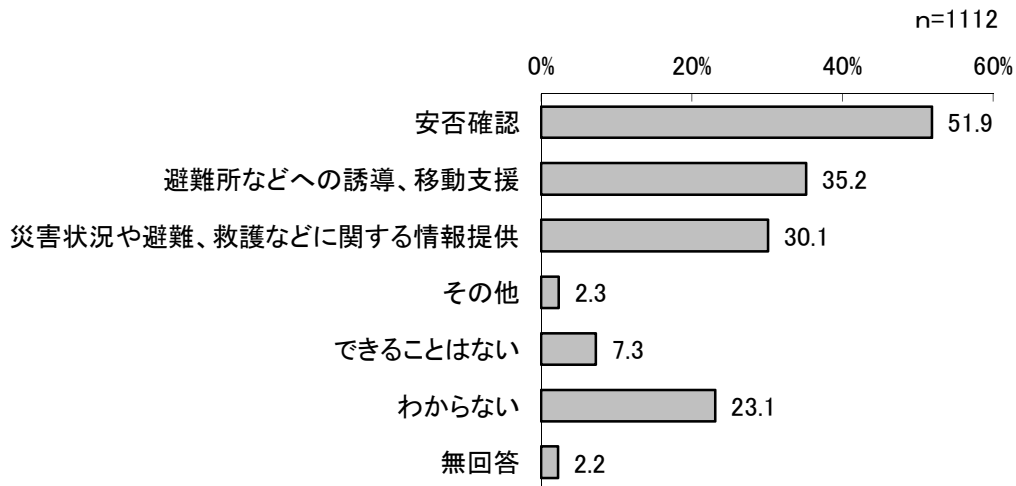
問17 あなたは、「逗子市避難行動要支援者避難支援制度※」を知っていましたか。
 (1つに○)

「知っていた」が13.8%に対し、「知らなかった」が84.8%となっています。



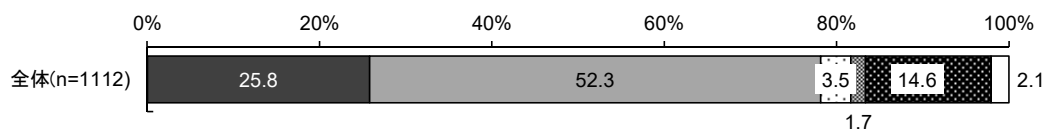
問18 災害発生時に、避難行動要支援者に対してあなたができることは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

「安否確認」の割合が51.9%と最も高く、次いで「避難所などへの誘導、移動支援」が35.2%、「災害状況や避難、救護などに関する情報提供」が30.1%となっています。



問19 災害時に備えるなどの理由で、地域にお住まいの人の情報を必要に応じて自治会・町内会などで共有することについて、あなたのお考えに最も近い内容はどれですか。(1つに○)

「災害時など緊急の場合の活用に限定し、情報を共有した方がよい」の割合が52.3%と最も高く、次いで「日ごろから地域での見守り活動などのために、情報を共有した方がよい」が25.8%、「わからない」が14.6%となっています。



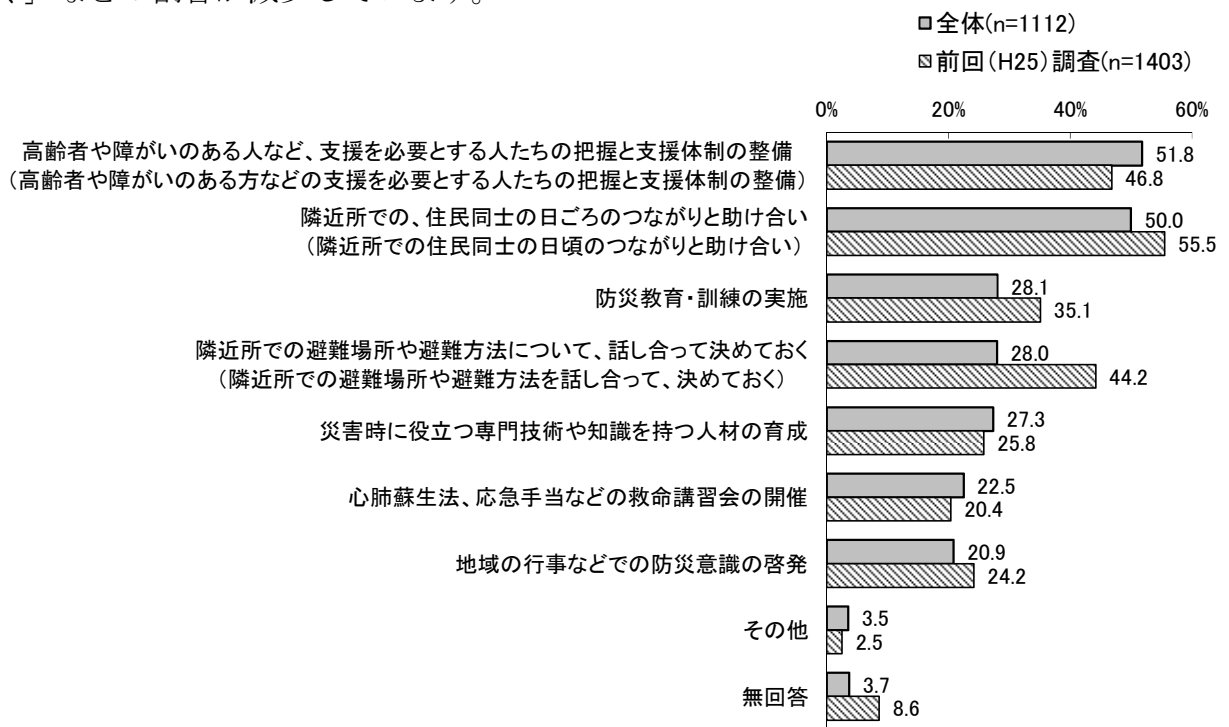
- 日ごろから地域での見守り活動などのために、情報を共有した方がよい
- ▣ 災害時など緊急の場合の活用に限定し、情報を共有した方がよい
- 個人情報なので、災害時など緊急の場合でも情報は共有しない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

問20 あなたは、災害に備え、地域でどのような準備が必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「高齢者や障がいのある人など、支援を必要とする人たちの把握と支援体制の整備」の割合が51.8%と最も高く、次いで「隣近所での、住民同士の日ごろのつながりと助け合い」が50.0%、「防災教育・訓練の実施」が28.1%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「隣近所での、住民同士の日ごろのつながりと助け合い」「防災教育・訓練の実施」「隣近所での避難場所や避難方法について、話し合っておく」などの割合が減少しています。



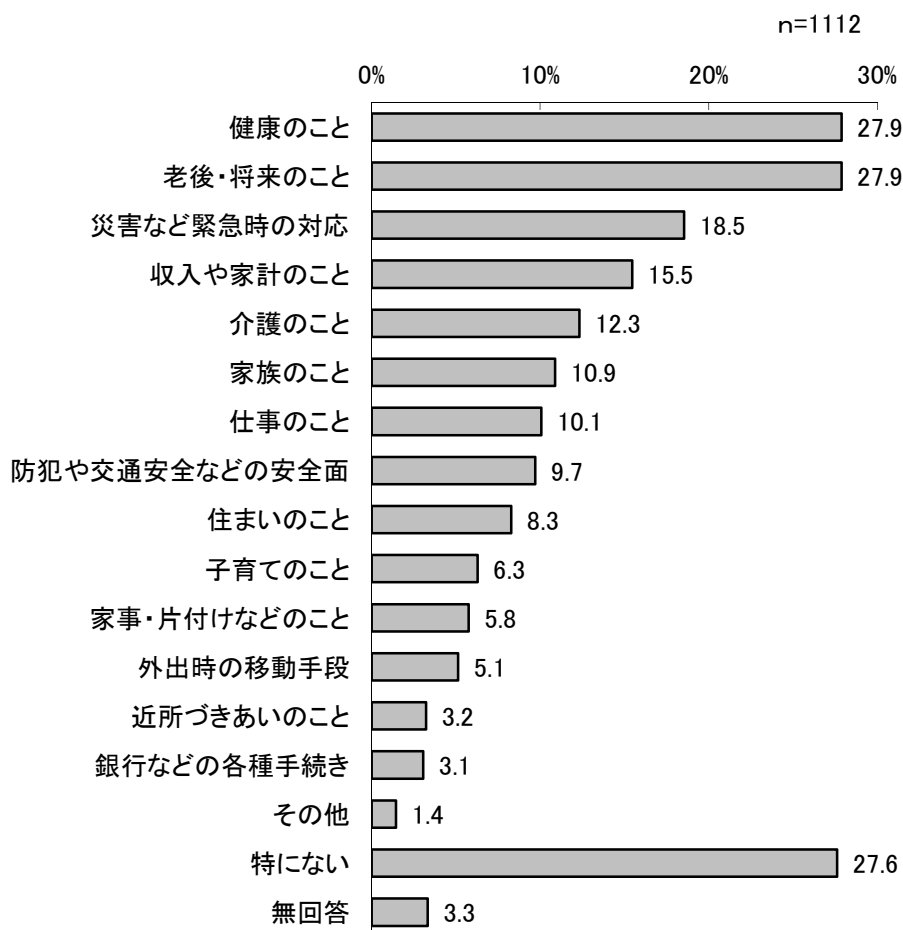
※()内は前回調査の選択肢

※前回調査の質問文は「災害時に向け地域でどのような備えが必要だと思いますか。」

4 地域での生活について ③困りごとについて

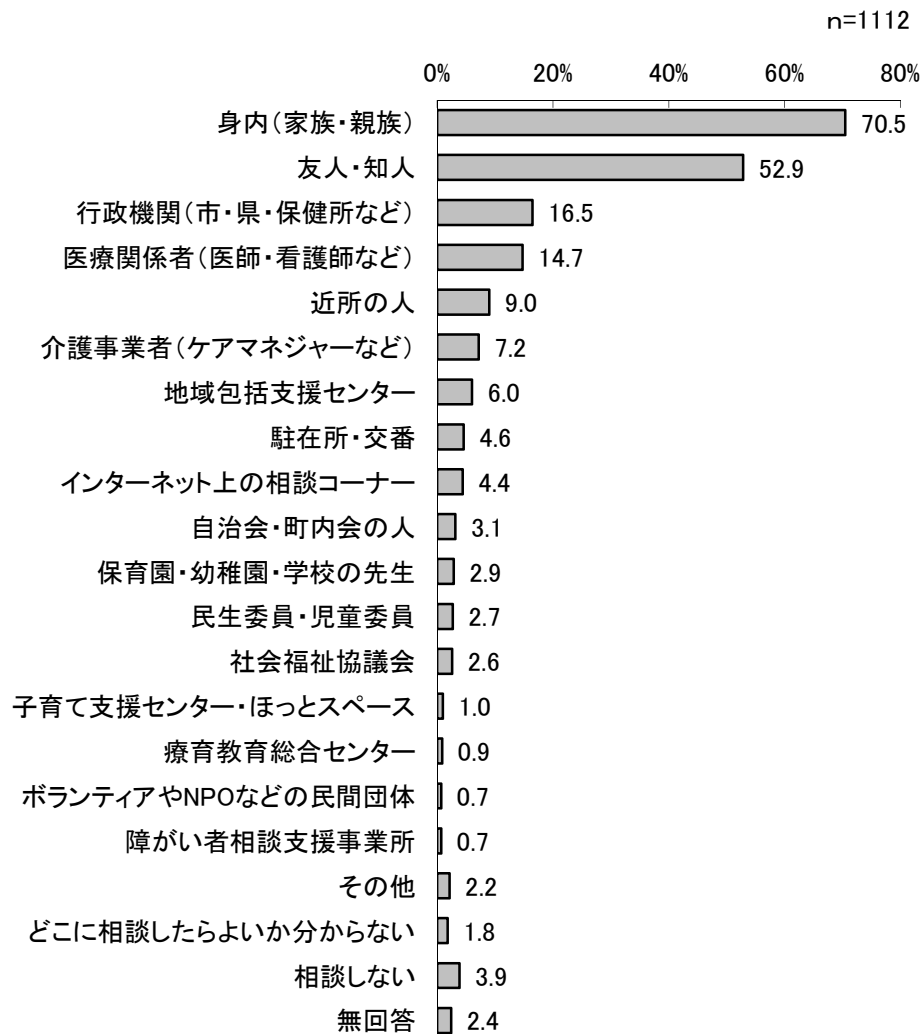
問21 あなたは、日常生活についてどのような悩みや困りごとがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「健康のこと」「老後・将来のこと」の割合が27.9%と最も高く、次いで「災害など緊急時の対応」が18.5%、「収入や家計のこと」が15.5%となっています。一方、「特にない」は27.6%となっています。



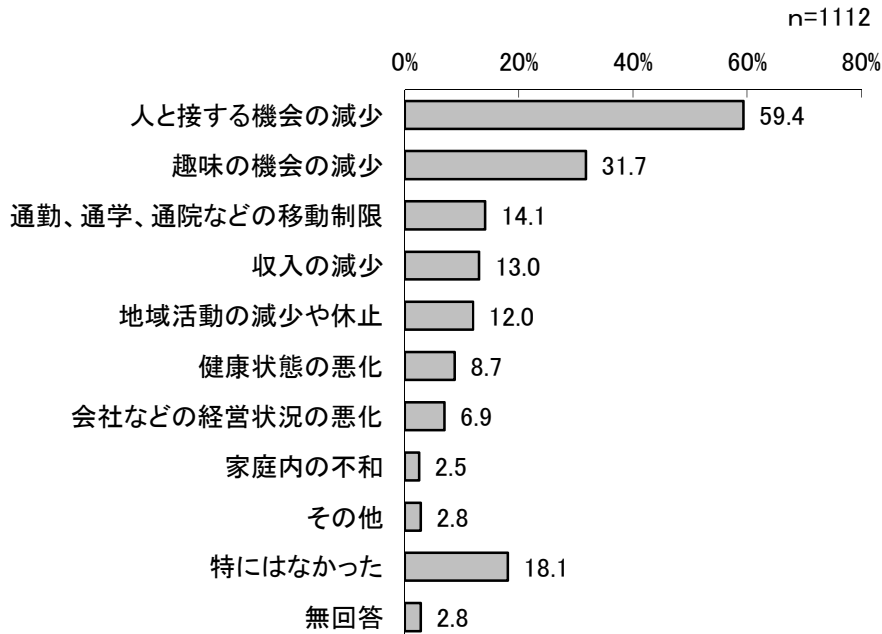
問22 悩みや困りごとがあったときに、あなたが相談する人または場所はどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

「身内(家族・親族)」の割合が70.5%と最も高く、次いで「友人・知人」が52.9%、「行政機関(市・県・保健所など)」が16.5%となっています。



問23 いわゆるコロナ禍によって、現在までに、あなた自身の日常生活にどのような影響がありましたか。(最も影響があったもの3つまでに○)

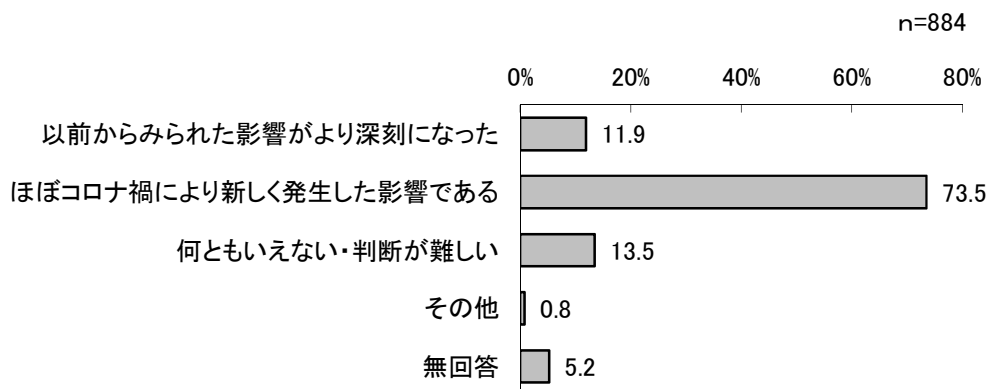
「人と接する機会の減少」の割合が59.4%と最も高く、次いで「趣味の機会の減少」が31.7%、「通勤、通学、通院などの移動制限」が14.1%となっています。一方、「特にはなかった」は18.1%となっています。



問23で「1 収入の減少」～「9 その他」のいずれかを答えられた方におうかがいします。

問23-1 その影響は、コロナ禍以前からみられたものですか。(○は2つまで)

「以前からみられた影響がより深刻になった」が11.9%に対し、「ほぼコロナ禍により新しく発生した影響である」が73.5%、「何ともいえない・判断が難しい」が13.5%となっています。



5 地域での活動について

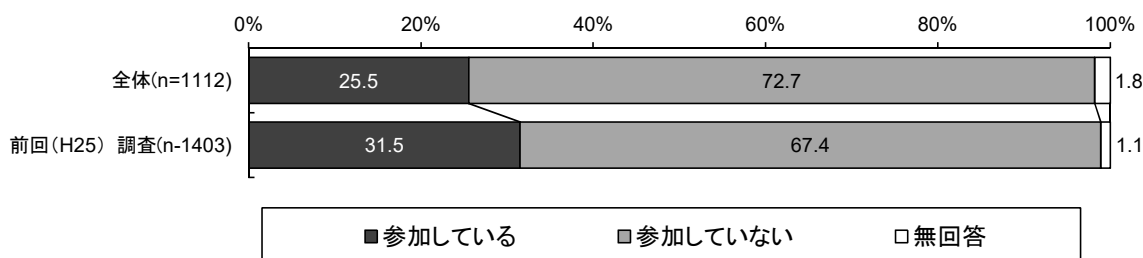
問24 あなたは地域活動に参加していますか。(1つに○)

※この質問で「地域活動」とは、「地域を基盤とした既存の住民組織による、地域に限定した活動」をいうこととします。

「参加している」が25.5%に対し、「参加していない」が72.7%となっています。

【経年比較】

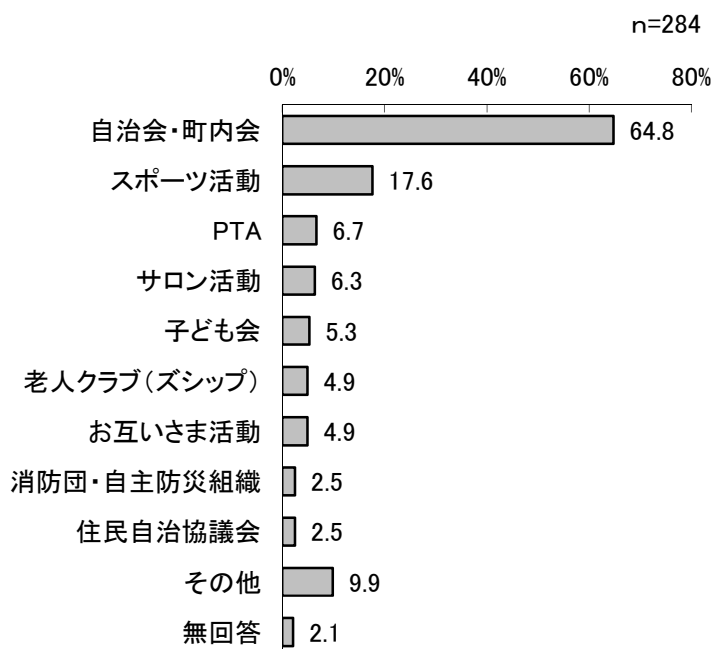
前回調査と比較すると、「参加している」が6ポイント減少し、「参加していない」が5.3ポイント増加しています。



問24で「1 参加している」と答えられた方におうかがいします。

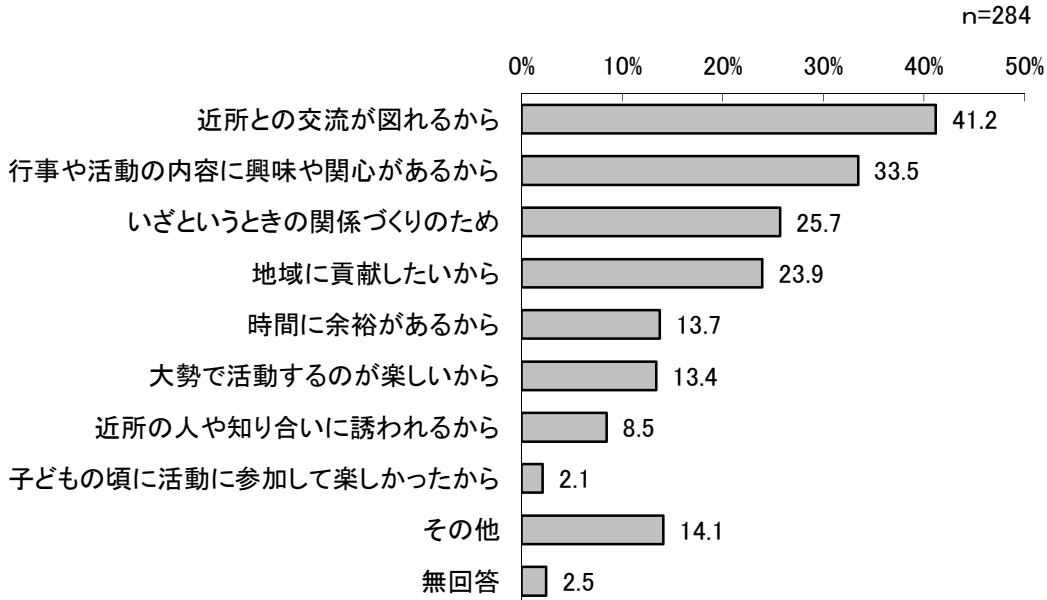
問24-1 どのような活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

「自治会・町内会」の割合が64.8%と最も高く、次いで「スポーツ活動」が17.6%、「PTA」が6.7%となっています。



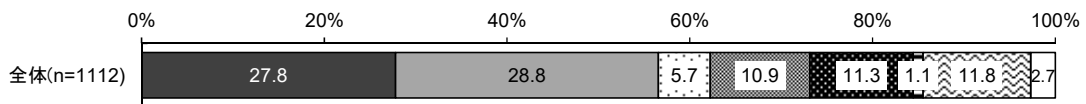
問24-2 地域活動に参加している理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「近所との交流が図れるから」の割合が41.2%と最も高く、次いで「行事や活動の内容に興味や関心があるから」が33.5%、「いざというときの関係づくりのため」が25.7%となっています。



問25 コロナ禍において、地域活動や地域行事を再開または自粛することについて、あなたのお考えに最も近い内容はどれですか。(1つに○)

「感染症予防対策を十分に行い、対面での活動とオンラインを併用して、再開する」の割合が28.8%と最も高く、次いで「感染症予防対策を十分に行い、対面での活動を再開する」が27.8%、「コロナ禍が完全に収束するまで、対面での活動は自粛を継続する」が11.3%となっています。一方、「よくわからない・判断できない」は11.8%となっています。



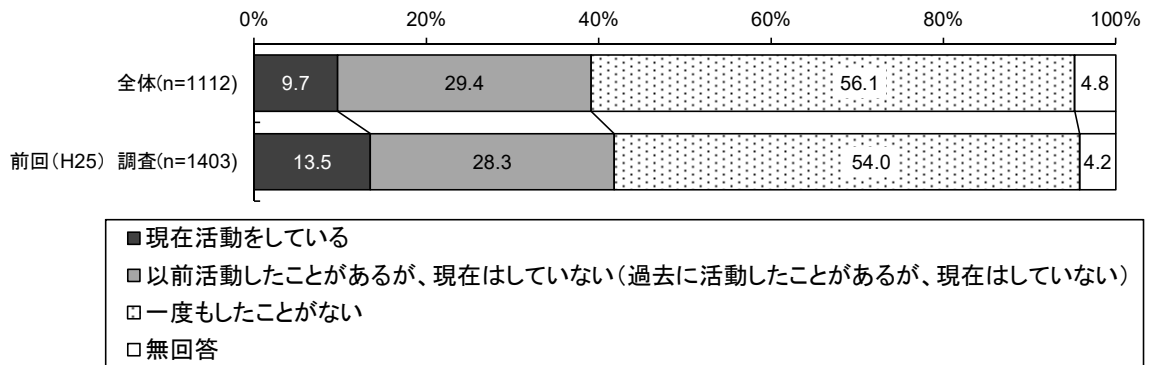
- 感染症予防対策を十分に行い、対面での活動を再開する
- 感染症予防対策を十分に行い、対面での活動とオンラインを併用して、再開する
- 感染症予防対策を十分に行いながらも、対面での活動は避け、基本的にオンラインを活用するなどして再開する
- 希望する国民へのワクチン接種が終わるまでは、対面での活動は自粛を継続する
- コロナ禍が完全に収束するまで、対面での活動は自粛を継続する
- その他
- よくわからない・判断できない
- 無回答

問26 あなたは、ボランティア活動をしていますか。(1つに○)

「一度もしたことがない」の割合が56.1%と最も高く、次いで「以前活動したことがあるが、現在はしていない」が29.4%、「現在活動をしている」が9.7%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「現在活動をしている」が微減し、「以前活動したことがあるが、現在はしていない」「一度もしたことがない」が微増となっています。



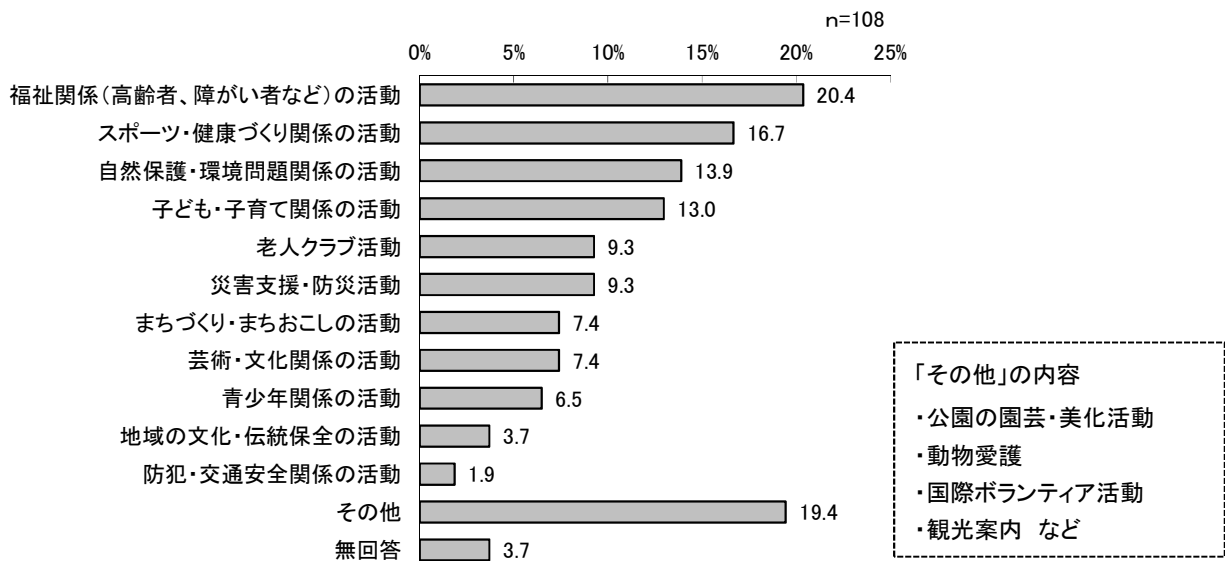
※()内は前回調査の選択肢

※前回調査の質問文は「あなたは、ボランティア活動に参加していますか。」

問26で「1 現在活動している」と答えられた方におうかがいします。

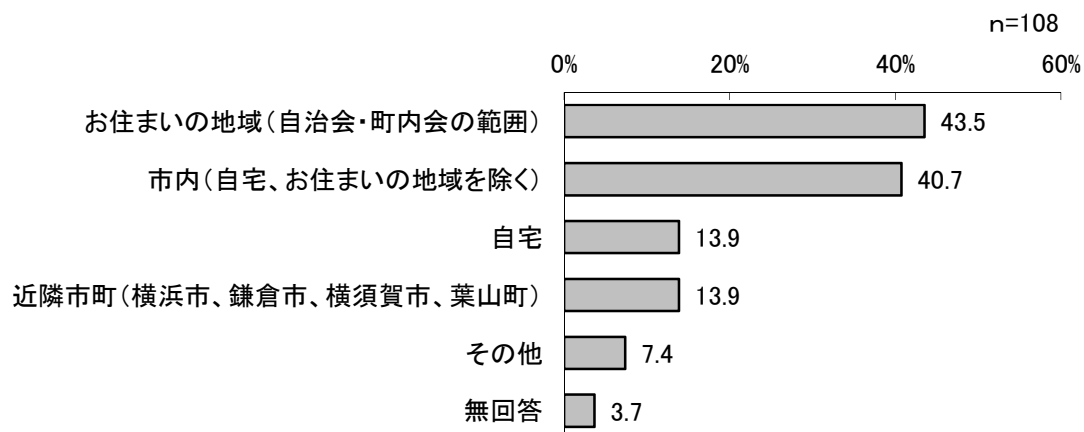
問26-1 それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

「福祉関係(高齢者、障がい者など)の活動」の割合が20.4%と最も高く、次いで「その他」が19.4%、「スポーツ・健康づくり関係の活動」が16.7%となっています。



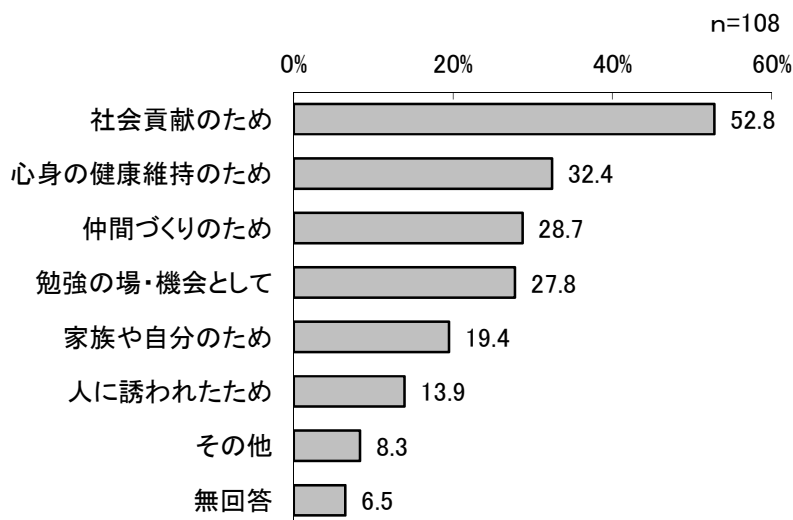
問26-2 主な活動場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

「お住まいの地域(自治会・町内会の範囲)」の割合が43.5%と最も高く、次いで「市内(自宅、お住まいの地域を除く)」が40.7%、「自宅」と「近隣市町(横浜市、鎌倉市、横須賀市、葉山町)」が13.9%となっています。



問26-3 活動に参加した理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

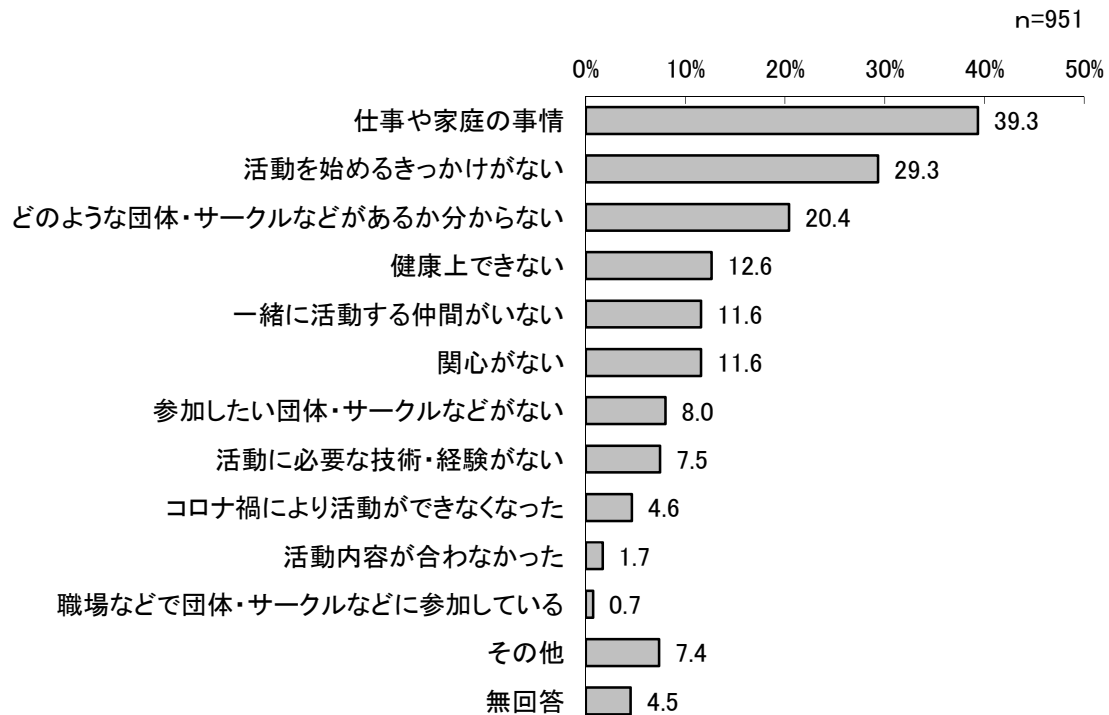
「社会貢献のため」の割合が52.8%と最も高く、次いで「心身の健康維持のため」が32.4%、「仲間づくりのため」が28.7%となっています。



問26で「2 以前は活動したことがあるが、現在はしていない」または「3 一度もしたことがない」と答えられた方におうかがいします。

問26-4 活動していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「仕事や家庭の事情」の割合が39.3%と最も高く、次いで「活動を始めるきっかけがない」が29.3%、「どのような団体・サークルなどがあるか分からない」が20.4%となっています。



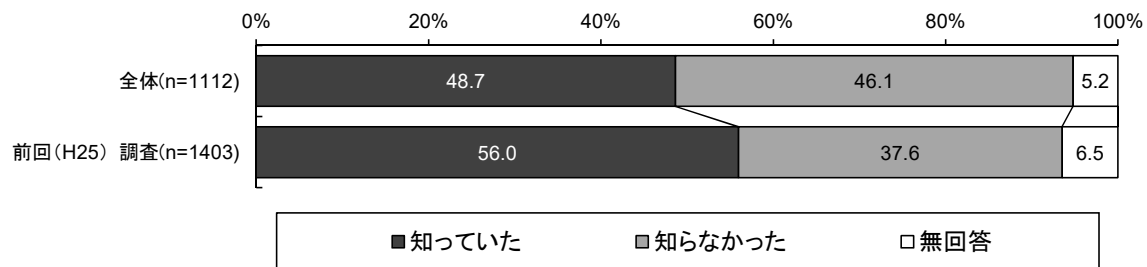
6 逗子市社会福祉協議会について

問27 あなたは、「逗子市社会福祉協議会」を知っていましたか。(1つに○)

「知っていた」が48.7%に対し、「知らなかった」が46.1%となっています。

【経年比較】

前回調査と比較すると、「知っていた」が7.3ポイント減少し、「知らなかった」が8.5ポイント増加しています。



問28 逗子市社会福祉協議会では、さまざまな地域福祉活動を実施しています。
 (1) あなたが知っていた活動はありますか。

○各活動の『認知度』

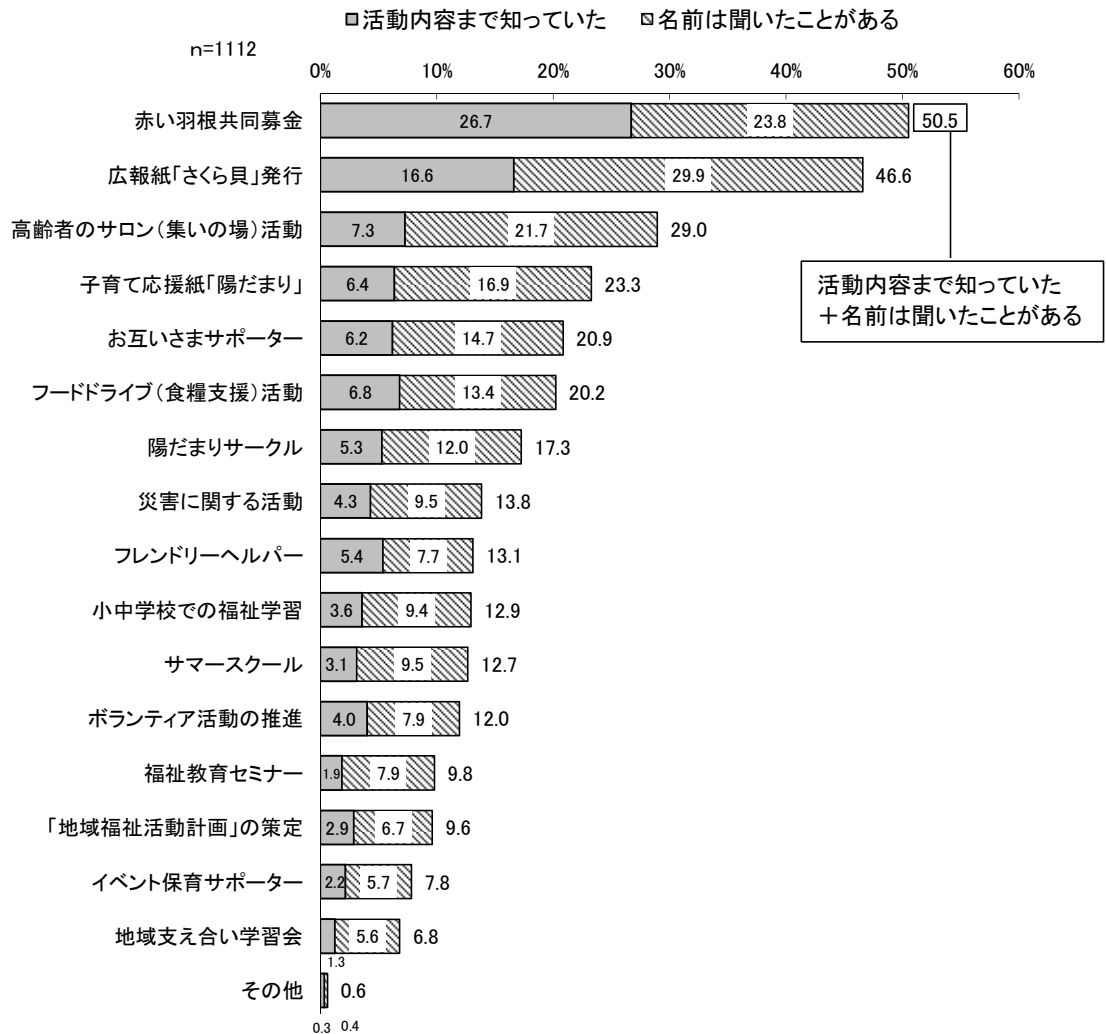
「活動内容まで知っていた」と「名前は聞いたことがある」を合わせた認知度は、「赤い羽根共同募金」が50.5%、「広報紙「さくら貝」発行」が46.6%、「高齢者のサロン（集いの場）活動」が29.0%となっています。

○「活動内容まで知っていた」

「赤い羽根共同募金」の割合が26.7%と最も高く、次いで「広報紙「さくら貝」発行」が16.6%、「高齢者のサロン（集いの場）活動」が7.3%となっています。

○「名前は聞いたことがある」

「広報紙「さくら貝」発行」の割合が29.9%と最も高く、次いで「赤い羽根共同募金」が23.8%、「高齢者のサロン（集いの場）活動」が21.7%となっています。



※『認知度』の数値は、小数点第二位以下も含めて算出しているためグラフ内の数値と必ずしも一致しません。
 ※無回答比率(34.8%)

問28 逗子市社会福祉協議会では、さまざまな地域福祉活動を実施しています。
 (2) あなたがすでに協力している、または今後協力してみたい活動はありますか。
 実施中の活動を一覧にした下記の回答欄の中で、該当する欄に○印を記入してご
 回答ください。

○各活動への『参加・協力状況（経験）』

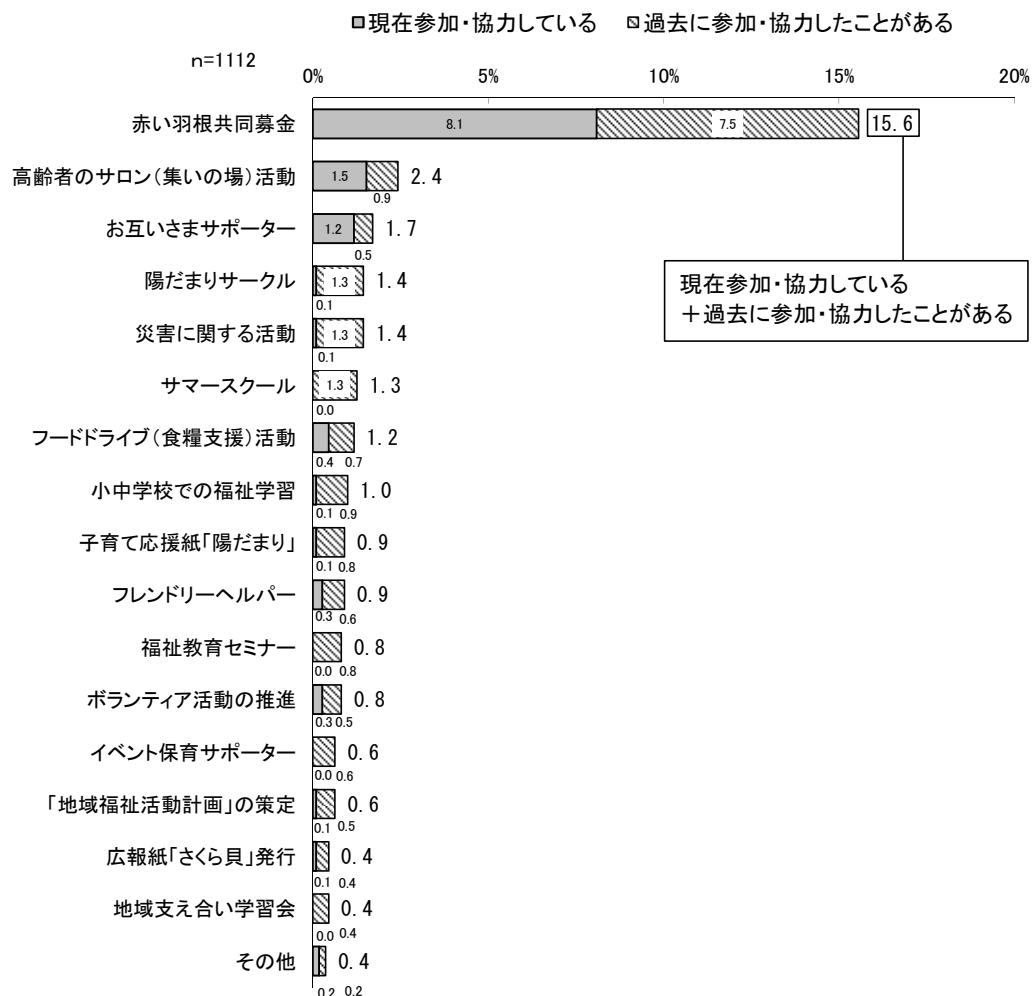
「現在参加・協力している」と「過去に参加・協力したことがある」を合わせた参
 加・協力状況（経験）は、「赤い羽根共同募金」が15.6%、「高齢者のサロン（集いの
 場）活動」が2.4%、「お互いさまサポーター（地域での見守り活動やニーズ対応など）」
 が1.7%となっています。

○「現在参加・協力している」

「赤い羽根共同募金」の割合が8.1%と最も高く、次いで「高齢者のサロン（集いの
 場）活動」が1.5%、「お互いさまサポーター（地域での見守り活動やニーズ対応など）」
 が1.2%となっています。

○「過去に参加・協力したことがある」

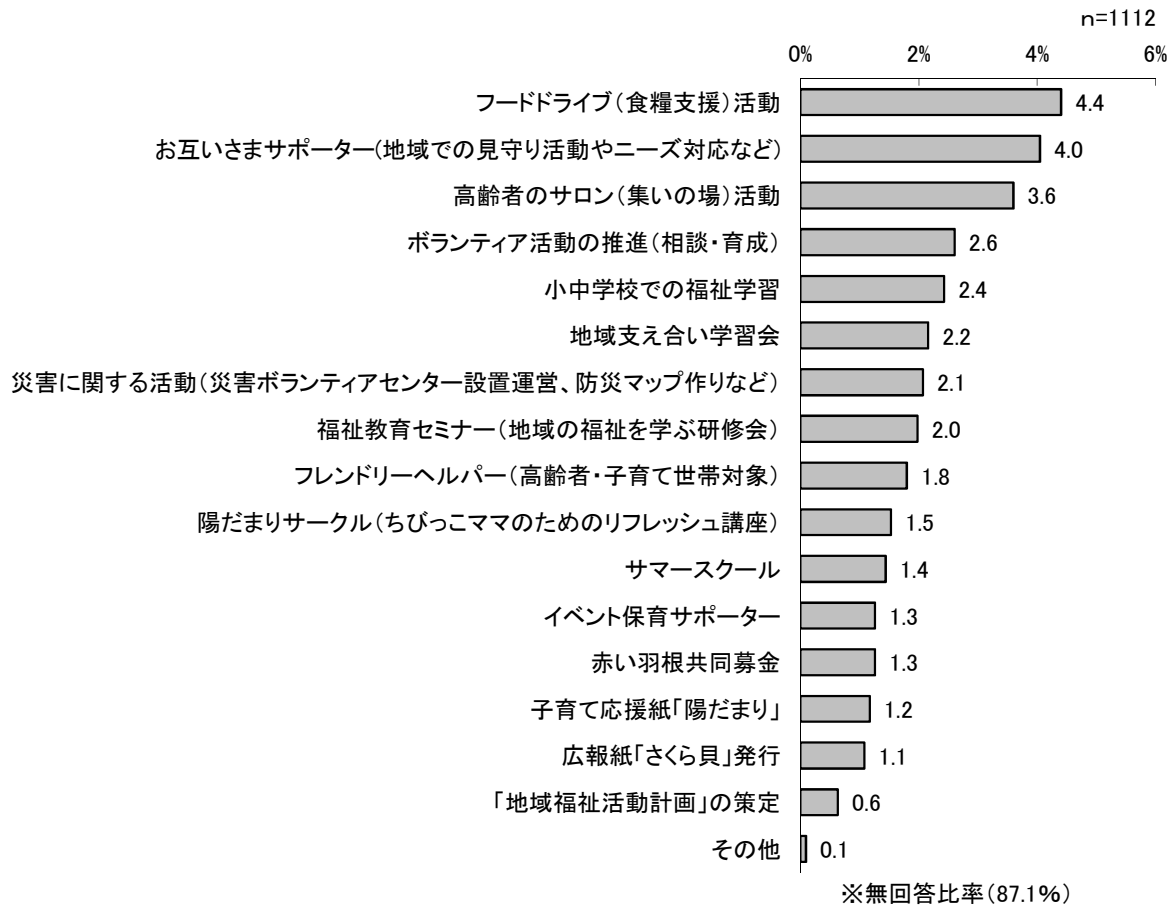
「赤い羽根共同募金」の割合が7.5%と最も高く、次いで「災害に関する活動（災害
 ボランティアセンター設置運営、防災マップ作りなど）」「陽だまりサークル（ちびっ
 こママのためのリフレッシュ講座）」「サマースクール」が1.3%となっています。



※『参加・協力状況（経験）』の数値は、小数点第二位以下も含めて算出しているためグラフ内の数値と必ずしも一致しません。
 ※無回答比率(79.5%)

○「今後参加・協力してみたい」

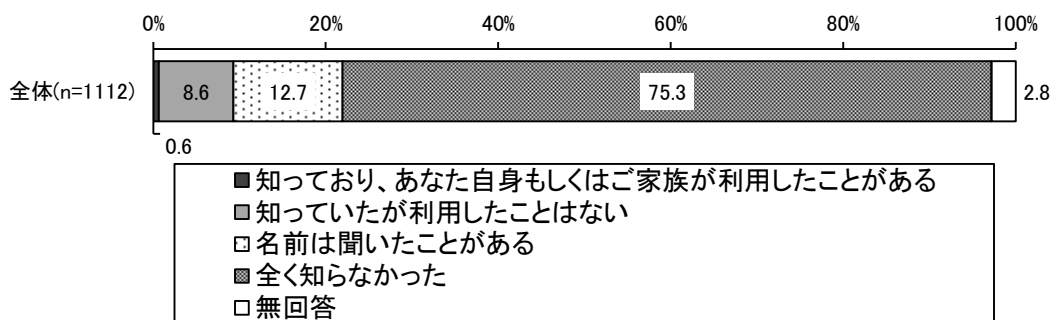
「フードドライブ（食糧支援）活動」の割合が4.4%と最も高く、次いで「お互いさまサポーター（地域での見守り活動やニーズ対応など）」が4.0%、「高齢者のサロン（集いの場）活動」が3.6%となっています。



7 地域の福祉制度と取組みについて ①権利擁護

問29 あなたは、「日常生活自立支援事業（逗子あんしんセンター）」を知っていましたか。（1つに○）

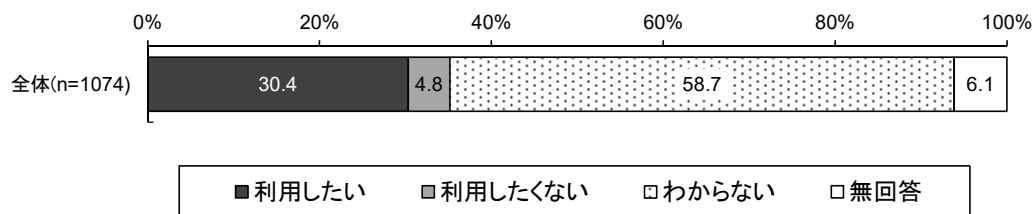
「全く知らなかった」の割合が75.3%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が12.7%、「知っていたが利用したことはない」が8.6%の順となっています。



問29で「2 知っていたが利用したことはない」「3 名前は聞いたことがある」「4 全く知らなかった」と答えられた方におうかがいします。

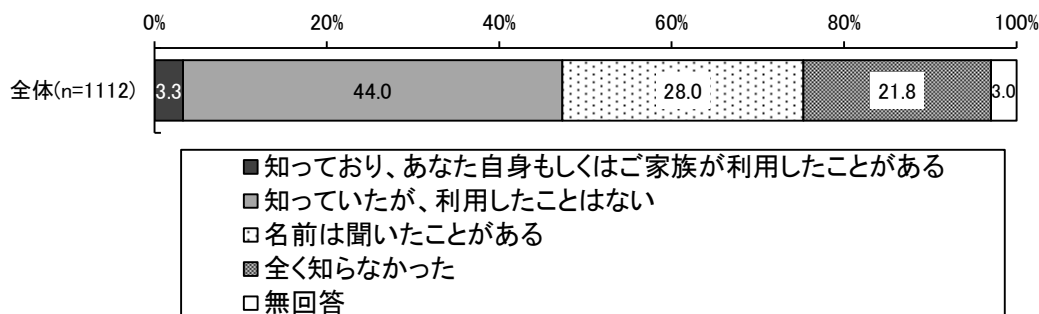
問29-1 あなた自身もしくはご家族が必要になったときに、利用したいと思いますか。（1つに○）

「利用したい」が30.4%に対し、「利用したくない」が4.8%、「わからない」は58.7%となっています。



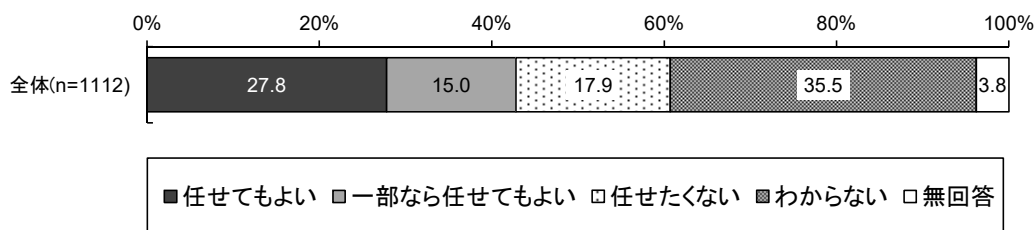
問30 あなたは、「成年後見制度」を知っていましたか。(1つに○)

「知っていたが、利用したことはない」の割合が44.0%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が28.0%、「全く知らなかった」が21.8%となっています。



問31 あなたは、財産の管理や契約などについて万一自分自身では判断ができなくなった場合、「成年後見人」に財産管理などを任せることについて、どう思いますか。(1つに○)

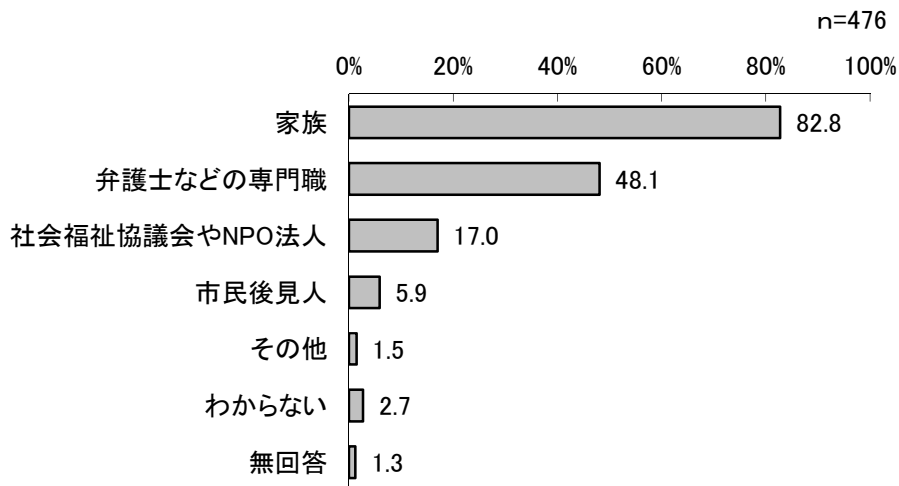
「任せてもよい」が27.8%、「一部なら任せてもよい」が15.0%に対し、「任せたくない」は17.9%、「わからない」は35.5%となっています。



問31で「1 任せてもよい」または「2 一部なら任せてもよい」と答えられた方におうかがいします。

問31-1 成年後見人には、次の選択肢のような人になることができます。誰になら、任せても良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

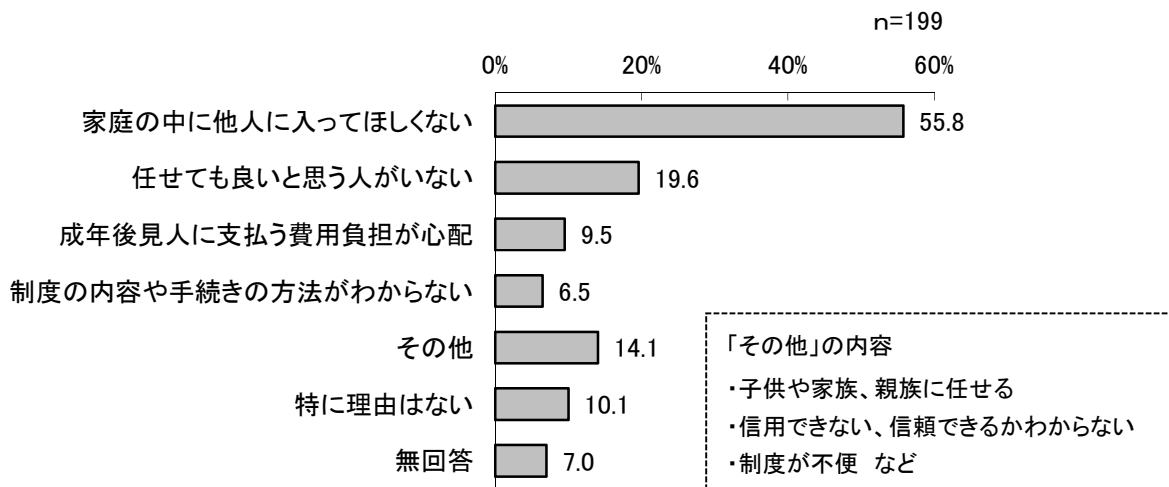
「家族」の割合が82.8%と最も高く、次いで「弁護士などの専門職」が48.1%、「社会福祉協議会やNPO法人」が17.0%となっています。



問31で「3 任せたくない」と答えられた方におうかがいします。

問31-2 任せたくないと思う理由は何ですか。(○は2つまで)

「家庭の中に他人に入ってほしくない」の割合が55.8%と最も高く、次いで「任せても良いと思う人がいない」が19.6%、「その他」が14.1%となっています。一方、「特に理由はない」は10.1%となっています



問32 あなたは、虐待を受けていると思われる児童・高齢者・障がい者や、配偶者からの身体的暴力を受けている人を発見した場合には、法律で通報する義務があることを知っていましたか。((1)～(4)の事例それぞれについて、1つに○)

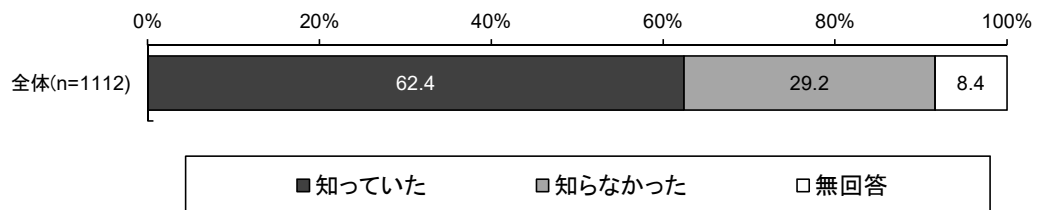
発見した事例（通報先）

- (1) 虐待を受けていると思われる児童（市役所・児童相談所）
- (2) 虐待を受けていると思われる高齢者（市役所・地域包括支援センター）
- (3) 虐待を受けていると思われる障がいのある人（市役所）
- (4) 配偶者からの身体的暴力を受けている人（市役所・警察）

※事例ごとの通報先を、参考として()内に示しています。

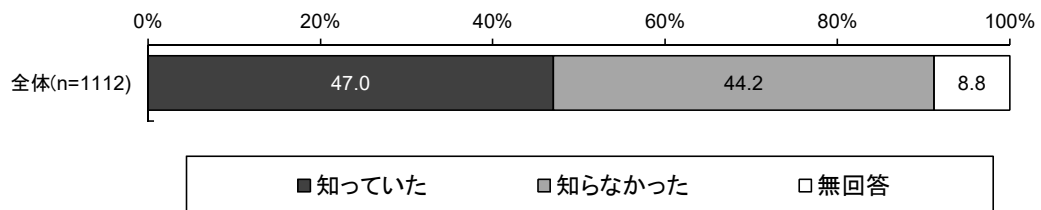
(1) 虐待を受けていると思われる児童（市役所・児童相談所）

「知っていた」が62.4%に対し、「知らなかった」が29.2%となっています。



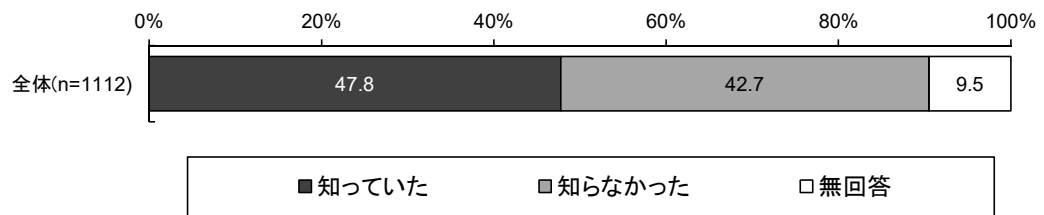
(2) 虐待を受けていると思われる高齢者（市役所・地域包括支援センター）

「知っていた」が47.0%に対し、「知らなかった」が44.2%となっています。



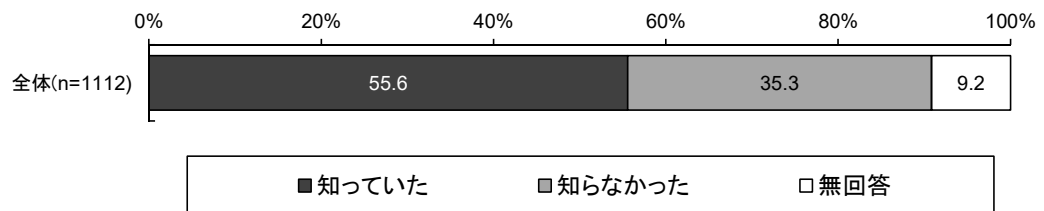
(3) 虐待を受けていると思われる障がいのある人（市役所）

「知っていた」が47.8%に対し、「知らなかった」が42.7%となっています。



(4) 配偶者からの身体的暴力を受けている人（市役所・警察）

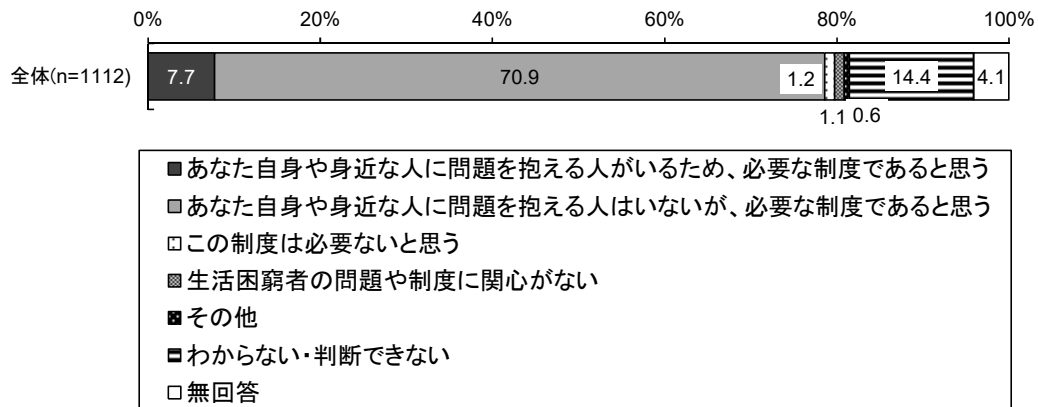
「知っていた」が55.6%に対し、「知らなかった」が35.3%となっています。



8 地域の福祉制度と取組みについて ②生活困窮対策

問33 あなたは、生活困窮者の問題や支援について、どのように思いますか。(1つに○)

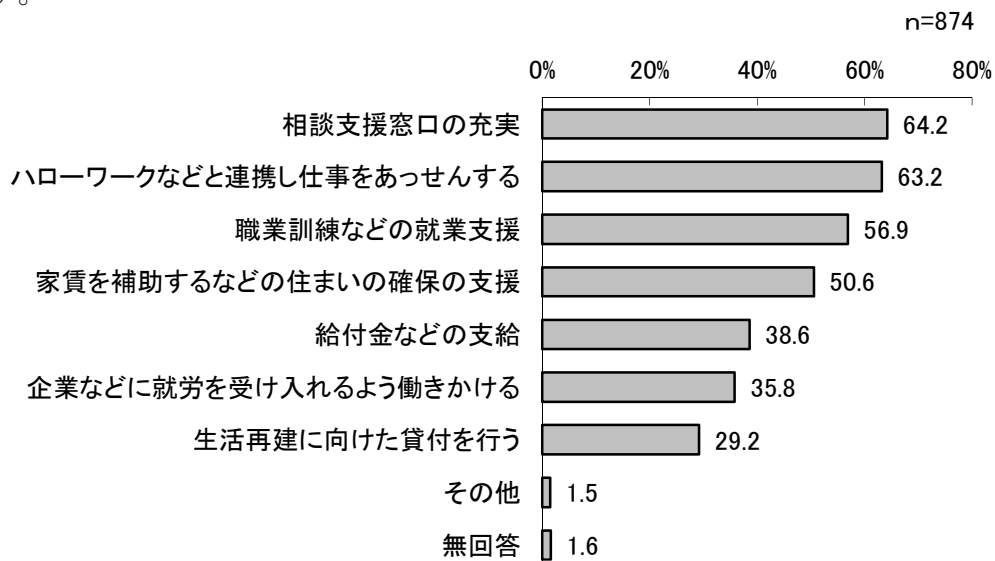
「あなた自身や身近な人に問題を抱える人はいないが、必要な制度であると思う」の割合が70.9%と最も高く、次いで「わからない・判断できない」が14.4%、「あなた自身や身近な人に問題を抱える人がいるため、必要な制度であると思う」が7.7%となっています。



問33で「1 あなた自身や身近な人に問題を抱える人がいるため、必要な制度であると思う」または「2 あなた自身や身近な人に問題を抱える人はいないが、必要な制度であると思う」と答えられた方におうかがいします。

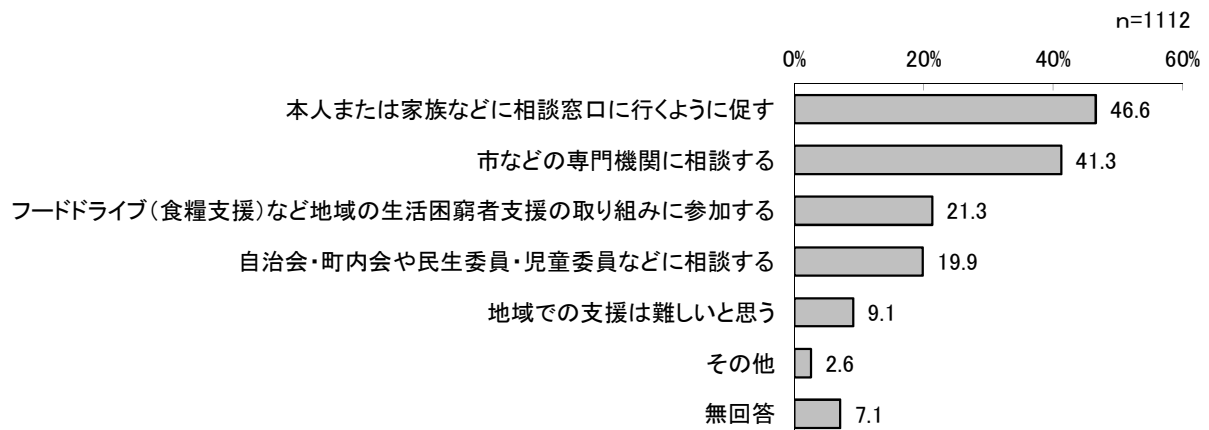
問33-1 生活困窮者の自立支援に向けて、市が行うべき支援として望ましいと思うのは、どのような取り組みですか。(あてはまるものすべてに○)

「相談支援窓口の充実」の割合が64.2%と最も高く、次いで「ハローワークなどと連携し仕事をあっせんする」が63.2%、「職業訓練などの就業支援」が56.9%となっています。



問34 地域で生活困窮者を支援する場合、あなたならどのようなことができると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

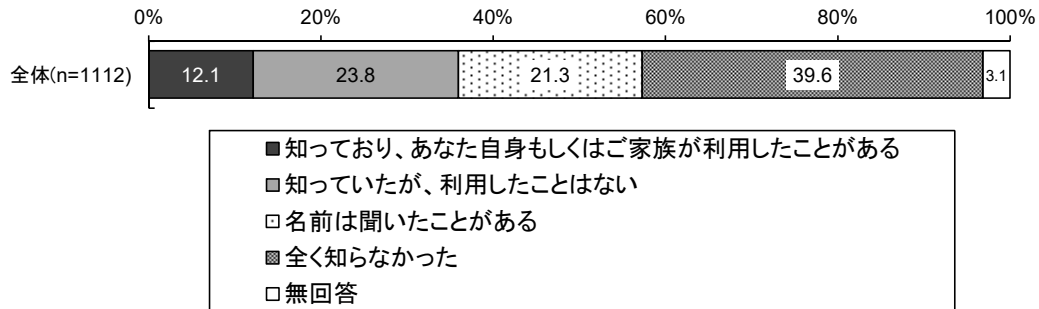
「本人または家族などに相談窓口に行くように促す」の割合が46.6%と最も高く、次いで「市などの専門機関に相談する」が41.3%、「フードドライブ（食糧支援）など地域の生活困窮者支援の取り組みに参加する」が21.3%となっています。



9 地域の福祉制度と取組みについて ③地域包括ケア

問35 あなたは「地域包括支援センター」を知っていましたか。(1つに○)

「全く知らなかった」の割合が39.6%と最も高く、次いで「知っていたが、利用したことはない」が23.8%、「名前は聞いたことがある」が21.3%となっています。



問35で「1 知っており、あなた自身もしくはご家族が利用したことがある」と答えられた方におうかがいします。

問35-1 地域包括支援センターへの相談などへの対応について、その満足度をお答えください。((1)～(4)の項目それぞれについて、1つに○)

- (1) 相談や問合せに対する対応の早さ・速さについて
- (2) 相談や問合せの経過や結果などの状況報告について
- (3) 相談や問合せに対する専門的な見地からの助言・支援について
- (4) 悩みや相談などがしやすい体制について

(1) 相談や問合せに対する対応の早さ・速さについて

「とても満足」(14.0%)と「満足」(47.1%)を合わせた『満足』が61.1%に対し、「普通」が30.1%、「不満」は0.7%となっています。

(2) 相談や問合せの経過や結果などの状況報告について

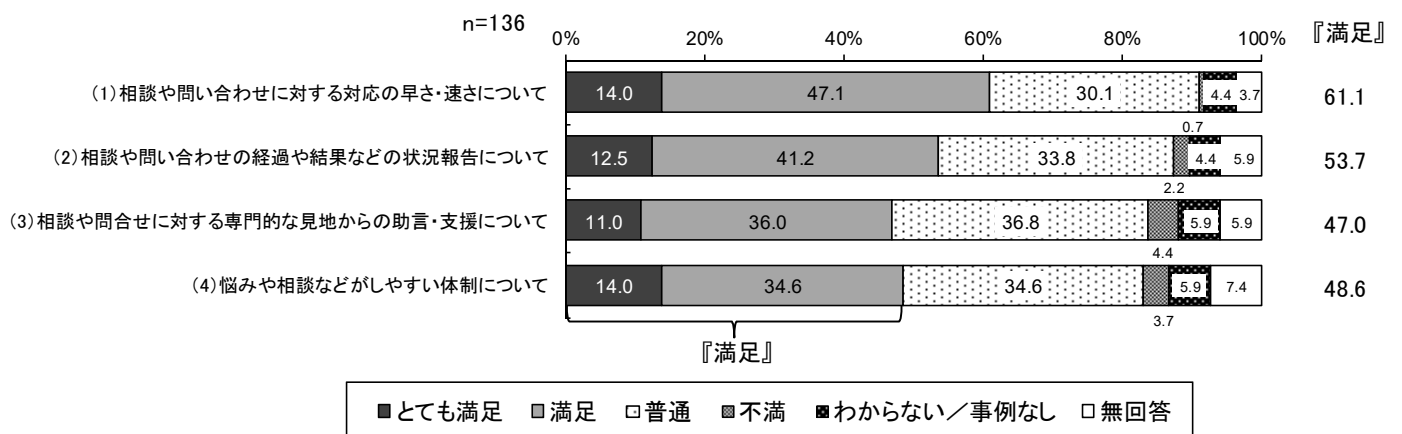
「とても満足」(12.5%)と「満足」(41.2%)を合わせた『満足』が53.7%に対し、「普通」が33.8%、「不満」は2.2%となっています。

(3) 相談や問合せに対する専門的な見地からの助言・支援について

「とても満足」(11.0%)と「満足」(36.0%)を合わせた『満足』が47.0%に対し、「普通」が36.8%、「不満」は4.4%となっています。

(4) 悩みや相談などがしやすい体制について

「とても満足」(14.0%)と「満足」(34.6%)を合わせた『満足』が48.6%に対し、「普通」が34.6%、「不満」は3.7%となっています。



問35-2 地域包括支援センターの次の各取り組みは、十分だと思いますか。

((1)～(3)の項目それぞれについて、1つに○)

- (1) センターの役割に関する周知活動について
- (2) 地域の資源（福祉のニーズをみたす団体、人、サービスなど）、市の制度や施策などに関する情報の提供について
- (3) 地域における会合や行事へ参加するなど、関係者との連携体制の構築の働きかけについて

(1) センターの役割に関する周知活動について

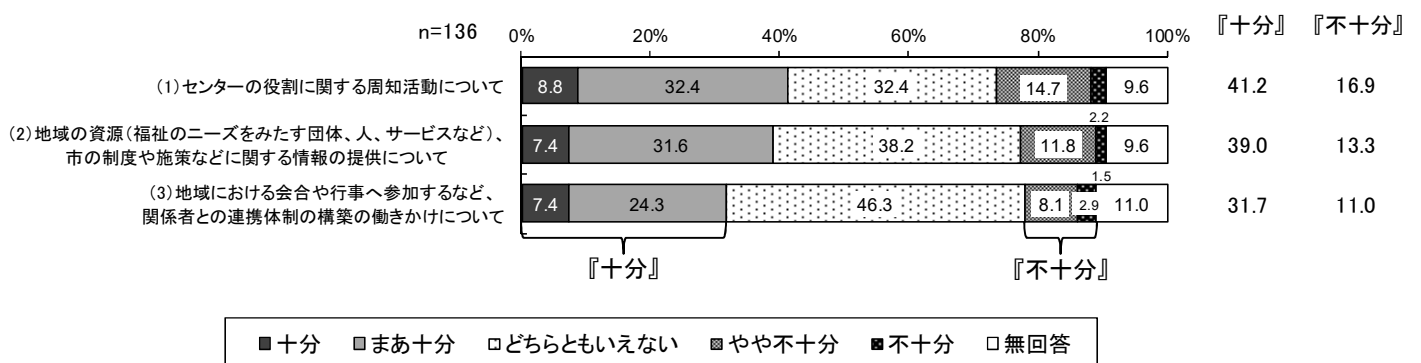
「十分」(8.8%)と「まあ十分」(32.4%)を合わせた『十分』が41.2%に対し、「やや不十分」(14.7%)と「不十分」(2.2%)を合わせた『不十分』が16.9%、「どちらともいえない」は32.4%となっています。

(2) 地域の資源（福祉のニーズをみたす団体、人、サービスなど）、市の制度や施策などに関する情報の提供について

「十分」(7.4%)と「まあ十分」(31.6%)を合わせた『十分』が39.0%に対し、「やや不十分」(11.8%)と「不十分」(1.5%)を合わせた『不十分』が13.3%、「どちらともいえない」は38.2%となっています。

(3) 地域における会合や行事へ参加するなど、関係者との連携体制の構築の働きかけについて

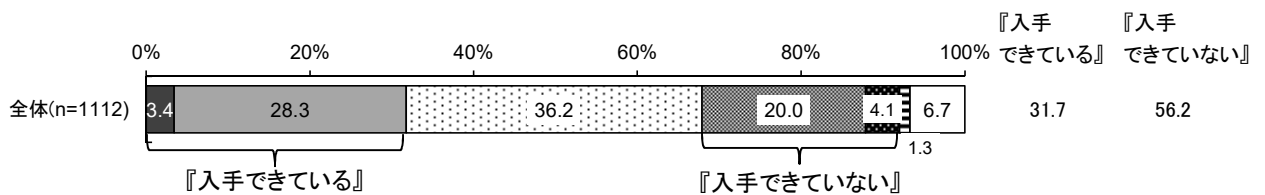
「十分」(7.4%)と「まあ十分」(24.3%)を合わせた『十分』が31.7%に対し、「やや不十分」(8.1%)と「不十分」(2.9%)を合わせた『不十分』が11.0%、「どちらともいえない」は46.3%となっています。



10 地域の福祉制度と取組みについて ④全体について

問36 あなたは、市内の福祉に関する情報（ボランティア・高齢・介護・子育て・障がい・健康など）を、どの程度入手できていると思われますか。（1つに○）

「入手できている」（3.4%）と「ある程度入手できている」（28.3%）を合わせた『入手できている』が31.7%に対し、「あまり入手できていない」（36.2%）と「全く入手できていない」（20.0%）を合わせた『入手できていない』は56.2%、「入手する必要がある」は4.1%となっています。

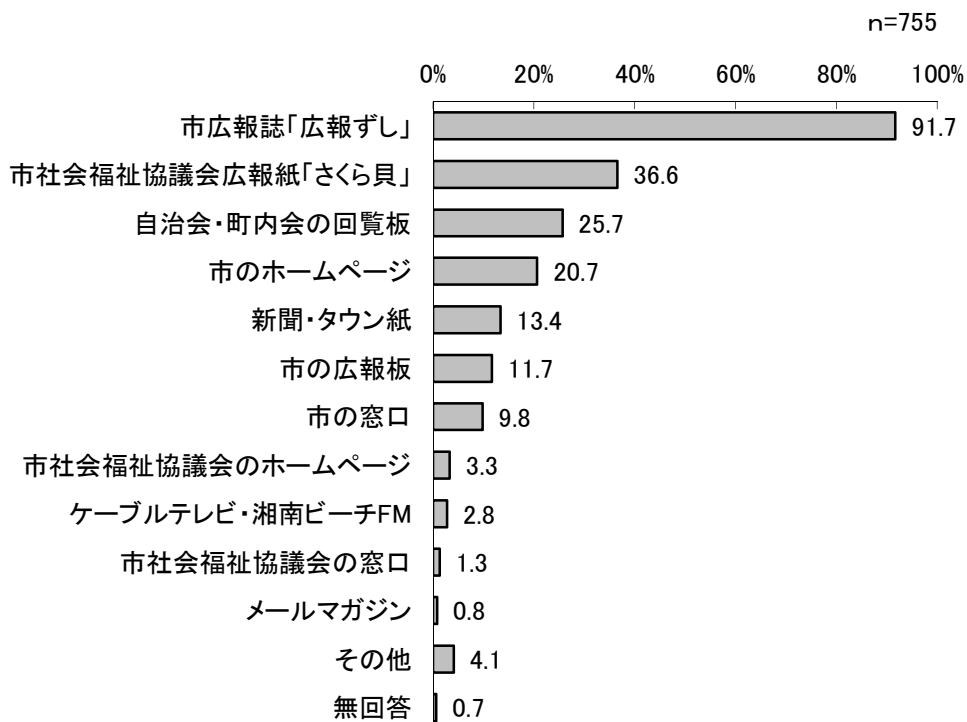


■ 入手できている ■ ある程度入手できている □ あまり入手できていない ■ 全く入手できていない ■ 入手する必要がある ■ その他 □ 無回答

問36で「1 入手できている」「2 ある程度入手できている」「3 あまり入手できていない」と答えられた方におうかがいします。

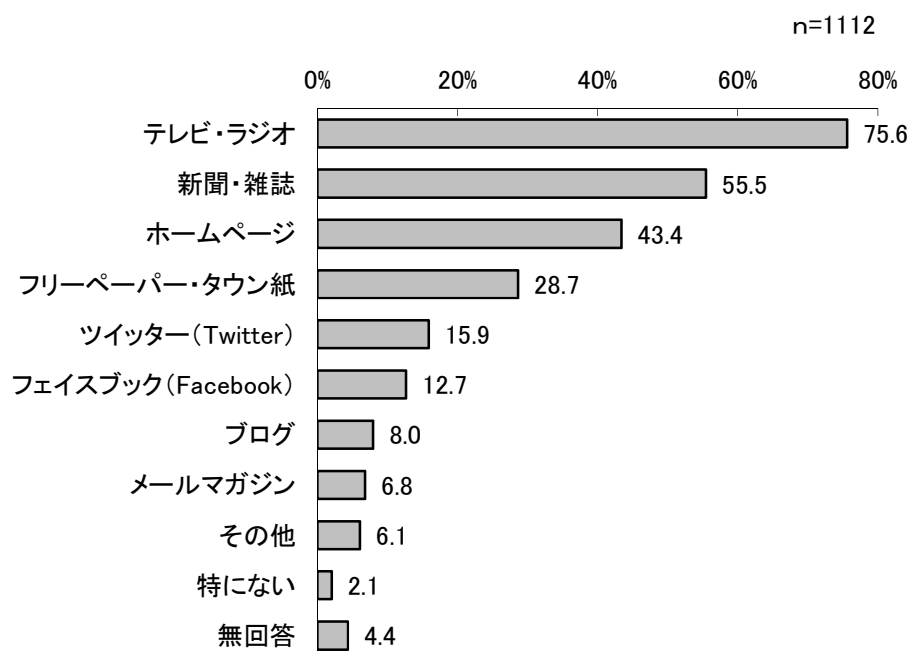
問36-1 あなたは、市内の福祉に関する情報を、どこから入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

「市広報誌『広報ずし』」の割合が91.7%と最も高く、次いで「市社会福祉協議会広報紙『さくら貝』」が36.6%、「自治会・町内会の回覧板」が25.7%となっています。



問37 あなたは、普段の生活において、どのような方法で情報を入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

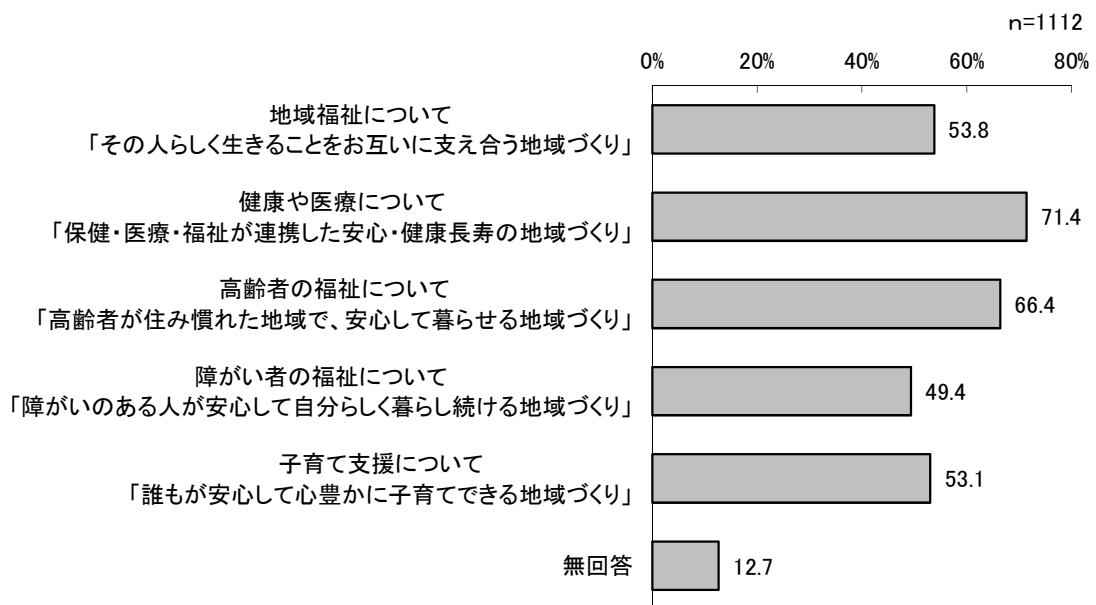
「テレビ・ラジオ」の割合が75.6%と最も高く、次いで「新聞・雑誌」が55.5%、「ホームページ」が43.4%となっています。



問38 逗子市では、『逗子市福祉プラン』などを策定し、「共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち」を目標に掲げて、5項目の福祉施策を推進しています。以下に記載した各項目の中から、あなたが関心のある項目の回答欄に○印を付け（○はいくつでも）、さらに、その項目についての満足度（各項目につき、1つに○）をお答えください。

○「関心がある福祉施策」

「健康や医療について『保健・医療・福祉が連携した安心・健康長寿の地域づくり』の割合が71.4%と最も高く、次いで「高齢者の福祉について『高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせる地域づくり』が66.4%、「地域福祉について『その人らしく生きることをお互いに支え合う地域づくり』が53.8%となっています。



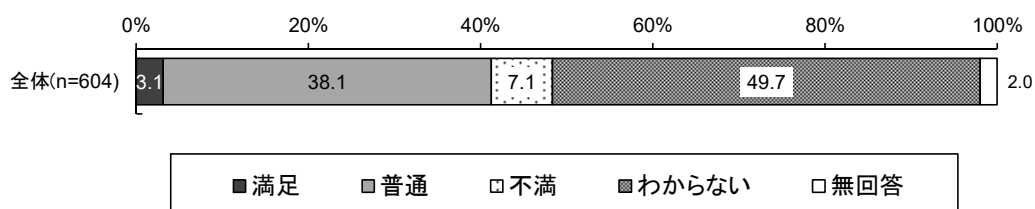
○「関心がある福祉施策の満足度」

1 地域福祉について

「その人らしく生きることをお互いに支え合う地域づくり」

福祉教育活動、避難行動要支援者の支援、生活困窮者支援

「わからない」の割合が49.7%と最も高く、次いで「普通」が38.1%となっています。「不満」(7.1%)が「満足」(3.1%)を上回っています。

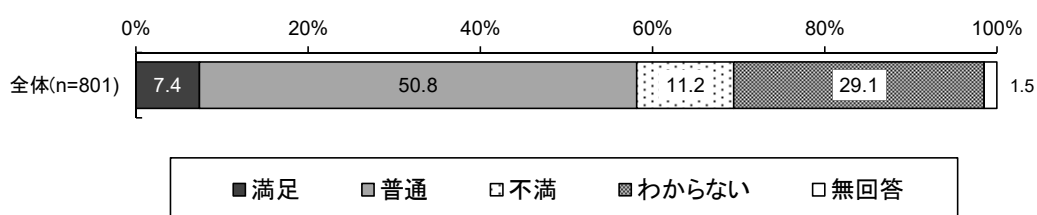


2 健康や医療について

「保健・医療・福祉が連携した安心・健康長寿の地域づくり」

健康づくり、健診・検診、地域医療

「普通」の割合が50.8%と最も高く、次いで「わからない」が29.1%となっています。「不満」(11.2%)が「満足」(7.4%)を上回っています。

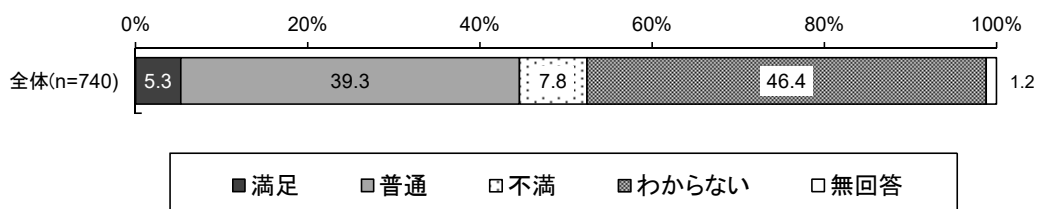


3 高齢者の福祉について

「高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせる地域づくり」

地域包括ケアシステム、介護予防、認知症支援、「生活の質」が持続できるまちづくり

「わからない」の割合が46.4%と最も高く、次いで「普通」が39.3%となっています。「不満」(7.8%)が「満足」(5.3%)を上回っています。

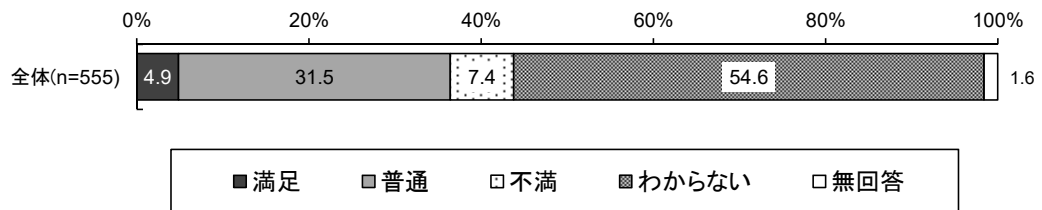


4 障がい者の福祉について

「障がいのある人が安心して自分らしく暮らし続ける地域づくり」

障がいのある子どもへの継続的支援、グループホームなどの居住の場の確保、就労の支援・雇用、障がいの理解

「わからない」の割合が54.6%と最も高く、次いで「普通」が31.5%となっています。「不満」(7.4%)が「満足」(4.9%)を上回っています。

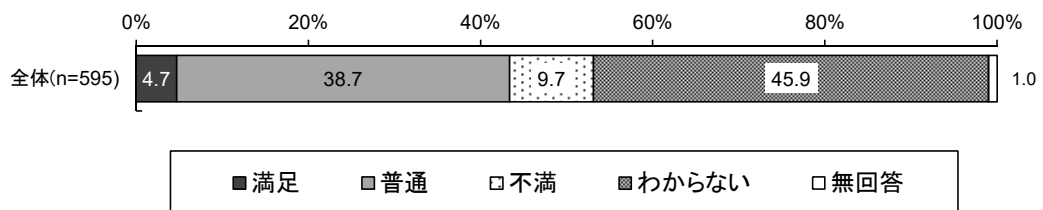


5 子育て支援について

「誰もが安心して心豊かに子育てできる地域づくり」

子育てネットワーク、子ども・親子の居場所づくり、子育てと仕事の両立、妊産婦への支援、相談窓口・体制の充実

「わからない」の割合が45.9%と最も高く、次いで「普通」が38.7%となっています。「不満」(9.7%)が「満足」(4.7%)を上回っています。



問38-1 各項目の目標を実現するために、上記の取り組み以外に、進めた方が良いと思われることがあれば、ご記入ください。

1, 112人中105人から回答があり、複数の内容に関して記入されたものを内容別に分類すると合計は121件でした。

分類	件数
情報発信の充実	12
医療環境の整備・充実	11
道路・交通環境の整備	10
行政全般	9
子育て支援の充実	8
福祉環境の整備・充実	7
経済的支援	5
保育環境の整備・充実	5
商業環境の整備	5
相談体制の整備・充実	4
多世代交流の促進	3
生活困窮者支援	3
オンライン環境の整備	3
バリアフリー推進	3
空き家・ゴミ屋敷対策	3
災害時対応	2
高齢者の見守り	2
高齢者の社会参加推進	2
若者に魅力あるまちづくり	2
地域の交流促進	1
虐待防止	1
ひとり親支援	1
専門人材の育成・確保	1
高齢者の健康づくり	1
新型コロナウイルスへの対応	1
買物支援	1
アウトリーチ支援	1
マイノリティ支援	1
その他	13
合計	121

■ 回答内容（抜粋）

<情報発信の充実：12件>

- ・若い人の利用するツールから市の情報を得る方法が必要。福祉に限らず制度を知るのに楽な方法が欲しい。(男性、10・20歳代、逗子小学校区)
- ・チラシがよく自治体のアナウンスとして使われているように感じるが、希望者にはメルマガ等にしてほしいです。全ての情報が並列に感じるので、興味のある情報、スピードを持ってタイムリーに見てほしい(伝えたい)情報が届きにくいと思います。(女性、30歳代、逗子小学校区)
- ・色々なサポートを市民によく分かるようにもっとアピールしてほしい！(女性、70歳代、久木小学校区)
- ・広報で今迄の内容を特集で知らせて欲しい(知らないことばかりです)(男性、80歳以上、小坪小学校区)

<医療環境の整備・充実：11件>

- ・総合病院の設立(近くに安心できるDrがないため)(男性、40歳代、久木小学校区)
- ・総合病院をつくる(女性、50歳代、逗子小学校区)
- ・総合病院の無いのが大変不便。災害時の病人、怪我人がどうなるのか大変心配(男性、70歳代、逗子小学校区)
- ・総合病院をお願いしたいです(女性、70歳代、久木小学校区)

<道路・交通環境の整備：10件>

- ・緊急車両が通れない道の整備、拡張。バス通り等大通でも車椅子、ベビーカーが通り易くする歩道の整備(男性、50歳代、沼間小学校区)
- ・高齢者が多く、買い物に行くのにバスを利用している方がたくさんいらっしゃいます。しかしながらバスの本数が少なく、バスの中でもたくさん的高齢者が座ることができません。バスの運転手の方の運転が荒いこともありいつもハラハラとみています。私の住んでいるところで予測はできると思いますが、バスの本数を増やすなどの工夫をしてほしいと思います。(女性、50歳代、小坪小学校区)
- ・高齢者の車(自転車、バイク含)の運転、道路の飛び出し等の指導をしてほしい。(こちらだけ努力しても、事故につながるケースがあるので)共に交通ルールの勉強会があっても良いと思います。(女性、60歳代、逗子小学校区)

<行政全般：9件>

- ・横断的なつながり 情報の一元化(女性、30歳代、久木小学校区)
- ・働く世代の逗子への誘致(支援が必要な世代が多すぎる)(女性、40歳代、逗子小学校区)
- ・年齢や貧困、健康問題など、人により困難は様々です。施策を乱立させるより、ケアラーなどにまだ働ける方をバイト採用などし、人員を増やし、予算の適切な実行が求められると考えます。(男性、40歳代、小坪小学校区)
- ・きめ細かく市民のニーズに応える対応を希望します。(男性、50歳代、逗子小学校区)

<子育て支援の充実：8件>

- ・逗子に住みはじめて4年。子供が生まれてからコロナが広がりやと外との接点つながりができると思った矢先の行動制限。なかなか子供がいながらの地域の福祉への取り組みを知ることができません。子供がいても参加可能などにすればもっと外にでられるお母さんも増えると思います。(女性、30歳)

代、沼間小学校区)

- ・子供の参加出来るイベントをもっと増やして欲しい。(音楽、映画、料理など)逗子にもっと企業の誘致して欲しい。会社も少ないのでなかなか再就職が出来ない。横浜や東京へ引越すことを考えています。(女性、40歳代、逗子小学校区)
- ・子育て支援の取り組みとして公園の充実(のびのび遊べる広場とカフェスペース)(女性、40歳代、逗子小学校区)

<福祉環境の整備・充実：7件>

- ・市は高齢者福祉と子育て支援に対しては常に何かしら目に見えて感じる様な事をしていますが障がい者福祉に対して目に見えて何か新しい取り組みが始まったりしていない感じしています。はっきり言って逗子は障がいを持っている本人、家族にとっては住みやすい環境ではないと思います。(男性、50歳代、久木小学校区)
- ・高齢者が多い地域なのに、実際サービスを利用するとなるとショートステイ先が少なかったり、大型病院が近くにない等困る事が多い。案内だけでなくすぐに利用できるように具体的に必要とされる機関を増やすようにすすめて下さい。(女性、50歳代、沼間小学校区)
- ・仕事をしている頃、特に期末の2~3月の忙しいとき、母を空きがあればできるだけショートステイさせてもらうなど配慮してもらってとても助かった。一人一人の事情に合わせて、あいてますよと声をかけるなどきめ細かな現場の対応があると、とてもありがたい。(女性、70歳代、逗子小学校区)

<経済的支援：5件>

- ・小児医療費の助成が近隣市に比べ著しく悪い。所得制限のため、利用出来ず不平等(男性、40歳代、沼間小学校区)
- ・高齢者のバス料金、東京や横浜の友人は無料なのに、私だけ有料は不公平に思えます(女性、80歳以上、小坪小学校区)

<保育環境の整備・充実：5件>

- ・自然環境を活かした保育園が少なく、小さい子どもを持つ家庭が逗子市を選びたくなるようにしてほしい。せっかく逗子に住んでも都内と同じような保育園しか実質選択肢がないのが現状。(男性、30歳代、逗子小学校区)
- ・保育士を増やしてほしい。入りたい時にいつでも入園できる保育園がない。(女性、30歳代、久木小学校区)

<商業環境の整備：5件>

- ・逗子市は飲食店が非常に多いが、衣料品店が少ないのが残念。池子に住んでいるが、スーパーもなく高齢者が多いのでスーパーを作してほしい。(女性、30歳代、池子小学校区)
- ・買物をする所が少ないので様々なお店を誘致してほしい。生活必需品を逗子市内、各地域で揃えられるような街づくりもしていくと住みやすくなると思う。(男性、80歳以上、小坪小学校区)

問39 逗子市では、地域住民が“支える側”“支えられる側”という関係を超えて、互いを尊重し共に生きることを基盤とした「地域共生社会」の実現に向けて、次期「地域福祉計画」などを策定します。「地域共生社会の実現を進めていくためにはどうしたらよいか」など、ご意見があれば自由にご記入ください。

1, 112人中193人から回答があり、複数の内容に関して記入されたものを内容別に分類すると合計は250件でした。

分類	件数
地域の交流・支え合いの推進	43
行政全般	27
情報発信の充実	25
道路・交通環境の整備	12
災害時対応	12
福祉環境の整備・充実	10
高齢者の社会参加推進	8
団体・ボランティア支援	8
市民協働・地域活性化の推進	7
相談体制の整備・充実	7
多世代交流の促進	7
新型コロナウイルスへの対応	7
医療環境の整備・充実	6
高齢者の見守り	6
教育環境・福祉教育の充実	5
若者に魅力あるまちづくり	4
プライバシー・個人情報保護	4
アウトリーチ支援	4
福祉に関する意識	3
子育て支援の充実	3
生活困窮者支援	2
空き家・ゴミ屋敷対策	2
ひとり親支援	2
買物支援	2
経済的支援	1
オンライン環境の整備	1
バリアフリー推進	1
異業種・異分野連携の促進	1
高齢者の健康づくり	1
その他	29
合計	250

■ 回答内容（抜粋）

<地域の交流・支え合いの推進：43件>

- ・私は昨年逗子に引っ越してきました。逗子は地域全体が共に助け合い協力している街という印象を持っています。私もその輪に入りたいのですが、中々きっかけがなく1年が過ぎてしまいました。最近では地震が増えたり、豪雨に見舞われたりと自然災害も増えているので、もう少し地域の方と交流し、何かあったらお互いに助け合える関係を築けるきっかけが欲しいなと思います。（男性、10・20歳代、逗子小学校区）
- ・互いを尊重し共に生きるという考え方にとても賛成します。しかし、具体的にどう行動するべきなのかわかりません。20代という世代だからこそ出来ることがあると思いますし、助け合いたい気持ちはありますが、近所の方と繋がるきっかけや、困り事を知る方法がないです。繋いでくれる仕組みがあるとうれしいと思います。上手くいっているモデルケースのようなものを紹介してくれるとイメージがわかっていいのではと思います。応援しています。（女性、10・20歳代、逗子小学校区）
- ・山の根自治会は風通しがよく、普段から道で会えば挨拶を交わし合い、地域のつながりに非常に満足しています。最近新しいマンションやアパートが増え、移住されてきた方も増えていると思いますので、地域になじめるよう声かけやサポート、情報提供が充実していくといいなあと感じます。（女性、30歳代、久木小学校区）
- ・地域での近隣の方との関わりがとても希薄で気楽さのある反面、どんな人がそばに住んでいるのか知っていたい気持ちもあるので、近隣の人と関わるまたは顔見知りになれる程度の何かがあれば参加したい。出来れば子連れで参加して、今後に続くものに出来たら安心。子持ちの親同士が知り合い助け合えるきっかけづくりになると思います。（男性、40歳代、沼間小学校区）
- ・逗子市では自己完結で生活されている方が多いのでは。“支える”“支えられる”に慣れていないのでは。（男性、50歳代、逗子小学校区）
- ・「地域共生」の考えは地域差があります。例えば、新宿のように住民の把握や見守りがお互いに出来ているところもあれば、町内会の情報だけで終わっている地域もあります。そこにはやはり市の力だと思います。地域包括から地域の特色を聞きぜひ町内会に働きかけニーズ調査をしていただきたいです。それからヘルプカード作っていただきたいです。認知症の人でも幼児がいるお母さんでも助けがほしい時にこちらが声をかけやすいカードがあれば助かります。よろしくお願いします。（女性、60歳代、逗子小学校区）
- ・最近、若い子供さんのいる住民が増えてきているように思い、それによって「子供つながり」は出来ているが、元からいる中・高齢世帯とは連携がない。「災対」「防災」なら共通テーマになりうるので、それを切り口に「地域の人顔がわかる、話せる」ように持っていったら？（コロナ後ですが。）（男性、60歳代、久木小学校区）
- ・昔から「向こう三軒両隣」と言いますが、良い事だと思います。それを実行していきたいです。（女性、70歳代、池子小学校区）
- ・地域共生社会の考え方に賛成です。その実現のためにどうすればいいのかについて現在も働いている私自身考える時間がありませんが、80歳を超えた今深く考える必要があると思います。支える側から支えられる側へと近い将来置かれる立場が変わる訳ですから、真剣に考えるべきだと思います。そうした機会を与えてくれたことに心から感謝します。（男性、80歳以上、久木小学校区）

<行政全般：27件>

- ・企業の誘致、財源の確保。（男性、10・20歳代、久木小学校区）

- ・世代ごとに価値観や重要度を感じていることが違うので、誰がどこにむかって(目的)地域活動をしていくのかが、見えてこない。細かく目的に分けたわかりやすい活動にしていくのが良いと思う。世代や立場、状況をシンプルにし、イメージしやすいキャッチフレーズや活動内容にすると良いと思う(例えば子ども食堂、フードドライブのような)。基本的には個人の生活に支障がない程度の関わり合い方が良いと思う。(子育て中の家庭は両親共に自分達の家庭の収入を得るのが精一杯なのが現状です！！逗子移住者などはとくに祖父母に頼ることは出来ません。)(女性、40歳代、無回答)
- ・逗子は逗子らしく。他に流されることなく。逗子市民に目を向けてほしいです。小さい市です、もっと独自に進めてほしいです。コロナにおいてももっと先陣を切った行動、活動をしてほしかったです。今後に大いに期待しております。(男性、50歳代、逗子小学校区)
- ・新しい命、子どもは“宝”だとよく言われます。日本人も少なくなっただけで子供はやはり大事だと思う。考えることは同じです。しかしながら50代以上(30～40代はまだ働き口が多数なので)の独り暮らしには世の行政はあまり親切に思えない。子育てママの支援はともあるのに、中年世代の支援等は少ないように思えます。市が何か趣味や体験等を行う場合、ほとんどが平日。習ってみたいと思ってもパート勤務は(時給もしくは日給なので)休めない。そんなことから“市”のことはあまり関心がなくなりました。(女性、50歳代、逗子小学校区)
- ・逗子の財政の安定化を望む。住民税を安くしてほしい。若い人が住みたい街へ。(男性、60歳代、沼間小学校区)
- ・現在、逗子市が取り組んでいる種々の施策について何となく聞いたことはある程度で、具体的にどんな方針、組織で行われているのかほとんど知らない状態です。まずは分かりやすい工夫が必要と思われれます。しっかりとしたシステムの構築にゆるやかな参加、気負い・負担感なくごく自然な形で気軽に参加できるのがベストと感じます。ベタな親しさより適度な距離感、使い勝手の良いルール作りを!!(女性、70歳代、久木小学校区)
- ・逗子市民になって9年になり、自然に恵まれた生活環境には満足している。地域に関わることも少なく、後期高齢者として年を重ねていますが、地域での共生社会と福祉活動のできる環境づくりは引き続き進めてほしい。(男性、70歳代、池子小学校区)

＜情報発信の充実：25件＞

- ・このアンケートを通じて初めて知ったことばかりだったので同年代の逗子に住む人も恐らく同じだと考えます。SNSなどでも若者に対して様々な活動などを発信してほしい。(男性、10・20歳代、逗子小学校区)
- ・先ずはこのような機会をありがとうございました。回答をして感じたことは、様々な機会があるのにもかかわらず、全然知らなかったということです(興味はあるのに…)。例えば、住民票を出すときなどにこのような情報が手に入れば良いなと思いました。あとこの回答用紙もインターネットだと助かります。いつもありがとうございます。(女性、10・20歳代、逗子小学校区)
- ・子どもが成長し、手がかからなくなり親はまだ元気。自分は車の運転も出来て特に不自由はないのが現状。こういった世代に向けて今後起きる親の介護や自分自身の健康、収入、暮らしサポートについて理解を深めてもらう啓発が必要ですね。制度が整っているのに知らなかったり、いざ困ってから慌てることが少なくなるよう、地域でのサポートにも注目するきっかけになりました。ありがとうございました。(男性、40歳代、沼間小学校区)
- ・常に新しい情報を入手できる状況が欲しいがそれはどういう形であればよいのかは分かりません。ネットから取るのか？広報から取るのか？ホームページも分かりにくいです。(検索機能が特に！！)(女性、50歳代、逗子小学校区)

- ・地域包括センターの名前は知っていたが、場所や電話番号などどんな活躍されているのか、もうすこしくわしく知らせてほしい。(女性、70歳代、池子小学校区)
- ・地域福祉について私は知らない事が多い。広報ずしなどを通じて広く情報を多くの市民に知らせてほしいと思います。(男性、70歳代、逗子小学校区)

<道路・交通環境の整備：12件>

- ・道が狭いのでガードレールを作してほしい。お年寄りや子どもが車道と近くて見えて怖い時があります。(女性、40歳代、久木小学校区)
- ・お互いを尊重するという点で、問12に挙げた困りごとのように、無法地帯化した道路等に対し、行政が強く指導し、みながルールを守ることで実現への一歩かと思う。自分の家や住む街が安心安全と感じられてこそ、他者の事を考え、尊重できるのではないかと思う。正直、この街で年を取って暮らしていけるか、不安がある。狭い道では車の運転もできなくなる、狭い歩道では車イスは通れないし、自分のペースでゆっくり歩くこともしづらい。街に出ても休む所もなく、友人とお茶をする場もない。年を取ることにワクワクできるような街になってほしい。そのための政策を期待します。逗子ならではのコンパクトさを活かし、モデルになるような政策をぜひ。(男性、40歳代、逗子小学校区)
- ・手術の出来る大きな総合病院が無いので不安。遠くまで行くのが大変。(母の通院) 逗子銀座通りの歩道はまだまだ自転車を走らせる人が多く歩いていると歩いている人がよけている。高齢者やベビーカーを押しているお母さんたちが安心して歩ける様にしてほしい。(女性、50歳代、小坪小学校区)
- ・道路がせますぎる。家のたてなおし、引越、退去、セットバックを協力ベースでなくて必ずをお願いしたい。災害時の避難所にペットもOKにして欲しい。入れないのがわかるので避難しない人が多いと思う。(男性、60歳代、無回答)

<災害時対応：12件>

- ・定年退職された方が家売り、賃貸を選択される方が増えている。一部地域に何歳以上等制限を設定した福祉的優遇された所を作ってはいかがでしょう。安全な場所(災害的に)高齢な方や障がいをもつ方が集まれば管理が容易になるのでは？ 少子高齢で若い人の負担を減少させるには高齢者同士の支え合いが必要なのでは？(男性、10・20歳代、久木小学校区)
- ・津波が発生した時、現在の避難場所で本当に大丈夫なのか心配です。特に海岸近傍の市民が時間をかけないで避難できる場所(施設)を市や県が積極的に用地取得して建設していただくよう切望します。(男性、50歳代、逗子小学校区)
- ・災害など全ての事は地域ごとで一家ごとに把握していった方が良いと思います。これは国に言う事ですけど、年金をどんどん減らしてこのままだと生活できません。元にもどしてください。切にお願いします。(女性、80歳以上、沼間小学校区)

<福祉環境の整備・充実：10件>

- ・家庭内でケア・ギバーの役割を担う人がいればその人の負担を減らす支援も検討して頂きたい。(女性、30歳代、久木小学校区)
- ・障害をもった方が働きやすい環境づくり、働く場所の拡充など、その人に合った職場を選択しやすいようにしていくとより自立支援につながっていくと思います。また一見では病気とわからない人々に対する(ASDやADD、AHDなどの傾向がある人など)周囲の人々の理解や認知を深める機会づくりが増えたらいいと思います。(お子さんだけでなくご両親に対する支援につながるかと)(女性、50歳代、逗子小学校区)
- ・もっと障がい福祉に対して積極的に取り組んでほしいです。例えば、第一運動公園をインクルーシブ

公園にしていき、障がいの有無関係なく子どもたちが遊び、親たちが交流できるようにする等。そうすることで、障がいを持ったお子さん家族も逗子に住みたいと思ってもらえると思います。自然環境や通勤環境等は充分なので。(男性、50歳代、久木小学校区)

- 支えられる側としては個人的によく理解できる方法を取って頂けると嬉しいです。また、その手続きがむずかしかったり、あちこちに連絡しないといけない事などないようにお願いしたいと思います。(女性、80歳以上、久木小学校区)

＜高齢者の社会参加推進：8件＞

- 全国的に少子高齢化対策が課題となり、逗子市も高齢者の割合が神奈川県内で6位とのこと。高齢者は体調の悪い方も多いですが、一方で健康的に過ごされている方もいて、その方たちの力をお借りすることで、乗り切っていけることもあるのではないかと思います。フレイルの発症を社会的活動に参加することで遅らせる事ができ、医療の面でも好ましい結果に繋がるのではと考えられます。全てをボランティアに無償で頼るのではなく、ヘルパーさんや子育て支援の方たちのように、有償であっても市が負担して元気な高齢者に人材として力になっていただくことが、結果的には双方のためになるのではないかと考えています。コロナ禍でご苦労も多々あると思います。市職員の皆様には深く感謝申し上げます。(女性、50歳代、久木小学校区)
- 高齢の方でも出来るお仕事を作ってさしあげたり、社会生活への継り、(少しでも)収入を得る事への満足感がこれからのさらなる高齢化に向けて大切だと思います。(女性、50歳代、逗子小学校区)
- 高齢者であり仕事をする意欲のある者への就労支援を望みます。(女性、80歳以上、沼間小学校区)
- 高齢化が進んでいると言われていますが、高齢者を(健康な方々がたくさんいます)諸々の活動に参加するような仕組み、高齢者が参画しやすいような仕組みを何か作る必要があると思いますが？何かをやれば(世の中のために役立つ)、高齢者もやりがいを感じ地域に有効に作用すると思います。(男性、80歳以上、久木小学校区)

＜団体・ボランティア支援：8件＞

- 市内では若者が自主的にグループをつくって社会福祉活動を行うことがある。そうした団体に対し市や社協は適切な指導と援助を行うべきだと思う。(男性、10・20歳代、逗子小学校区)
- 人により好ましい距離感が異なる点が難しいので、お互いの希望レベルが分かったり、希望レベルにあったメニューが選べる工夫があると良さそうに思います。ボランティアをしたくなるような仕組みを作る。ポイントで釣るのはボランティアの趣旨から外れるかもしれませんが、ボランティアの物々交換的仕組みなど。(女性、50歳代、沼間小学校区)
- 地域には支える側としての人材が多くいるのが逗子の良いところだと思います。その人々と支えられる人をつなぐコーディネートの役割が弱いと思います。特に子育て世帯の孤立については少しつながる場やつながり方法がもっと必要だと考えています。コミュニティスクールやボランティアやサポーターのコーディネートの出来る仕組みがほしいです。個人やグループで頑張っている人の話はよく聞きますが、行政を通じないとなかなか支援が必要な人に情報が届かないと思うのでそこをお願いしたいと思います。また自分で情報に手が届かない人、1人で困って助けを求めにくい人に積極的に支援に乗り出すことも今後必要なのではないかと思います。(女性、50歳代、逗子小学校区)
- 今回の意識調査で初めて知る内容もありました。自分自身が無関心であったためかもしれませんが、もう少し身近で色々なボランティア活動の情報が得られれば参加するチャンスにも繋がり、その活動が共生社会への意識にも繋がると思いました。(女性、60歳代、久木小学校区)

<市民協働・地域活性化の推進：7件>

- ・住民参加型のワークショップを実施して、住民を巻き込んだ策定を進める。地域のイベントを開催して市の活動を情報発信していく。(男性、30歳代、逗子小学校区)
- ・行政が町内会と協力し更なる活動の活性化を目指して頂きたいです。相乗効果で地域共生社会を目指す。(男性、40歳代、沼間小学校区)
- ・大変難しい課題です。必要のない人、関心がない人もいます。市と協力出来る人が少しずつ進めていくしかないと思います。(男性、60歳代、小坪小学校区)
- ・逗子市と市社協、住民が一体となり、連携しながら自分達の問題として、地域共生社会づくりをどう取り組んで行ったら良いかを真剣に考え、計画的に実現をめざす体制づくりが必要かと思います。(女性、70歳代、沼間小学校区)

<相談体制の整備・充実：7件>

- ・役所が平日のため、中々相談事があっても出来ない。予約などをして休日に手続き、相談が出来るかと有難いです。仕事が日曜休みの人もいるため検討をお願いします。(男性、50歳代、池子小学校区)
- ・市民が気軽に足を運べて相談できる窓口を増やして何を困っているのか現実何が足りていないのかを把握してほしいと思います(前頁で書いたようにショートステイや大型病院の設置等)。自分で足が運べない人やタイミングをのがしてしまう人も多いと思うので巡回や電話等細かく対応していく事も必要ではないかと思います。時間がかかりすぎるのでは意味がないのですぐにとりかかって下さい。逗子は遅れていて利用できるまでに不安がつります。「安心して暮らせる」を目標に細かい調査からお願いします。(女性、50歳代、沼間小学校区)
- ・近隣トラブルに悩まされ心身ともに不調をきたしましたが、相談できるところがわからず大変困りました。警察に相談にしても民事不介入のためと、自治会への相談を促されましたが、自治会とのつながりはあまりなく、誰を窓口相談を持ち掛けていいかもわかりませんでした。近所づきあいなどで困った時に相談にのっていただける窓口や対応していただける部署が市の行政の中にあると本当に助かります。(無回答、無回答、無回答)

<多世代交流の促進：7件>

- ・若者と高齢者が交わる場を設け、互いの世代への理解を深める(女性、10・20歳代、逗子小学校区)
- ・高齢者という言葉や枠組みは好きではないけど、元気な高齢者の方々と子どもたちの交流がもっとあればいい。昔遊びや歴史の話を身近に体験することによって、子供達も高齢者の方々に対する対応がより良くなると思う。私の子供は中学2年生になる今も小学1年生の頃からずっと通学時間に見守って下さる方々にあいさつをしています。当たり前のことですが出来ない子どももたくさんいます。見守りはとても素晴らしいことです。感謝しています。地域で年齢関係なくもっと交流できたらいいですね。そのような学童とケアセンターが合併した施設を作りたいと考えています。(女性、40歳代、久木小学校区)
- ・高齢の父と同居するために2年前に逗子に移住してきました。自分の年齢的に他の人と接する場がない、わからない。地域では高齢化が進んでいるが、若い世代との接点がない。地域で分断されている感じがする。共生していくのなら老若のまずは接点として交流していく場が必要だと思う。また、でき上がっているコミュニティに後から入っていくのはかなり難しい面がある。その辺が改善されたら住みやすい逗子になるのではないか。(女性、60歳代、沼間小学校区)

<新型コロナウイルスへの対応：7件>

- ・コロナ禍で非対面でも可能な作業は機械化にし、福祉関係はどうしても対面でないと(の方が)人と人の関係を大事にしながら行う仕事なのでもう少し市の仕事を整理し、人相手の方へ増員して頂きたいと思っています。コロナ禍で大変だとは思いますが、もうひと押し税金の使い方を考えて頂ければと思います。(女性、50歳代、久木小学校区)
- ・人に関心をもつことからなので、大変な作業かと思えますし、個人差があると思えます。コロナ禍ではありますが顔をあわせることがつながる始まりなので、機会をつくっていただくよう要望いたします。(女性、70歳代、池子小学校区)

<医療環境の整備・充実：6件>

- ・断念した総合的病院誘致計画を再度検討。(男性、30歳代、逗子小学校区)
- ・総合病院の設立。子育て支援の強化(所得制限なし)。交通網の整備拡充。自然災害に対する対策強化。移住誘致。(女性、40歳代、久木小学校区)
- ・病院を増やしてほしい。(女性、40歳代、池子小学校区)

<高齢者の見守り：6件>

- ・鎌倉から逗子に越して2年半。鎌倉では各丁目ごとに民生委員という方がいて、何かあるとその方に相談していてとても関係が密でした。逗子では色々考えて下さっている事が分かりましたが、私は家族がいるので必要を感じませんが、定期的に訪問という事ができたら良いのかなあと思いました(今個人情報とかで難しいでしょうが)。(女性、70歳代、逗子小学校区)
- ・高齢者や障がい者の安全確認のためには、相互確認できるようにiPhoneやタブレットを支給した方が良いと思う。(男性、70歳代、小坪小学校区)
- ・逗子市に住むようになって約5年になりますが、今までに一度も回覧板が来たことがありません。交番の方も1・2度来ていますがそれだけ。民生委員の方も今までに2回か3回しか来たことがありません。80歳を過ぎた夫婦で住んでいますので、もう少しきめ細かい訪問があってもいいのではないのでしょうか。(男性、80歳以上、逗子小学校区)

<教育環境・福祉教育の充実：5件>

- ・長期的には政治、学校教育の改善、損得教育をしなない。短期的には屋外空間の充実。人が外を歩くようになること。留まる場所をたくさんつくること。家から出ないとお互い顔も見えないし、交流も生まれない。留まる場所をつくったら、自由に使えるようにすること。禁止事項ばかりの場所は息が詰まる。(男性、30歳代、久木小学校区)
- ・まずは、「支える側」の拡充のために学校教育を通じて地道に余裕のある者がそうでない者を助けるのは余裕ある者の義務である、という価値観を広めていくのが大切だと思う。逗子市民は民度が高いので若い子たちはやってくれると思います。次世代に託します。(男性、30歳代、沼間小学校区)
- ・市内の小・中学校の活動にボランティア活動体験を加えてほしい。高齢者の方のバス代を無料にしてほしい。また、コロナ禍で孤立してしまった方がたくさんいらっしゃると思いますが、コミュニケーションが大きく減少すると、精神的にも肉体的にも多大な悪影響があると思います。具体的に何をしたら良いのか難しい問題ですが、少々おせっかいなぐらいのシステムが何かしらできると良いなと思います。(女性、40歳代、小坪小学校区)

《第3部 関係団体等ヒアリング調査》

第 I 章

調査の概要等

1 調査の目的

実際に地域で活動を行っている方を対象にヒアリング（インタビュー）調査を行い、地域福祉課題や他団体との連携についての考え方、団体が持っている課題等を把握して、次期「逗子市福祉プラン」「逗子市地域福祉計画」「逗子市地域福祉活動計画」に反映させることを目的とします。

2 調査実施の方法

- ・対象団体（種類）：(1)住民団体、(2)当事者団体、(3)支援者団体（専門職団体を含む）、(4)社会福祉法人 …計 15 団体程度
- ・実施方法：
 - ・ヒアリングテーマを事前に通知したうえで、対面によるインタビューを実施。
 - ・グループヒアリング（グループインタビュー）方式を採用。
- ・ヒアリングテーマ：(1)対象団体が持っている課題 (2)コロナ禍による対象団体の活動への影響（コロナ禍の前からあったもの・コロナ禍により深刻化したもの）(3)他の団体との連携の状況と今後の方向性(4)対象団体が把握している地域福祉課題
- ・実施時期：令和4年1月（下旬）
- ・実施グループ/日程

区分	グループ①	グループ②	グループ③	グループ④
対象団体種別	地域活動団体① (支援者団体・当事者団体)	地域活動団体② (支援者団体・当事者団体)	専門職団体・社会福祉法人	住民団体
具体的な出席団体	<ul style="list-style-type: none"> ・逗子市育児サークル連絡協議会 ・逗子市身体障害者福祉協会 ・逗葉ろうあ協会 ・ずし子ども0円食堂プロジェクト ・小坪地区青少年健全育成推進会(こつぼ子ども食堂) ・久木住民自治協議会子ども部会(みんなの食堂) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人ズシップ連合会 ・逗子市ボランティア連絡協議会部 ・逗子災害ボランティアネットワーク ・逗子市青少年指導員連絡協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談事業所「カモミール」 ・公益財団法人 逗葉地域医療センター ・社会福祉法人 逗子市社会福祉協議会 ・社会福祉法人 湘南の凧 ・社会福祉法人 ふたば会（双葉幼稚園） ・社会福祉法人 地域福祉協会（逗子ホームせせらぎ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・逗子市民生委員児童委員協議会（東部・中部・西部） ・逗子市住民自治協議会（池子小学校区・久木小学校区・小坪小学校区） ・お互いさまサポーター（グリーンヒル、山の根、光明寺団地）
実施場所	逗子市役所（5階会議室）			
実施日時	令和4年1月21日 14:00～15:40	令和4年1月26日 10:00～11:40	令和4年1月26日 14:00～15:35	令和4年1月27日 10:00～11:35
備考	「逗子市手をつなぐ育成会」は対象であったが当日は欠席。→後日、書面により聴取。		「Z-ケアネット」は対象であったが当日は欠席。→後日、書面により聴取。	「沼間小学校区住民自治協議会」は対象であったが当日は欠席。→後日、書面により聴取。

第 Ⅱ 章

調査結果のまとめ

1 団体が抱えている課題

- 会員数の減少。
- 連合会を構成する（高齢者の）会の数の減少。
- メンバーの高齢化、後継者不足。
- 役員のみ手がない。
- 手話で生活するろうあ者の減少（口話しかできない人の増加）。
- 個人情報の“壁”。
- 情報化への対応が困難。
- 福祉人材が不足しており、（法人における）人材の確保が課題。
- 「個人情報の壁」やひとと深く付き合わない昨今の風潮で、コロナ禍も相まってボランティアに参加しなくなりがちである。自治会もその例に漏れず、特に役員就任は敬遠される。
- 問題が起こったときに助け合える心がけとして、「あいさつ運動」の推進が効果的だと考えられる。
- 自治会活動を知り、参加してもらうのに、地区清掃の行事をきっかけにすると効果的。子育てが終わった方たちにご参加いただくのも良い。
- 近所のお茶会等のちょっとした行事を有効活用して、清掃や災害時対応等の活動にどのようにつなげていくかが課題。
- 防災倉庫の整理やどんど焼きが、活動参加へのきっかけになった事例がある。また、ごみステーションでのちょっとした情報交換が、自治会が無い地域でつながりができるきっかけになっている。
- 多くの方が、内心は“顔の見える付き合い”をしたいのだろうと思われ、例えば学校登下校時の見守りや、雪かきへの参加、“猫友”コミュニティなどがきっかけになりそうに思われる。
- “ママ友”、“犬友”、ごみ捨て等を核に近所のつながりを発展させていくと良いが、昔のあり方に回帰するのではなく、全く新しい枠組みづくりを図ると良いと考える。
- 「逗子市避難行動要支援者避難支援制度」は、1人の支援対象者に複数のサポーターが付く仕組みになると良いと考える。また、サポーターが離れた所に居住の人になっている場合など、隣近所の方に「サブサポーター」をお願いできると良い。
- 今後ステップアップしていったって何ができるかを、市行政を核として再考していけると良い。
- 民生委員児童委員協議会として、例えば民生児童委員の具体的な活動内容などといった、情報提供する情報の中身を精査していくことが課題。
- 地域での交流のきっかけとして、例えば市の国保健康課など、行政が行っている事業を活用していくと効果的である。
- 地区に公園も会館等も無いので適当な場所が無いという問題はあるが、「お互いさまサポーター」の定例会が“気付き/集いの場”になると良いと思う。

2 他団体との連携の現状と今後の方向性

- 「青少年指導員連絡協議会」と「自主防災組織」との間の“横の連携”、そして市役所との連携が不可欠になっている。
- 「ボランティア連絡協議会」で、全体行事を通じてなどで各ボランティア団体間の連携を強めていくことが大切だと考えている。
- ボランティア団体と自治会との連携の構築が重要であると考えている。
- 保育園等と民生委員児童委員との連携の強化も必要である。
- 「在宅医療・介護の一層の連携」の推進が重要になる。
- 多職種連携がより重要になる。
- いわゆるコロナ禍での現在の感染増について、いたずらに恐怖感を煽るような報道のあり方の変更を企図する。
- 学校等と連携しての教育（福祉教育）の充実を図っていく。
- 今後、他団体との連携の重要性が増していくと推測するが、福祉（や医療）だけでなく、むしろ異業種の団体との連携の必要性が高まるだろう。
- 他の団体等との連携などでネットワークによる対応を推進しつつ、一方では、サービスの依拠する制度等が異なるためそれぞれ区別していく必要も出てくると思う。
- 団体間等の連携については、逗子は市役所に「地域共生係」を置く等地域共生社会の確立に向け“形”ができてきていると思われ、今後の事例の積み重ねが重要になるものと考えている。

3 団体がコロナ禍により受けた活動への影響

- 「子ども食堂」が担ってきた「子ども等の居場所」としての機能が果たせなくなった。
- 子ども食堂で行っていた子どもたちへの学習指導等ができなくなった。
- 『ほっとスペース』の利用人数制限等によって、0～2歳児とその親の行き場がなくなってしまった。
- 「触ってはいけない」という原則になり、視覚障がい者の色々な物の確認が困難になってしまった。
- マスクのせいで話者の口元が見えず、聴覚障がい者が困惑することが多くなった。
- 現在ではまた違う状況になっているが、コロナ禍になって令和2～3年は医療機関等の受診控えが多く、健康診断の受診者も減少して昨年度は健診受診が無しとなった方もみられた。また、普段は行わない午後の健診受診も実施。
- PCR検査も行い、「地域療養神奈川モデル」を実施するなど、業務繁忙となった。
- 一時期、感染を恐れた特養ホームの支援ボランティアが来なくなってしまった。また、その休止期間の間にボランティアの団体の解散も起きた。
- 障がいのある利用者にマスク着用の意義を理解してもらうのが困難だった。
- 障がいのある利用者が体験活動を行う幅が狭まってしまった。
- 利用者と地域の人たちとの交流等の場が無くなった。
- 保育園の、地域での子育て支援の活動の幅・機会が狭まった。
- 法人の職員は、福祉関係者ではあるが医療等の関係者ではないので元々はワクチン接種等優先対象者ではなく、ウイルス感染の危険がある中でどういう立場でサービス利用者に関わっていくか難しいところがあった。
- 父兄に気持ち良く見てもらうため色々な行事が続く中で、外からの目を気にして慌ただしく子どもたちのパフォーマンスの体裁をととのえていく必要が無くなり、それにとらわれなくなったという良い点もあった。
- 保育園では、コロナ禍と、あと保育・教育無償化及び「働き方改革」の3つから大きな影響を受けた。
- 2020年の3月以降、収入減少に伴う相談が多くなり、本来は支援を受けに来るような人ではなかったような方の相談が増えている。
- コロナ禍で外に出られず、地域で孤立してしまった子育ての不安に関する相談も多かった。
- 「緊急事態宣言」等で通所の場がサービス停止となったこと等から「訪問介護」サービスのニーズが急増し、供給体制が圧迫された。
- 「キッチン」部門が一時閉鎖になった影響以外では、コロナ禍でもあまり大きくは変わらなかった。

4 団体が把握している地域福祉課題

- 災害時の問題（防災無線が聞こえず不安であること等）。
- 分野別の「縦割り福祉」から「地域別（対応）」への転換が必要。
- デジタル化が進んで“情報格差”が生じ始めたこと。
- 市長談話等の動画に手話通訳のワイプ等がなく、バリアを感じる。
- コロナ禍で多くの高齢者が閉じこもるようになった現状にどう対応していくか、皆で企画して対応を進めていく必要がある。
- 各団体の活発な活動を続けていくためには構成メンバーが、意識改革によりスマートフォンに慣れるなどして、ツールを活用しながら自身の健康を保っていくことが必要になる。
- 団体の存在を多くの人に認識してもらえよう、広報活動が重要。
- 「災害ボランティアネットワーク」はあまり知られていないが、その根本として、地域への転入者はあるものの若い人達の意識が従前とは変わっていて、自治会活動自体に勢いが無い事があり、地域をプロモートしていく人・組織が必要である。
- 逗子市は、地形も案外起伏に富み、池子地区だけでも結構多様であるのを初め、構造が複雑である。
- （貧困等で）困っている子どもが相当数いるが、なかなか簡単には分からない。
- 自治会役員や民生委員児童委員は、根気強い活動が必要と思われる。
- 「アンテナを張れる」ような人材が、地域にたくさんできることが重要（「芋煮会」の効果的な開催など、沼間三丁目自治会に1つの好事例がある）。
- “世代間の融合”の方策を考えていくことが地域の課題である。
- 世代間の交流の促進が一層重要になる。
- 地域の中で「顔の見える関係づくり」を、もっと進める必要がある。
- 防災体制の一層の整備が不可欠である。
- 生活等の課題の複雑化・複合化が進行。
- 「地域包括支援センター」に本来求められていた、高齢者だけでない各分野の「総合相談」の機能等が改めて要求されるような形勢になってきているため、どう対応していくかが課題となるだろう。市が大きな方向性を考えることが、“見せ方”も含めて大切になると思う。
- 人材不足の課題に対して、人材派遣を活用して対応していくという方向がよいのではないかと考える。
- 民生委員児童委員の補佐を、地域の中の「普通」の住民が務める仕組みにし、活動の細分化を図るなどすると良いと考える。
- 民生委員児童委員の定年を撤廃するなどの努力を行っており、上記のような“サブ”の活動者を持つ制度も実際にあるがそのような委員はまだおらず、課題になっている。
- 「住民自治協議会」と民生委員児童委員の連携も、大切な課題である。
- 自治会が果たす役割は大きいですが、役員が単年度で代わっていくことなどの課題がある。
- 地域福祉の好事例を全市で共有できるような情報の提供が重要と思う。
- 自治会などは、形だけの取組みを繰り返しているだけでなく地域の生活課題等を吸い上げる努力をするなどし、もう少し深く携わっていくことが課題。
- 困っている人は、多くの場合そのように「困っている」とは言わないことが課題である。
- 「福祉」「ボランティア」というのは相手あってのもので、押し付けでは駄目である。

《資料編》

逗子市の地域福祉に関する市民意識調査
～調査の趣旨とご協力のお願い～

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
逗子市では、地域住民が“支える側”“支えられる側”という関係を超えて、互いを尊重し共に生きることを基盤とした「地域共生社会」の実現に向けて、逗子市社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画と一体的に、2023年度（令和5年度）を初年度とした次期「逗子市福祉プラン」「逗子市地域福祉計画」を策定します。
市民のみならず、近所との関わりや地域での助け合いについての考え方、市の福祉に関する取り組みへのご意見等についてお聞かせいただき、次期計画に反映させるため、逗子市内の18歳以上の方の中から2,000人を無作為に選び、アンケート調査を実施させていただきます。

今般のコロナ禍において、これまでと生活が大きく変わられた方が多くいらっしゃるかと思います。現状についての率直なご意見をぜひお聞かせくださいませう、お願いいたします。

ご記入いただいた内容については、すべて統計的に処理いたしますので、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が他に漏れたりすることは一切ございません。おにしいところ大変恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

2021年（令和3年）10月

逗子市長 桐ヶ谷 寛

【ご記入にあたってのお願い】

- このアンケートは、**あて名に記載されているご本人**がご回答ください。
なお、ご本人による記入が困難な場合は、ご家族等の方がご本人の意思を反映のうへ、ご記入くださるようお願いいたします。
- 質問には、**2021年（令和3年）9月1日現在**の内容でご回答ください。回答は、あてはまる選択肢の番号を○印で囲む形式をとっていますが、選択肢や質問によって具体的な内容を書いていただくものもあります。
- ご記入済みの調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**11月24日（木）まで**に、投函してください。
- あて名の方が不在等で回答ができない場合は、下記の該当番号に○を付けて、この調査票をそのまま返信用封筒（切手不要）に入れ、期限までにポストに投函してください。

1 入院・入所中 2 長期不在 3 その他の事情

- このアンケートについてのお問い合わせは、下記へお願いいたします。また、ご記入にあたってお困りの方は、遠慮なくご相談ください。

逗子市 福祉部 社会福祉課 担当：山本・眞石
電話：046-873-1111（内線212・213） FAX：046-873-4520

◎「地域福祉」とは…？

地域で暮らす皆さんが、支える、支えられるという立場を超えて、誰もがそれぞれに役割を持ち、自分らしく、より良く生きられるための取り組みが、「地域福祉」です。
私たちが暮らす「地域」は、少子高齢化やコミュニケーションの変化などにより、生活の困りごとが多様化しています。
多様化する地域の課題を解決・改善し、誰もが安心して暮らせる「福祉のまちづくり」をめざすため、市民の皆さんと逗子市・逗子市社会福祉協議会などが連携・協力し、取り組んでいきます。

◎逗子市がめざす「地域福祉」

逗子市では、市の今後のあるべき姿として、

共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち

という将来像を掲げて取り組みを進めているところです。逗子に生まれ、育ち、暮らしていく人生のステージにおいて、優しく思いやりの心を育み、地域全体で市民の皆さんが支え合い・助け合いに取り組むことをめざしています。



◇地域のことや、日ごろ感じる生活課題などをいちばんよく知っている、地域の皆さんの参加と協力が重要です！

あなたのことについて

- 問1 あなたの性別をお答えください。（1つに○）
- 1 男性 2 女性 3 その他・回答しない
- 問2 あなたの年齢をお答えください。（2021（令和3）年9月1日現在の満年齢）（1つに○）
- 1 18、19歳 2 20～24歳 3 25～29歳
4 30～34歳 5 35～39歳 6 40～44歳
7 45～49歳 8 50～54歳 9 55～59歳
10 60～64歳 11 65～69歳 12 70～74歳
13 75～79歳 14 80～84歳 15 85歳以上
- 問3 あなたの職業をお答えください。（**主なもの1つ**に○）
- 1 会社員・公務員 2 自営業 3 パート・アルバイトなど
4 家事専業 5 学生 6 無職
7 その他（ ）
- 問4 あなたの世帯構成をお答えください。（1つに○）
- 1 ひとり暮らし 2 夫婦のみ 3 二世帯世帯（親と子）
4 三世帯世帯（親と子と孫） 5 その他（ ）
- 問5 現在、あなた自身、もしくはあなたと同居しているご家族の中に、次のような人はいらっしゃいますか。（**あてはまるものすべてに○、いない場合は8に○**）
- 1 乳児（1歳未満） 2 乳児を除く小学校入学前の幼児
3 小学生 4 中学生・高校生
5 65歳以上の人 6 介護認定を受けている人
7 身体、知的、精神などの障がいのある人 8 1～7のいずれにもあてはまらない
- 問6 あなたのお住まいの地域をお答えください。丁目もお答えください。（1つに○をし、**丁目**を記入）
- 1 逗子（ ）丁目 2 桜山（ ）丁目 3 沼間（ ）丁目
4 池子（ ）丁目 5 山の根（ ）丁目 6 久木（ ）丁目
7 小坪（ ）丁目 8 新宿（ ）丁目
- 問7 あなたのお住まいの地域での居住年数をお答えください。（1つに○）
- 1 1年未満 2 1～4年 3 5～9年
4 10～19年 5 20～29年 6 30年以上

地域での生活について ①近所との関わりについて

- 問8 あなたは、日ごろ、近所の人とどのような付き合いをしていますか。（1つに○）
- 1 困りごとや悩みごとを相談したり、助け合ったりする
2 困りごとや悩みごとを相談したり助け合ったりはしないが、親しく会話する
3 たまに立ち話をする
4 会えばあいさつをかわす
5 その他（ ）
6 **つきあいがほとんどない**
- 問8で「6」と答えられた方におうかがいします。
- 問8-1 その理由は何ですか。（**あてはまるものすべてに○**）
- 1 時間的余裕がない 2 仕事などで家にいることが少ない
3 人との距離感を保ちたい 4 生活の時間帯が合わない
5 世代間の隔りがある 6 近所の人間関係が良くない
7 近所づきあいに必要性を感じない 8 近所づきあいをするきっかけがない
9 その他（ ）
- 問9 近所づきあいについて、あなたのお考えに最も近い内容はどれですか。（1つに○）
- 1 日ごろから、相談に乗ったり家事を手伝うなど、助け合いたい
2 何か問題が起こったときに助け合えるよう、心がけていたい
3 いざという時のために、顔や名前を知っておきたい
4 近所づきあいは大事と思うが、どちらかというとあまりしたくない
5 プライバシーの尊重を第一に、極力干渉し合わない方がよい
6 近所づきあいは必要ない
7 その他（ ）
- 問9で「1」「2」「3」と答えられた方におうかがいします。
- 問9-1 あなたは、近所の手助けが必要な人に対し、どのようなことができますか。（**あてはまるものすべてに○**）
- 1 日常の見守りや声掛け 2 困りごとがあるときは相談に乗る
3 買い物やごみ出しなどの代行 4 外出の手助け
5 留守中の家族の見守り 6 いざという時に助ける
7 その他（ ） 8 支援はできない・しない
- 問10 もしあなたが、近所の人に手助けしてもらったら、どのようなことをしてほしいですか。（**あてはまるものすべてに○**）
- 1 日常の見守りや声掛け 2 困りごとがあるときに相談に乗ってもらう
3 買い物やごみ出しなどの代行 4 外出の手助け
5 留守中の家族の見守り 6 いざという時に助けてもらう
7 その他（ ） 8 支援は必要ない

問 11 今後、地域での助け合いを推進していくために、住民の一人としてあなたができることは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1 日ごろから近所とのつながりを持つように心がける
2 できるだけ地域での出来事に関心を持つ
3 地域に住む住民同士が助け合おうという意識を深める
4 市や社会福祉協議会(→9ページ)で開催される学習会、講座などに参加する
5 地域での交流活動に参加する
6 地域でのボランティア活動に参加する
7 学校行事などの家族に関する活動には積極的に参加する
8 その他()
9 特になし

問 12 お住まいの地域で、あなたが気になっていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 あいさつや声掛けが十分でない
2 地域や世代間の交流が十分でない
3 地域活動が活発でない
4 気軽に集まれる場が少ない
5 子育てへの住民の理解が十分でない
6 障がいのある人への住民の理解や見守りの体制に不安がある
7 ひとり暮らし高齢者の見守り体制に不安がある
8 認知症の人への住民の理解や見守りの体制に不安がある
9 防犯や交通安全に不安がある
10 近所に買い物ができる場所がない・少ない
11 災害などの緊急時の対応に不安がある
12 健康や予防に関する住民の意識が十分でない
13 その他()
14 特になし

問 13 地域における困りごと(防犯、買い物、見守り、災害、交流など)の解決方法について、あなたのお考えに最も近い内容はどれですか。(1つに○)

1 できるだけ市や近所の人に頼らず、困りごとなどは自分で解決していくのがよい
2 地域の住民が互いに協力し、困りごとなどを解決していくのがよい
3 市と地域の住民が協力し、困りごとなどを解決していくのがよい
4 市が積極的に関わり、地域の住民の困りごとなどを解決していくのがよい
5 その他()
6 わからない

問 14 あなたの近所に、困りごとを抱えていて行政(市・県など)や地域の支援が必要だと感じる人はいますか。(1つに○)

1 いる	2 いない	3 わからない・判断できない
------	-------	----------------

問 14で「1」と答えられた方におうかがいします。

問 14-1 それはどのような人ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人	2 高齢や障がい・病氣により介護が必要な人
3 医療が必要な人	4 福祉や介護のサービスが不足している人
5 子育てに困っている人	6 経済的に困っている人
7 ひきこもりの人	8 近所から孤立している人・世帯
9 その他()	10 わからない

地域での生活について ②災害に備えて

問 15 あなたは、災害時に備え、日ごろから避難路や避難方法を確認していますか。(1つに○)

1 確認している	2 確認していない
----------	-----------

問 16 あなたは、災害時に自分や家族だけで避難することができると考えますか。(1つに○)

1 自力で避難できると思う	2 自力では避難できないと思う	3 わからない
---------------	-----------------	---------

問 16で「2」と答えられた方におうかがいします。

問 16-1 自力で避難できないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 自身の身体状況などにより自力では難	2 家族の状況(高齢者、障がい者、乳幼児などがある)により自力では難しい
3 避難地・避難所が遠い	4 避難地・避難所がわからない
5 緊急事態の情報が入らない	6 その他()

問 17 あなたは、「選子市避難行動要支援者避難支援制度」を知っていましたか。(1つに○)

1 知っていた	2 知らなかった
---------	----------

※「避難行動要支援者避難支援制度」
…高齢者や障がいのある人など、災害時に支援を必要とする人(避難行動要支援者)を、本人の同意に基づいてあらかじめ特定し、「誰が支援し、どこに避難させるか」を決めておいて、その情報を共有することにより、いざという時に地域の中で安否確認や避難支援などを行える支援体制づくりをめざす仕組みです。

問 18 災害発生時に、避難行動要支援者に対してあなたができることは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)


1 安否確認	2 災害状況や避難、救護などに関する情報提供
3 避難所などへの誘導、移動支援	4 その他()
5 できることはない	6 わからない

問 19 災害時に備えるなどの理由で、地域にお住まいの人の情報を必要に応じて自治会・町内会などで共有することについて、あなたのお考えに最も近い内容はどれですか。(1つに○)

1 日ごろから地域での見守り活動などのために、情報を共有した方がよい
2 災害時など緊急の場合の活用に限って、情報を共有した方がよい
3 個人情報なので、災害時など緊急の場合でも情報は共有しない方がよい
4 その他()
5 わからない

問 20 あなたは、災害に備え、地域でどのような準備が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1 隣近所での避難場所や避難方法について、話し合っておく
2 隣近所での、住民同士の日ごろのつながりや助け合い
3 高齢者や障がいのある人など、支援を必要とする人たちの把握と支援体制の整備
4 災害時に役立つ専門技術や知識を持つ人材の育成
5 防災教育・訓練の実施
6 心臓蘇生法、応急手当などの救命講習会の開催
7 地域の行事などでの防災意識の啓発
8 その他()



地域での生活について ③困りごとについて

問 21 あなたは、日常生活についてどのような悩みや困りごとがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 子育てのこと	2 健康のこと	3 介護のこと
4 住まいのこと	5 仕事のこと	6 家族のこと
7 収入や家計のこと	8 近所づきあいのこと	9 防犯や交通安全などの安全面
10 災害など緊急時の対応	11 外出時の移動手段	12 家事・片付けなどのこと
13 銀行などの各種手続き	14 老後・将来のこと	15 その他()
16 特になし		

問 22 悩みや困りごとがあったときに、あなたが相談する人または場所はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1 近所の人	2 友人・知人
3 自治会・町内会の人	4 民生委員・児童委員
5 ボランティアやNPOなどの民間団体	6 医療関係者(医師・看護師など)
7 介護事業者(ケアマネジャーなど)	8 保育園・幼稚園・学校の先生
9 行政機関(市・県・保健所など)	10 社会福祉協議会
11 地域包括支援センター	12 障がい者相談支援事業所
13 子育て支援センター・はっとスペース	14 療育教育総合センター
15 駐在所・交番	16 インターネット上の相談コーナー
17 身内(家族・親族)	18 その他()
19 どこに相談したらよいか分からない	20 相談しない

問 23 いわゆるコロナ禍によって、現在までに、あなた自身の日常生活にどのような影響がありましたか。(最も影響があったもの3つまで○)

1 収入の減少	2 人と接する機会の減少
3 会社などの経営状況の悪化	4 家庭内の不和
5 趣味の機会の減少	6 地域活動の減少や休止
7 通勤、通学、通院などの移動制限	8 健康状態の悪化
9 その他()	10 特にはなかった

問 23で「1」～「9」のいずれかを答えられた方におうかがいします。

問 23-1 その影響は、コロナ禍以前からみられたものですか。(○は2つまで)

1 以前からみられた影響がより深刻に	2 ほぼコロナ禍により新しく発生した影響
3 何ともいえない・判断が難しい	4 その他()

地域での活動について

問 24 あなたは地域活動に参加していますか。(1つに○)

※この質問で「地域活動」とは、「地域を基盤とした既存の住民組織による、地域に限定した活動」をいふこととします。

- 1 参加している 2 参加していない

問 24で「1」と答えられた方におうかがいします。

問 24-1 どのような活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 自治会・町内会 2 子ども会 3 老人クラブ(スシブ)
 4 消防団・自主防災組織 5 住民自治協議会 6 サロン活動
 7 お互いさま活動 8 PTA 9 スポーツ活動
 10 その他()

問 24-2 地域活動に参加している理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 行事や活動の内容に興味や関心があるから
 2 近所との交流が促されるから
 3 地域に貢献したいから
 4 大勢で活動するのが楽しいから
 5 子どもの頃に活動に参加して楽しかったから
 6 近所の人や知り合いに誘われるから
 7 いざという時の関係づくりのため
 8 時間に余裕があるから
 9 その他()

問 25 コロナ禍において、地域活動や地域行事を再開または自粛することについて、あなたのお考えに最も近い内容はどれですか。(1つに○)

- 1 感染症予防対策を十分に行い、対面での活動を再開する
 2 感染症予防対策を十分に行い、対面での活動とオンラインを併用して、再開する
 3 感染症予防対策を十分に行いながらも、対面での活動は避け、基本的にオンラインを活用するなどして再開する
 4 希望する国民へのワクチン接種が終わるまでは、対面での活動は自粛を継続する
 5 コロナ禍が完全に収束するまで、対面での活動は自粛を継続する
 6 その他()
 7 よくわからない・判断できない

問 26 あなたは、ボランティア活動をしていますか。(1つに○)

- 1 現在活動をしている
 2 以前活動したことがあるが、現在はしていない
 3 一度もしたことがない

問 26-4へ

問 26で「1」と答えられた方におうかがいします。

問 26-1 それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 子ども・子育て関係の活動 2 青少年関係の活動
 3 福祉関係(高齢者、障がい者など)の活動 4 自然保護・環境問題関係の活動
 5 地域の文化・伝統保全の活動 6 まちづくり・まちおこしの活動
 7 老人クラブ活動 8 芸術・文化関係の活動
 9 スポーツ・健康づくり関係の活動 10 災害支援・防災活動
 11 防犯・交通安全関係の活動 12 その他()

問 26-2 主な活動場所はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 自宅 2 お住まいの地域(自治会・町内会の範囲)
 3 市内(1、2を除く) 4 近隣市町(横浜市、鎌倉市、横浜興市、栗山町)
 5 その他()

問 26-3 活動に参加した理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 社会貢献のため 2 仲間づくりのため
 3 勉強の場・機会として 4 心身の健康維持のため
 5 家族や自分のため 6 人に誘われたため
 7 その他()

問 26で「2」または「3」と答えられた方におうかがいします。

問 26-4 活動していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 仕事や家庭の事情 2 一緒に活動する仲間がいない
 3 参加したい団体・サークルなどがない 4 どのような団体・サークルなどがあるか分からない
 5 職場などで団体・サークルなどに参加している
 6 活動を始めるきっかけがない
 7 活動に必要な技術・経験がない 8 健康上できない
 9 関心がない 10 活動内容が合わなかった
 11 コロナ禍により活動ができなくなった 12 その他()

社会福祉協議会について

問 27 あなたは、「逗子市社会福祉協議会[※]」を知っていましたか。(1つに○)

- 1 知っていた 2 知らなかった

※逗子市社会福祉協議会

…逗子の地域のために活動する、公共性・公益性のある社会福祉団体で、地域福祉の向上や福祉事業を推進する役割を持ち、さまざまな福祉活動や福祉サービス、福祉教育の取組み(※)を行っています。
 ※地域に暮らすさまざまな状況の方々(多様性)について理解し、共に暮らすための地域づくりについて、自らの気づきを促し協働実践を増やす取り組みです。学校・地域での各種啓発や講座などを実施しています。

問 28 逗子市社会福祉協議会では、さまざまな地域福祉活動を実施しています。

(1) あなたが知っていた活動はありますか。

(2) あなたがすでに協力している、または今後協力してみたい活動はありますか。

実施中の活動を一覧にした下記の回答欄の中で、該当する欄に○印を記入してご回答ください。

項目(地域福祉活動)	(1) 認知	(2) 参加・協力
	知活動内容について聞いたことがあつた	現在参加・協力しているか、協力したいか
① お互いさまサポーター(地域での見守り活動やニーズ対応など)		
② 高齢者のサロン(集いの場)活動		
③ 小中学校での福祉学習		
④ 福祉教育セミナー(地域の福祉を学ぶ研修会)		
⑤ サマースクール		
⑥ 地域支え合い学習会		
⑦ ボランティア活動の推進(相談・育成)		
⑧ フードドライブ(食糧支援)活動		
⑨ 子育て応援紙「陽だまり」		
⑩ 陽だまりサークル(ちびっこママのためのリフレッシュ講座)		
⑪ イベント保育サポーター		
⑫ フレンドリーヘルパー(高齢者・子育て世帯対象)		
⑬ 災害に関する活動(災害ボランティアセンター設置運営、防災マップ作りなど)		
⑭ 広報紙「さくら貝」発行		
⑮ 「地域福祉活動計画」の策定		
⑯ 赤い羽根共同募金		
⑰ その他(※)		

※(1)か(2)のどちらか、または両方について「⑰ その他」に回答した場合、以下の欄に具体的な内容を記入してください。

- (1) ()
 (2) ()

地域の福祉制度と取組みについて ①権利擁護

問 29 あなたは、「日常生活自立支援事業(逗子あんしんセンター)[※]」を知っていましたか。(1つに○)

- 1 知っており、あなた自身もしくはご家族が利用したことがある
 2 知っていたが利用したことはない
 3 名前は聞いたことがある
 4 全く知らなかった

※「日常生活自立支援事業」

…認知症の人、障がいなどのある人で判断能力が不十分な人が、地域で自立した生活を送れるよう、社会福祉協議会が本人と契約したうえで共に「支援計画」を立て、福祉サービス利用の申込み、日常的なお金の出し入れ、預金通帳の管理などの手助けをする事業です。利用に際しては、原則、費用(本人負担)がかかります。逗子市では、逗子市社会福祉協議会が「逗子あんしんセンター」として実施しています。

問 29で「2」「3」「4」と答えられた方におうかがいします。

問 29-1 あなた自身もしくはご家族が必要になったときに、利用したいと思いますか。(1つに○)

- 1 利用したい 2 利用したくない 3 わからない

問 30 あなたは、「成年後見制度[※]」を知っていましたか。(1つに○)

- 1 知っており、あなた自身もしくはご家族が利用したことがある
 2 知っていたが、利用したことはない
 3 名前は聞いたことがある
 4 全く知らなかった

※「成年後見制度」

…判断能力が不十分な成年人(知的障がい者、精神障がい者、認知症の高齢者など)が不利益を被らないように家庭裁判所に申し立てをし、その人を援助してくれる人(「後見人」)を付け、財産管理や福祉サービスの利用などを任せる制度です。

問 31 あなたは、財産の管理や契約などについて万一自分自身では判断ができなくなった場合、「成年後見人」に財産管理などを任せることについて、どう思いますか。(1つに○)

1 任せてもよい 2 一部なら任せてもよい
3 任せたくない 4 わからない

問 31で「1」または「2」と答えられた方におうかがいします。

問 31-1 成年後見人には、次の選択肢のような人がなることができます。誰になら、任せても良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1 家族 2 弁護士などの専門職 3 社会福祉協議会やNPO法人
4 市民後見人* 5 その他() 6 わからない

※「市民後見人」
…地域に在住している、必要な研修を受けた人がなる後見人で、専門職ではありません。成年後見人として適切な支援が行えるよう、成年後見制度推進機関が監督を行います。

問 31で「3」と答えられた方におうかがいします。

問 31-2 任せたくないと思う理由は何ですか。(○は2つまで)

1 家庭の中に他人に入ってほしくない 2 制度の内容や手続きの方法がわからない
3 成年後見人に支払う費用負担が心配 4 任せても良いと思う人がいない
5 その他() 6 特に理由はない

問 32 あなたは、虐待を受けていると思われる児童・高齢者・障がい者や、配偶者からの身体的暴力を受けている人を発見した場合には、法律で通報する義務があることを知っていましたか。(1)～(4)の事例それぞれについて、1つに○)

発見した事例(通報先)	知っていた	知らなかった
(1) 虐待を受けていると思われる児童(市役所・児童相談所)	1	2
(2) 虐待を受けていると思われる高齢者(市役所・地域包括支援センター)	1	2
(3) 虐待を受けていると思われる障がいのある人(市役所)	1	2
(4) 配偶者からの身体的暴力を受けている人(市役所・警察)	1	2

※事例ごとの通報先を、参考として()内に示しています。

地域の福祉制度と取組みについて ②生活困窮対策

【参考】「生活困窮者自立支援制度」
…さまざまな理由により経済的に困窮している人に対し、自立に向けた支援を行うことによって、課題が複雑化・深刻化する前に自立の促進を図ることを目的とした制度です。選手市では、その人の状況に応じ、どのような支援が必要かを支援員が一掃に考え、プランの作成を行う自立相談支援のほか、就労に向けた支援、家計の立て直しの支援、住まい確保のための家賃補助などを行っています。

問 33 あなたは、生活困窮者の問題や支援について、どのように思いますか。(1つに○)

1 あなた自身や身近な人に問題を抱える人 2 あなた自身や身近な人に問題を抱える人がいるため、必要な制度であると思う 3 この制度は必要ないと思う 4 生活困窮者の問題や制度に関心がない 5 その他() 6 わからない・判断できない

問 33で「1」または「2」と答えられた方におうかがいします。

問 33-1 生活困窮者の自立支援に向けて、市が行うべき支援として望ましいと思うのは、どのような取り組みですか。(あてはまるものすべてに○)

1 ハローワークなどと連携し仕事をあっせんする 2 職業訓練などの就業支援
3 相談支援窓口の充実 4 家賃を補助するなどの住まいの確保の支援
5 企業などに就労を受け入れるよう働きかける 6 生活再建に向けた貸付を行う
7 給付金などの支給 8 その他()

問 34 地域で生活困窮者を支援する場合、あなたならどのようなことができると思いますが。(あてはまるものすべてに○)

1 自治会・町内会や民生委員・児童委員など市などの専門機関に相談する
2 本人または家族などに相談窓口に行く
3 フードドライブ(食糧支援)など地域のうに促す
4 生活困窮者支援の取り組みに参加する
5 地域での支援は難しいと思う 6 その他()

地域の福祉制度と取組みについて ③地域包括ケア

問 35 あなたは「地域包括支援センター」*を知っていましたか。(1つに○)

1 知っており、あなた自身もしくはご家族が利用したことがある 2 知っていたが、利用したことはない
3 名前を聞いたことがある 4 全く知らなかった

※「地域包括支援センター」
…高齢者が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される体制(地域包括ケアシステム)づくりのための中心的な機関として市が設置しています。総合相談支援、権利擁護、介護予防、認知症関連の取り組みを主たる業務とし、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員などの職種が配置され、市では中学校区(日常生活圏)ごとに東部・中部・西部の地域包括支援センターを設置しています。
また、地域ニーズの把握や多様なサービスとのマッチング、関係者との間のネットワーク構築を行っています。
令和3年度からは、相談支援の対象を、高齢関連のみならず、障がい、子ども、生活困窮、ひきこもりなどの多分野にまたがる複合的な課題を抱える世帯にも拡充しています。

問 35で「1」と答えられた方におうかがいします。

問 35-1 地域包括支援センターへの相談などへの対応について、その満足度をお答えください。(1)～(4)の項目それぞれについて、1つに○)

	とても満足	満足	普通	不満	わからない事例なし
(1) 相談や問合せに対する対応の早さ・速さについて	1	2	3	4	5
(2) 相談や問合せの経過や結果などの状況報告について	1	2	3	4	5
(3) 相談や問合せに対する専門的な見地からの助言・支援について	1	2	3	4	5
(4) 悩みや相談などがしやすい体制について	1	2	3	4	5

問 35-2 地域包括支援センターの次の各取り組みは、十分だと思いますか。(1)～(3)の項目それぞれについて、1つに○)

	十分	まあ十分	どちらともいえない	やや不十分	不十分
(1) センターの役割に関する周知活動について	1	2	3	4	5
(2) 地域の資源(福祉のニーズをみたす団体、人、サービスなど)、市の制度や施策などに関する情報の提供について	1	2	3	4	5
(3) 地域における会合や行事へ参加するなど、関係者との連携体制の構築の動きについて	1	2	3	4	5

地域の福祉制度と取組みについて ④全体について

問 36 あなたは、市内の福祉に関する情報(ボランティア・高齢・介護・子育て・障がい・健康など)を、どの程度入手できていると思われますか。(1つに○)

1 入手できている 2 ある程度入手できている
3 あまり入手できていない 4 全く入手できていない
5 入手する必要がない 6 その他()

問 36で「1」「2」「3」と答えられた方におうかがいします。

問 36-1 あなたは、市内の福祉に関する情報を、どこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

1 市広報誌「広報すし」 2 市社会福祉協議会広報紙「さくら貝」
3 市のホームページ 4 市社会福祉協議会のホームページ
5 市の窓口 6 市社会福祉協議会の窓口
7 自治会・町内会の回覧板 8 市の広報紙
9 ケーブルテレビ・湘南ビーチFM 10 新聞・タウン紙
11 メールマガジン 12 その他()

問 37 あなたは、普段の生活において、どのような方法で情報を入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

1 テレビ・ラジオ 2 新聞・雑誌
3 フリーペーパー・タウン紙 4 ホームページ
5 ブログ 6 メールマガジン
7 フェイスブック(Facebook) 8 ツイッター(Twitter)
9 その他() 10 特になし

問 38 逗子市では、『逗子市福祉プラン』などを策定し、「共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち」を目標に掲げて、5項目の福祉施策を推進しています。以下に記載した各項目の中から、あなたが関心のある項目の回答欄に○印を付け（○はいくつでも）、さらに、その項目についての満足度（各項目につき、1つに○）をお答えください。

項目（太字は目標）	関心・満足度	関心がある	満足度			
			満 足	普 通	不 満 足	わ か ら な い
1 地域福祉について 「その人らしく生きることをお互いに支え合う地域づくり」 福祉教育活動、避難行動要支援者の支援、生活困窮者支援		⇒	1	2	3	4
2 健康や医療について 「保健・医療・福祉が連携した安心・健康長寿の地域づくり」 健康づくり、健診・検診、地域医療		⇒	1	2	3	4
3 高齢者の福祉について 「高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせる地域づくり」 地域包括ケアシステム、介護予防、認知症支援、「生活の質」が持続できるまちづくり		⇒	1	2	3	4
4 障がい者の福祉について 「障がいのある人が安心して自分らしく暮らし続ける地域づくり」 障がいのある子どもへの継続的支援、グループホームなどの居住の場の確保、就労の支援・雇用、障がいの理解		⇒	1	2	3	4
5 子育て支援について 「誰もが安心して豊かに子育てできる地域づくり」 子育てネットワーク、子ども・親子の居場所づくり、子育てと仕事の両立、妊産婦への支援、相談窓口・体制の充実		⇒	1	2	3	4

問 38-1 各項目の目標を実現するために、上記の取り組み以外に、進めた方がよいと思われることがあれば、ご記入ください。

問 39 逗子市では、地域住民が“支える側”“支えられる側”という関係を超えて、互いを尊重し共に生きることを基盤とした「地域共生社会」の実現に向けて、次期「地域福祉計画」などを策定します。

「地域共生社会の実現を進めていくためにはどうしたらよいか」など、ご意見があれば自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手不要）にて、11月24日（水）までに投函してください。



逗子市の地域福祉に関する市民意識調査

報告書

令和4年3月

発行：逗子市

編集：逗子市福祉部社会福祉課 地域共生係

〒249-8686 神奈川県逗子市逗子5丁目2番16号

電話：046-873-1111（代表）